

# 平成26年度業務実績報告書

平成27年6月  
独立行政法人国立美術館

# 目 次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	
(1) 多様な鑑賞機会の提供	3
① 所蔵作品展	3
② 企画展	4
③ 東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等	9
④ 巡回展	11
(2) 美術創造活動の活性化の推進	12
① 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）	12
② 新しい芸術表現への取組	13
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	15
① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等	15
② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実	17
(4) 国民の美的感性の育成	20
① 幅広い学習機会の提供	20
② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業	23
③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動	25
(5) 調査研究成果の美術館活動への反映	26
① 調査研究一覧	26
② 展覧会カタログの執筆	32
③ 研究紀要の執筆	36
④ 館ニュース等の執筆	38
(6) 快適な観覧環境の提供	42
① 高齢者、身体障害者、外国人等への対応	42
② 展示、解説の工夫と音声ガイドの導入	43
③ 入場料金、開館時間等の弾力化	44
④ キャンパスメンバーズ制度の実施	46
⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実	47
2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承	
(1) 美術作品の収集	49
(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等	52
① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応	52
② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実	53
(3) 所蔵作品の修理・修復	54
(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究	55
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	
(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信	59
① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信	59
② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催	76
(2) 国内外の美術館等との連携	80
① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築	80
② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力	87

③ その他海外の美術館との連携・協力	88
(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換	88
(4) 所蔵作品の貸与等	88
① 作品の貸与	88
② 映画フィルムの等の貸与	89
(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動	90
① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施	90
② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発	91
(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成	91
(7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築	92
① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究	92
② キュレーター研修	93
(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動	93
① 国際フィルム・アーカイブ連盟（F I A F）の正会員としての活動	93
② 日本映画情報システムの運営	93
③ 所蔵映画フィルム検索システムの拡充	94
④ 映画関係団体等との連携	94
⑤ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討	94

## II 業務運営の効率化

1 業務の効率化のための取組	95
(1) 各美術館の共通的な事務の一元化	95
(2) 使用資源の削減	95
(3) 美術館施設の利用推進	98
(4) 民間委託の推進	98
(5) 競争入札の推進	99
2 事業評価及び職員の研修等	100
3 管理情報の安全性向上	100
4 人件費の抑制，給与体系の見直し	100

## III 予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画

1 予算	102
2 収支計画	103
3 資金計画	104
4 貸借対照表	104
5 短期借入金	104
6 重要な財産の処分等	105
7 剰余金	105
8 人事に関する計画	106
9 施設整備に関する計画	107
10 関連公益法人	107

(別紙1) 公益調達の適正化（財計第2017号）等に即した実施状況

(別紙2) 独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

# I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

## 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

### (1) 多様な鑑賞機会の提供

#### ① 所蔵作品展

館名	開催日数	展示替回数	入館者数	目標数
東京国立近代美術館（本館）【注1】	288	5	171,220	150,000
東京国立近代美術館（工芸館）【注2】	203	3	56,276	23,000
京都国立近代美術館【注3】	215	4	105,127	131,500
国立西洋美術館【注4】	258	3	204,761	257,000
国立国際美術館【注5】	273	3	87,931	59,000
計	1,237	18	625,315	620,500

【注1】開催日数が当初予定の267日から変更となった。

【注2】開催日数が当初予定の161日から変更となった。

【注3】暴風警報発令により臨時休館した（8月10日）。また、当初館内改修工事のため12月1日から3月30日まで全館休館を予定していたが、年度末に特別開館を実施した（3月27日、3月28日、3月29日）。そのため、開催日数が当初予定の213日から変更となった。

【注4】工事のため常設展示室のみ閉室した（3月3日から3月15日まで）。また、桜花期に臨時開館した（3月30日）。そのため、開催日数が当初予定の269日から変更となった。

【注5】台風接近により臨時休館した（8月10日、10月13日）ため、開催日数が当初予定の275日から変更となった。

#### 各館の特徴

##### ア 東京国立近代美術館

###### (本館)

平成24年度に実施した10年ぶりのリニューアルの成果を踏まえ、引き続きコレクションの特徴を活かしつつ、新収蔵品の活用や研究成果のいち早い公開を積極的に行っている。平成25年度に引き続き特集展示として4-3階すべてを用いた大規模特集「何かがおこってる：1907-1945の軌跡」及び「何かがおこってる：1923, 1945, そして」を実施したほか、「菱田春草展」や「奈良原一高 王国」等の企画展との連動も積極的に図り、4階から1階まで、全館を通して来館者の満足度を向上させるよう努めた。

###### (工芸館)

夏季の「こども+おとな工芸館—もようわくわく」展は、「模様」について子どもと一般来館者が共に楽しみながら学習することを目的に、幾何学模様や植物模様、古典模様等の6章構成とし、その中で模様の歴史や模様の多様性、さらに模様という造形が成立するために要する物理化学作用についても紹介した。「近代工芸案内—名品選による日本の美」展では、約3,450点の所蔵作品の中から、特に近年収蔵した重要な作品を活用し、歴史的な発展を追いつつ、万博など主要なトピックで特集を組むという構成で、近代工芸の名品を展示した。

##### イ 京都国立近代美術館

引き続き、展覧会とコレクションの連動という視点から、「特集展示：上村松篁ゆかりの作家たち」や、「キュレトリアル・スタディズ07：日本近代洋画と浮世絵—鏡としてのジャポニスム」等、企画展に関係するテーマを掲げた特集展示や小企画を開催した。また、「生誕135年記念 富田溪仙特集」等、京都で活躍した作家の生誕記念などの機を捉え、所蔵作品による小規模な個展を開催するなど、所蔵作品の有効活用について常に配慮しながら充実した展示を構成した。

## ウ 国立西洋美術館

常設展では、国立西洋美術館の所蔵作品から約 170 点の絵画・彫刻を選んでおおむね時代順に配列し、中世末期から 20 世紀までの西洋美術の流れを辿ることのできる展示を行った。また、版画素描展示室では、計 3 本の小企画展を開催し、素描・版画コレクションの多様な側面を紹介した。

そのほか平成 26 年度は、「ジャック・カローリアリズムと奇想の劇場」や「橋本コレクション 指輪 神々の時代から現代まで ― 時を超える輝き」など、企画展示室において本館の所蔵品を用いた展覧会が続き、ルノワール《アルジェリア風のパリの女たち》など、通常は常設展示の要となる所蔵絵画作品も多数そこに加えられ、新たなコンテクストのもとに展示された。

## エ 国立国際美術館

引き続き、コレクション展の会期ごとに作品を入れ替え、特別展の展示内容と関連付ける等の工夫を行っている。平成 26 年度は、「ジャン・フォートリエ展」の会期に合わせ、コレクションⅡにおいて同時代の作品を「アンフォルメルとその周辺」として展示した。これによって、流行の波に押されてしまい、紹介される機会の少なくなっている彫刻に焦点を当て、その歴史をジャンル別に回顧することができた。一方、コレクションⅢでは、所蔵作品の中から国内外の名品を集め、「記憶」、「夢」、「幻想」、「言葉」など、いくつかのキーワードと関連づけながら、複数の小規模な個展形式の展示によって戦後の美術の流れを概観した。また、阪神・淡路大震災 20 周年にちなみ、震災直後に撮影された米田知子の写真作品等の展示を行った。

## ② 企画展

企画展は、来館者のニーズに応え、以下の観点に留意して実施した。

- イ 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。
- ロ 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。
- ハ メディアアート、アニメ、建築、ファッションなど我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。
- ニ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組む。
- ホ その他

※以下の表の（ ）内は会期全体の数値，（継続）は平成 27 年度に継続開催する展覧会

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
東京国立近代美術館（本館）	①映画をめぐる美術―マルセル・ブローターズから始める	36	9,000	10,000	ロ，ハ	京都国立近代美術館
	②現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより	57	36,601	37,000	イ，ロ	ヤゲオ財団（台湾）
	③菱田春草展	37	120,570	110,000	ニ，ホ	日本経済新聞社，NHK，NHKプロモーション

館名	展覧会名	開催 日数	入館者数	目標数	企画 趣旨	共催者
	④奈良原一高 王国	86	31,618	20,000	ニ	
	⑤高松次郎ミステリーズ	74	20,184	18,000	イ, ロ, ニ	
	計	290	217,973	195,000		
東京国立 近代美術 館(工芸館)	①青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで	63	11,741	12,000	ホ	NHK, NHKプロモ ーション
	②中村ミナトのジュエリー：四角・球・ 線・面【注1】	33 (51)	6,222 (継続)	5,000 (8,500)	イ	
	③大阪万博 1970 デザインプロジェク ト【注2】	12 (55)	2,854 (継続)	5000 (25,000)	ニ	
	計	108	20,817	22,000		
京都国立 近代美術 館	①Future Beauty 日本ファッション： 不連続の連続	38 (47)	24,106 (27,471)	30,000 (35,000)	ハ	公益財団法人京都服飾 文化研究財団
	②チェコの映画ポスター テリー・ポス ター・コレクションより【注3】	38 (47)	23,366 (26,969)	23,000 (28,000)	ロ	東京国立近代美術館フ ィルムセンター
	③上村松篁展	36	41,657	30,000	ホ	日本経済新聞社, 京都 新聞
	④うるしの近代——京都, 「工芸」前夜 から【注4】	31	17,676	8,000	ロ, ニ	京都新聞
	⑤ホイッスラー展	59	57,250	120,000	イ	NHK京都放送局, N HKプラネット近畿, 京都新聞
	⑥現代美術のハードコアはじつは世界の 宝である展 ヤゲオ財団コレクションよ り	1 (55)	219 (継続)	350 (20,000)	ハ	東京国立近代美術館, ヤゲオ財団(台湾)
	計	165	140,908	188,350		
国立西洋 美術館	①ジャック・カローリアリズムと奇想の 劇場	60	57,701	33,000	ホ	読売新聞社
	②非日常からの呼び声 平野啓一郎が選 ぶ西洋美術の名品				ロ	
	③橋本コレクション 指輪 神々の時代 から現代まで — 時を超える輝き	62	88,133	102,000	ロ	東京新聞
	④日本・スイス国交樹立 150 周年記念 フェルディナント・ホドラー展	81	100,294	180,000	ニ	NHK, NHKプロモ ーション
	⑤グエルチーノ展 よみがえるバロック の画家【注5】	26 (81)	24,698 (継続)	28,000 (88,000)	ニ	ボローニャ文化財・美 術館特別監督局, チェ ント市, TBS
	計	229	270,826	343,000		

国立国際 美術館	①アンドレアス・グルスキー展	38 (88)	39,637 (72,534)	12,000 (27,000)	イ	読売新聞社, 読売テレビ
	②ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉【注6】	97	26,543	26,000	ホ	
	③ジャン・フォートリエ展【注7】	61	18,397	23,000	ホ	毎日新聞社, MBS, 東京新聞
	④フィオナ・タン まなざしの詩学	75	15,902	12,000	イ	朝日新聞社
	計	<b>271</b>	<b>100,479</b>	<b>73,000</b>		
国立新美 術館	①中村一美展	43 (55)	16,473 (18,939)	10,000 (13,000)	ロ	
	②イメージのカー国立民族学博物館コレ クションにさぐる	61 (97)	45,056 (59,767)	20,000 (32,000)	ロ	国立民族学博物館
	③魅惑のコスチューム：バレエ・リュス 展	67	74,067	67,000	イ, ロ, ニ	TBS, オーストラリ ア国立美術館, 読売新 聞社
	④オルセー美術館展 印象派の誕生 —描くことの自由—	92	696,442	455,000	イ	オルセー美術館, 読売 新聞社, 日本テレビ放 送網
	⑤チューリヒ美術館展—印象派からシュ ルレアリスムまで	72	300,086	232,000	イ	朝日新聞社, テレビ朝 日, BS朝日
	⑥未来を担う美術家たち 17th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研 修の成果	27	13,906	10,000	ハ	文化庁, 読売新聞社, アート・ベンチャー・ オフィス ショウ
	⑦平成26年度〔第18回〕文化庁メディ ア芸術祭	11	43,660	45,000	ハ	主催：文化庁メディア 芸術祭実行委員会（文 化庁, 国立新美術館）
	⑧ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗 画にみるヨーロッパ絵画の真髄	33 (89)	215,349 (継続)	98,000 (263,000)	イ	ルーヴル美術館, 日本 テレビ放送網, 読売新 聞社
	⑨マグリット展	6 (86)	21,394 (継続)	12,000 (170,000)	イ	ベルギー王立美術館, 読売新聞社, TBS
	計	<b>412</b>	<b>1,426,433</b>	<b>949,000</b>		
合計		<b>1,475</b>	<b>2,177,436</b>	<b>1,770,350</b>		

【注1】桜花期に臨時開館した（3月23日）ため、開催日数が当初予定の32日から変更となった。

【注2】桜花期に臨時開館した（3月23日）ため、開催日数が当初予定の11日から変更となった。

【注3】コレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため、開催日数、入館者数及び目標数はそれぞれの合計に含めない。

【注4】暴風警報により臨時休館した（8月10日）ため、開催日数が当初予定の32日から変更となった。

【注5】桜花期に臨時開館した（3月30日）ため、開催日数が当初予定の25日から変更となった。

【注6】台風接近により臨時休館した（8月10日）ため、開催日数が当初予定の98日から変更となった。

【注7】台風接近により臨時休館した（10月13日）ため、開催日数が当初予定の62日から変更となった。

## 各館の特徴

### ア 東京国立近代美術館

#### (本館)

「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」は、世界トップクラスとされるヤゲオ財団のコレクションから、40作家74点の作品を選び、「ミューズ」「崇高」「記憶」といった易しいキーワードを使って10章で構成した。各章では、美学・芸術学的な解説にあわせて、文化経済学的な解説も掲出。また同コレクションが、財団理事長を務めるピエール・チェンの個人コレクションという性格を併せ持つことに鑑み、ミュージアム・ピースの作品だけでなく、個人ならではの視点が見える作品も含めて展覧会を構成した。結果、美術作品が宝として認識されるようになるにはどのようなプロセスがあるのかという視点に加え、アジアと欧米、個人と組織、芸術学と経済学といった、美術にまつわる複数の視点を来館者に提示することができた。

生誕140年を記念して開催した「菱田春草展」では、重要文化財4点、「落葉」連作5点すべてに加え、《黒き猫》及び、その関連作、さらには準備過程での新発見作品や、数十年ぶりに再発見した作品など、108点のきわめて充実したラインナップが実現した。日本近代絵画史の重要人物ながら網羅的紹介には困難が付きまとう画家の回顧展であったため、このきわめて貴重な機会を今後の春草研究の礎とし、さらには広く近代日本画の研究に寄与させるべく、多彩なアプローチにより春草が目指した日本画革新の様相を考察した。

#### (工芸館)

「青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで」では、時代を超えて多くの人々を魅了してやまない「青磁」に焦点を絞り、歴史的な名品から現代作家の最新作までを3部構成で紹介し、その魅力に迫った。普段は古陶磁なら古陶磁、近・現代陶なら近・現代陶というように、歴史を区切って紹介されることが多いが、創作の原点となる古陶磁から近代の物故作家によるその写しの作品、さらに現代作家による創作性を重視した作品へ、という歴史的な流れを見せることで、その繋がりや深さや「青磁」という一つの技術・技法の中における表現の多様性を示した。特に現代をテーマとした第3章においては、器に限らず、器の姿を借りた造形や純然たるオブジェなど、さまざまなフォルムを持つ作品を紹介することで、作家の思考の奥深さと表現の幅広さを伝えることができた。

### イ 京都国立近代美術館

「うるしの近代——京都、「工芸」前夜から」では、独自のものづくりを脈々と受け継いできた京都の漆芸界の動向にスポットを当てることで、これまで一般にはほとんど知られていなかった近代漆芸の一側面を紹介し、常に東京の動向と一体に語られてきた近代工芸史を見直すことを目指した。「近代という大波」、「漆を学ぶ」、「漆と暮らす」、「京都の〈工芸〉」の4章構成の中で、海外からの里帰り品も含めた漆器や図案、当時の写真資料など約300点の作品・資料を取り上げ、京都の漆芸界の高い水準と層の厚さを示した。近代工芸のなかでも京都の漆芸だけを取り上げた初めての大規模な展覧会であり、当時一流と評されながら現在では忘れられている富田幸七や迎田秋悦などの漆芸家や、京都の漆器商の仕事を紹介し、再評価を促した。

「ホイッスラー展」は、世界各地からホイッスラーの油彩画・水彩画そして版画の代表作約130点、さらには浮世絵などの参考作品・資料を集めた、国内では27年ぶり、世界的にも20年ぶりの大回顧展。日本開催の回顧展である意義に鑑み、ジャポニズムに焦点を当てた構成とした。特に最後の第3章では、ホイッスラー芸術における「ジャポニズム」につい



て、浮世絵などの比較作品を展示することによって、ホイッスラーという作家を通して、「ジャポニスム」とは何か、という問題を改めて考えるきっかけを創出した。

#### ウ 国立西洋美術館

「橋本コレクション 指輪 神々の時代から現代まで ― 時を超える輝き」では、平成 24 年度に寄贈された橋本コレクションを基礎として、長大な歴史を持つ指輪の世界を 4000 年のスパンで編年的に概観、さらに、同コレクションに含まれるさまざまな素材、用途、形式を持つ指輪を、多角的な観点から展示した。また、「芸術の縮図」とも言われる指輪のポテンシャルを引き出すため、絵画作品やドレスなど、異なる分野の芸術作品と比較し、指輪の持つ意味や魅力を再評価した。そのほか、デジタル技術の応用として、企画展示ロビーに大日本印刷と共同で製作した展覧会のガイダンスパネルを設置して、来館者が自由に展示構成、各セクションの展示テーマ、さらに主な指輪作品を拡大して見るができるようにした。

「日本・スイス国交樹立 150 周年記念 フェルディナント・ホドラー展」は、日本ではおよそ 40 年ぶりとなるフェルディナント・ホドラーの回顧展で、ベルン美術館との共同企画、ジュネーヴ美術・歴史博物館の特別協力、スイス各地の美術館や個人所蔵家からの作品貸与のもと、本国スイスでは国民的画家として知られるホドラーの芸術の全貌に、約 100 点の絵画及び素描によって迫った。ホドラーの芸術の核である「リズム」を展覧会全体のテーマとし、一世紀の時間を超えて、日本の鑑賞者にもまさに絵画の「リズム」が体感される場となることを狙い、構成・展示方法等を工夫した。

#### エ 国立国際美術館

「ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉」では、現代アートの重要な創作源として「ノスタルジー」と「ファンタジー」という二つのキーワードに注目し、さまざまなかたちでこのテーマに取り組む日本の現代美術家 10 組の創作活動を取り上げ、過去の記憶に固執する人間の本性に向き合いながら、それを独自のイメージの世界へと昇華させた多様な美術作品群を紹介。それを通して、「現代美術イコール尖鋭的で実験的な美術作品」という先入観を払拭し、そこに同じ現代に生きる人間として共感できる表現がみられるのではないかと、という従来にない視点を提起することを試みた。

「ジャン・フォートリエ展」は、フランスの近代美術から現代美術への過渡期ともいえる戦後期に、抽象表現の先駆者として活躍し、日本の作家にも大いに影響を与えたジャン・フォートリエの、日本初の回顧展。フォートリエの戦前の作品については出品歴などわかっていないことも多いが、展覧会開催を機に行われたさまざまな調査によって、フォートリエ研究が前進した。また、日本で開催するということの意義に鑑み、日本でのフォートリエ受容について調査を行い、資料展示として書籍や雑誌の該当箇所を展示したほか、これまで着目されてこなかった戦前のフォートリエ受容について取り上げた論文もカタログに掲載した。フォートリエという画家について書かれた単著は国内にまだないため、これらの調査の成果がすべて掲載された本展のカタログは大変意義深いものとなった。

#### オ 国立新美術館

「中村一美展」は、1980 年代初頭に本格的な絵画制作を開始し、現在に至るまで精力的な活動を展開してきた現代美術作家・中村一美の芸術の全貌を紹介するもので、学生時代の習作から最新作まで、約 150 点、数十年間分の作品を出品。主要なシリーズごとに緩やかな年代順で構成することで、中村の絵画の展開を概観できる展示とした。また、国立新美術館の広大な展示室を十分に活かし、中村の本領ともいえる 3m、4m を超える大胆な大作絵画を多

数紹介。さらに、斜行グリッドのウォール・ペインティングは、本展において初めて実現、公開されたもので、ホワイト・キューブの展示空間に対する挑戦的な試みとして、大きな話題となった。

「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」では、オーストラリア国立美術館との共催で、20世紀初頭の芸術全般にさまざまな形で影響を及ぼしたにもかかわらず、日本ではその存在や重要性が未だ十分に認識されていない「バレエ・リュス」の活動を、コスチュームの展示を通して紹介。解説パネルの充実や映像上映、音楽を流すことにより、来場者の想像力を掻き立てるよう工夫した。また、衣裳作品の脆弱性から照度が低く制限されていたが、それを演出として逆手に取り、劇場の雰囲気を感じられるような空間にしたほか、作品全体が一望でき、かつ360度あらゆる角度から鑑賞できるように、展示室をあまり仕切らず、演目ごとにステージを設けて時代順に並べ、時代や作家の特徴が浮き彫りになるよう展示した。

「オルセー美術館展 印象派の誕生 一描くことの自由一」では、19世紀フランス美術のコレクションで名高いオルセー美術館の協力を得て、選りすぐりの絵画作品84点を9章構成で展示した。従来の19世紀フランス近代絵画展で採用されてきた「アカデミズム対リアリズム、マネ、印象派」といった二項対立を無効化することを目指し、可能な限り対象とする時代・各流派・各画家の特質をもっともよく伝える代表的な作品で構成することにこだわったことで、この時代のフランス近代絵画の多様性という特質を浮き彫りにする展覧会となった。

### ③ 東京国立近代美術館フィルムセンターの映画上映会・展覧会

#### 【上映会】

タイトル	会場	上映回数	日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
①日本の初期カラー映画	大ホール	84	42	13,669	12,000	ニ	
②EU フィルムデーズ 2014	大ホール	47	21	7,798	9,500	ホ	駐日欧州連合代表部及びEU加盟大使館・文化機関
③映画監督 増村保造	大ホール	120	60	24,851	17,000	ニ	
④第36回 PFF	大ホール	41	11	4,167	4,000	ロ,ニ	PFFパートナーズ, 公益財団法人ユニジャパン
⑤発掘された映画たち 2014	大ホール	28	14	3,064	2,500	ニ	
⑥MoMA ニューヨーク近代美術館 映画コレクション	大ホール	41	15	6,168	6,000	イ,ニ	一般社団法人コミュニティシネマセンター(シネマテーク・プロジェクト), 東京国際映画祭, モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA), 株式会社日本国際映画著作権協会
⑦シネマの冒険 闇と音楽 2014 from ウィーン フィルムアルヒーフ・オーストリアの無声映画コレクション	大ホール	12	6	1,760	1,300	イ,ニ	オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム
⑧映画監督 千葉泰樹	大ホール	105	35	16,076	15,000	ニ	

タイトル	会場	上映回数	日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
⑨日本映画史横断⑤ 東映時代劇の世界	大ホール	72	36	11,718	9,500	ニ	
⑩現代アジア映画の作家たち 福岡市総合図書館コレクションより	大ホール	48	24	7,253	5,500	ニ	福岡市総合図書館
⑪自選シリーズ 現代日本の映画監督3 井筒和幸	大ホール	24	12	3,271	3,000	ロ	
⑫アンコール特集：2013年度上映作品より [京橋映画小劇場 No.28]	小ホール	18	9	1,554	1,800	ホ	
⑬映画の教室 2014 [京橋映画小劇場 No.29]	小ホール	18	9	1,750	1,600	ホ	
計		<b>658</b>	<b>294</b>	<b>103,099</b>	<b>88,700</b>		

### 【展覧会】

展覧会名	日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
①赤松陽構造と映画タイトルデザインの世界	99	7,734	5,000	ロ,ニ	
②ジャック・ドゥミ 映画／音楽の魅惑	81	6,024	4,000	イ,ロ	シネマテーク・フランセーズ
③ポスターでみる映画史 Part 2 ミュージカル映画の世界	72	5,874	4,500	ロ	京都国立近代美術館
計	<b>252</b>	<b>19,632</b>	<b>13,500</b>		

### 特徴

「日本の初期カラー映画」は、日本映画が本格的に色彩を獲得し始めた 1950 年代の作品を集め、映画における色彩表現の創造性と重要性を再発見する企画で、プログラムを 6 つのカラー方式に分けて計 57 作品 (42 プログラム) 上映した。フィルム・アーカイブとしての強みを生かし、『くじら』などフィルムセンターがデジタル復元を行ったものや、『花の中の娘たち』などカラー映画史上重要な作品として新規購入したものも構成に組み込み、可能な限り作品公開当時の色彩に近いプリントを上映した。

「現代アジア映画の作家たち 福岡市総合図書館コレクションより」では、1996 年の開館以来フィルム・アーカイブとしても積極的な活動を展開し、とりわけアジア映画を対象とするユニークな収集・保存で知られる福岡市総合図書館との共催により、そのコレクションから現役で活躍するアジアの監督 7 人を選び、代表作の上映を通して、アジア映画の現在を浮かび上がらせた。

「赤松陽構造と映画タイトルデザインの世界」は、映画作品に不可欠な要素であるにもかかわらず、さまざまな職能の中でもほとんど取り上げられないことのない「タイトルデザイン」に特化した新しい機軸の展覧会であった。展示方法としては、ポスターなど紙媒体に固定される映画の宣伝美術とは異なり、現代のタイトルは映画作品の中で動きを持って提示されるものであるため、

オリジナルの原画だけでなく映像展示にも力点を置いた。またデザイナーの実際の仕事の進め方、制作の過程が分かる中間制作物などの資料も積極的に紹介した。

#### ④ 巡回展

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
東京国立近代美術館（工芸館）	アール・ヌーヴォーとアール・デコ ヨーロッパのデザインと工芸	横須賀美術館	63	14,339
	アール・ヌーヴォーとアール・デコ ヨーロッパのデザイン、工芸と高橋節郎	安曇野高橋節郎記念 美術館	68	4,693
国立国際美術館	国立国際美術館コレクション 美術の冒険	新潟県立万代島美術 館	34	4,915
		茨城県近代美術館	44	11,630
計			<b>209</b>	<b>35,577</b>

企画館	タイトル	会場数	開催日数	入館者数
東京国立近代美術館（フィルムセンター）	①平成 26 年度優秀映画鑑賞推進事業	190	368 (延べ日数)	76,572
	②日本が声を上げる！ パート 3:松竹 映画特集	1	8	1,273
	③蘇ったフィルムたち 東京国立近代 美術館フィルムセンター復元作品特集	4 (6)	12 (27)	679 (2,050)
	④NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films2014	1	8	402
	⑤第 9 回中之島映像劇場 時代劇ミュー ジカル ジャンル映画の享楽	1	2	251
	⑥アニメーションの極致——第 13 回 モントリオール・ケベックシティ国際 フェスティバル「大藤信郎・政岡憲三 回顧展」	2	5	189
	⑦一匹狼と野良犬たち——日本の犯罪 映画 1931～1969	1	6	330
	⑧MoMA ニューヨーク近代美術館 映 画コレクション	5	26	1,563
	⑨チェコの映画ポスター テリー・ポ スター・コレクションより（平成 25 年 度からの継続）【注】	1 (1)	38 (47)	23,366 (26,969)
計		<b>205</b>	<b>435</b>	<b>81,259</b>

【注】京都国立近代美術館のコレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため、会場数、開催日数、及び入館者数はそれぞれの合計に含めない。

## (2) 美術創造活動の活性化の推進

### ① 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数：69 団体

年間利用室数：延べ 3,500 室／年

稼働率：100%

入館者数：1,193,917 人

- 1 公募団体等から寄せられた意見・要望も参考としつつ、公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため、以下のような取組を行った。
  - ・ 作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割振りを団体ごとに実施
  - ・ 作品用エレベータの使用時間割振りや使用備品の事前配置等の徹底
  - ・ 審査、展示等に必要な備品の充実
  - ・ 展示作品の素材や陳列方法等について、施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底
  - ・ 公募展運営サポートセンターにおいて、使用公募団体等に関する電話（国立新美術館公募展案内ダイヤル）への問い合わせ対応の実施
  - ・ 公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施
  - ・ 館ホームページの公募展紹介ページに、文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実
  - ・ 国立新美術館ニュースへ公募団体からの寄稿を掲載することにより、広報の支援を実施
  - ・ 公募展と企画展の観覧料の相互割引について、実施団体の情報を館内で周知
- 2 館を使用する公募団体等が実施する教育普及活動に対し、講堂及び研修室の提供や運営管理上必要な助言、参加者の動線の確保等のサポートを行った。また、館ホームページへの情報掲載、館内でのチラシの配布及びポスターの掲示等により、普及・広報の支援を実施した。
- 3 平成 28 年度に展示室（公募展用）を使用する 69 団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）を決定した。
- 4 平成 24 年度から 28 年度の 5 年間の優先使用期間が終了する時期に当たることから、平成 29 年度以降の 5 年間に公募展示室を優先使用する公募団体等の決定するため、次の取組を実施した。
  - ・ 館を使用する公募団体等全 69 団体に対し、各団体個別に、平成 29 年度以降の展示室の使用意向等に関するアンケート及びヒアリング調査を実施
  - ・ 「平成 29 年度以降の公募展示室使用の原則及び使用団体決定の方針案」を検討し、館評議員への意見照会を経て決定
  - ・ 平成 29 年度公募展示室使用の募集要項を作成
  - ・ 公募団体等を対象とした募集に係る説明会の開催及び館ホームページへの募集要項の掲載を行い、関係する公募団体等へ周知し、使用申請の募集を開始

## ② 新しい芸術表現への取組

### 【東京国立近代美術館本館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
MOMAT コレクション	288	ビデオ・アート	171,220	150,000	
映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める	36	映像	9,000	10,000	京都国立近代美術館

・「映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める」では、「映画」という隣接ジャンルと関係の深い展覧会であることから、広報面では、従来の美術関係に加え、特に映画に関心を持つ層への働きかけに重点を置いた。なかでもカルチャーニュースサイトとタイアップでおこなった「展覧会レビュー記事」では、館側からの推薦により、展示内容に合った著名若手役者に登場してもらうことで、大きな反響を得た。

### 【東京国立近代美術館フィルムセンター】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
EU フィルムデーズ 2014	(全会 期 21 日のう ち) 2	ラトビアのショート・アニメーション	192	—	駐日欧州連合代表部及びEU加盟大使館・文化機関
「発掘された映画たち 2014」内の2プログラム「発掘されたアニメーションと戦前時代劇」及び「個人映画特集1：森紅作品集」	(全会 期 14 日のう ち) 4	日本アニメーション映画	394	—	—
アニメーションの極致——第13回モントリオール・ケベックシティ国際フェスティバル「大藤信郎・政岡憲三回顧展」	4	日本アニメーション映画	—	—	シネマテーク・ケベックワーズ(カナダ・モントリオール、FIAF加盟機関)

・「EU フィルムデーズ 2014」では、日本初公開作品を含む短篇アニメーション8本を上映した。また、「発掘された映画たち 2014」の内、「発掘されたアニメーションと戦前時代劇」ではデジタル復元を行った『なまくら刀』[最長版]『のろまな爺』『竹取物語』を、「個人映画特集1：森紅作品集」では初期アマチュア映画作家による抽象アニメーションを上映した。「アニメーションの極致——第13回モントリオール・ケベックシティ国際フェスティバル「大藤信郎・政岡憲三回顧展」」に対しては、日本の初期アニメーション映画を代表する監督2人の作品計16本を提供し、海外における最大の回顧上映に協力した。上記の上映会に加え、巡回上映並びに貸与において、所蔵日本アニメーション映画、外国アニメーション映画の提供を行った。

### 【京都国立近代美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続	38 (47)	ファッション	24,106 (27,471)	30,000 (35,000)	公益財団法人京都服飾文化研究財団

・「Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続」では、通常美術館で多く開催されているような、絵画や彫刻、工芸をテーマにした展覧会ではなく、ファッションという、デザイン領域と現代性、あるいは現在性が結びついたものをテーマとした。本展では、1970年代以降、世界的に高い評価を受けながら、日本人自身は回顧す

る機会の少なかった「日本ファッション」を網羅的に紹介。日本の文化が世界からどのように見られているかを再確認させるとともに、日本の伝統と現代ファッションという一見関連性がないように見える両者が、実は分かちがたく結びつき、新たな価値を創出していることを強調する展覧会となった。この特色をさらに補強するべく、会期中3回にわたり、京都の伝統工芸と関わりながら新たな表現を模索している新進気鋭のファッションデザイナーによる講演会を実施したところ、ファッションデザイナーを志す若年層を中心に毎回盛況を呈し、活発な質疑応答が展開された。

### 【国立西洋美術館】

- 平成23年6月にパリのユネスコ本部で開催された第35回世界遺産委員会において、国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献」の推薦案件が「記載延期」と決定されて以降、登録推進事業を継続しているが、平成27年1月27日、フランス政府が関係国（ル・コルビュジエ建築作品のある日本、フランス、スイス、ベルギー、ドイツ、アルゼンチン、インドの7カ国）を代表して、「国立西洋美術館」を構成資産に含む推薦書「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」をユネスコ世界遺産センターへ提出した。
- 引き続き、世界遺産登録推進活動の一環として、台東区等と連携し「世界遺産区民講座」（平成26年5月24日、11月1日）や、「大茶会」（平成27年3月23日）を実施した。「大茶会」では、前庭に特設会場を設けて野点を行ったほか、開催中に限り、常設展を無料開放した。

### 【国立国際美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
フィオナ・タン まなざしの詩学	75	映像展	15,902	12,000	朝日新聞社

- 多文化的背景を持ち、国際的な注目を集めている映像作家フィオナ・タンの作品を、従来型の造形作家の個展と同様にクロノジカルに提示することによって、単に良質な映像作品を提示するというものではなく、どのような段階を経て鑑賞に値する映像作品が生まれてくるのかを提示することを試みた展覧会。今回、タンの代表作《ディスオリエント》のシナリオを、的確な翻訳者を充て、声優も作者と綿密に打ち合わせた上で決定し、日本語シナリオ版の同作品を公開することが適った。

### 【国立新美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる	61 (97)	博物館資料に基づく美術 展示	45,056 (59,767)	20,000 (32,000)	国立民族学博物館
中村一美展	43 (55)	ウォール・ペインティング	16,473 (18,939)	10,000 (13,000)	
魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展	67	コスチューム	74,067	67,000	TBS, オーストラリア国立美術館, 読売新聞社
未来を担うアーティストたち DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果	27	新しい芸術表現	13,906	10,000	文化庁, 読売新聞社, アート・ベンチャー・オフィス ショウ

平成 26 年度 [第 18 回] 文化庁メディア芸術祭	11	ビデオ・アート, インタラクティブ・アート, アニメーション, マンガ, ゲーム等	43,660	45,000	主催:文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁, 国立新美術館)
------------------------------	----	---	--------	--------	---------------------------------

・「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」では、美術館側の視点で博物館が所蔵する資料を展示することで、その新たな魅力を引き出すことに成功した。また、「中村一美展」では、壁画の上に絵画を展示する「ウォール・ペインティング」という新しい表現を提示し、従来からの中村のファンはもちろん、若い層も含めた幅広い現代美術の愛好家にも訴えかけることができた。また「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」では、繊細かつ華やかなコスチュームを、壁を廃した斬新な展示空間に配することにより、総合芸術としての魅力を存分に引き出しえたと考える。例年開催しているように、「未来を担う美術家たち DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果」では、新しい芸術の創出に取り組む現代美術家たちを、「平成 26 年度 [第 18 回] 文化庁メディア芸術祭」では、ビデオ・アートやインタラクティブ・アート、マンガ、アニメ、ゲームを紹介した。また、展覧会以外の試みとしては、共催した「TOKYO ANIMA!2014」において、若手映像作家の近作・新作を中心に 2 日間に渡り上映し、延べ 1,023 名の来場者を得た。また、特別協力を行った「インターカレッジアニメーションフェスティバル (ICAF) 2014」では、国内の学生によるアニメーション作品を 4 日間に渡り上映し、計 2,355 名が来場した。

### (3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

#### ① 情報通信技術 (ICT) を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

##### ア ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数 (ページビュー)	目標数 (第 2 期平均)
本部【注】	8,463,431	927,350
東京国立近代美術館 (本館・工芸館・フィルムセンター含む)	12,745,371	10,500,075
京都国立近代美術館	2,348,356	2,244,585
国立西洋美術館	8,890,446	6,313,881
国立国際美術館	2,183,576	2,266,576
国立新美術館	12,086,636	9,372,754
計	<b>46,717,816</b>	<b>31,625,221</b>

【注】平成 26 年度より法人ホームページのカウンタをページビューの件数に改めたため、平成 25 年度の実績報告書と目標数が一致しない。

##### イ 各館の ICT 活用の特徴

###### (ア) 本部

平成 20 年度にリニューアルした法人ホームページにおいては、引き続き国立美術館 5 館の開催展覧会及び各種催事等トピックスの一覧を掲載した。また、法人ホームページのリニューアルについて検討を始めた。

「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」については、平成 23 年度より「指導者研修 Web 報告」のページを充実させ、平成 26 年度も継続してその記録公開につとめた。



#### (イ) 東京国立近代美術館

平成 19 年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム（CMS）を用いて、ホームページ・コンテンツの追加更新を迅速化しているが、サイト構成及びデザイン等において一層の改良を図る大規模リニューアルを実施するため、ホームページ全体を全館的に見直し、全面改修を実施、平成 27 年度公開に向けての作業を行った。

そのほか、独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字・画像データを追加するとともに、同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため、許諾を得た工芸〔漆工・染織〕の作品 484 点について画像を新規登録した。

工芸についての著作権者情報の整備を引き続き行い、工芸〔ガラス・木工・竹工・人形・金工・その他の工芸・工芸資料〕の著作権許諾申請手続を開始した。

平成 23 年度に着手した東京国立近代美術館所蔵作品管理システムならびに独立行政法人国立美術館総合目録のデータ登録更新のためのインターフェースの改良を、他の国立美術館と連携して実装させ、平成 25 年度から継続して各館ローカルシステムと総合目録とのデータ連携を改善した。

フィルムセンターでは、平成 25 年度に開始したフィルムセンターで初めてのウェブ上での所蔵資料公開事業「NFC デジタル展示室」について、平成 26 年度中に 4 回の特集展示を行った。事業関連の情報を提供する「NFC メールマガジン」は引き続き着実に登録者を増やしている。また NFCD（ナショナル・フィルムセンター・データベース）については、人物情報の統合を進めるとともに、所蔵コレクションの登録・運用を NFCD 上でスムーズに行えるよう適切な改修を加えた。映画関連資料へのアクセス希望に対しては、図版提供をすみやかに行うため、また識別を容易にするため適宜デジタル・データへのスキャンや簡易撮影を行い、データの蓄積を進めている。また今後実施されるポスターのデジタル化作業のため、スキャン方式の設定やポスターの選定などの準備作業を行った。

#### (ウ) 京都国立近代美術館

ホームページにおいて、各展覧会の基本情報や講演会、教育普及関連のイベントの案内・報告、美術館ニュースや研究論集の内容紹介、さらには友の会の行事報告などを行った。特にコレクション・ギャラリー（所蔵作品展）については、展示替えごとに出品リストや解説を掲載するだけでなく、著作権に支障のない範囲で出品作品の画像を掲載し、情報のさらなる充実につとめた。

#### (エ) 国立西洋美術館

ホームページや Facebook を通じて展覧会や教育プログラム、所蔵作品に関する情報等を和英 2 か国語で発信し、引き続き活動状況を国内外に向けて広く紹介した。

また、国際的な美術図書館横断検索システム「artlibraries.net」に東京国立近代美術館と共同でアジアから初参加した平成 25 年度に続き、後継システムの「アート・ディスカバリー・グループ目録」に参加した。これにより情報発信力の強化、国際的な認知度の向上に取り組むとともに、日本から参加する唯一の美術館として国内に範を示すことに努めた。

所蔵作品データベースでは、研究員による日常の調査研究の成果を反映させてデータの更新を行い（制作年等）、コンテンツの質の向上に努めた。各作品が「展示中」かどうかについても最新情報の維持に努め、利用者のニーズに応えた。東日本大震災以降、データのバックアップが課題とされているが、国立西洋美術館においてもバックアップ・コピーの遠隔地での保管を実施し、所蔵作品データの安全な運用に努めた。

参加中のグーグル・アートプロジェクトでは、コンテンツの追加を行い（モネ《睡蓮》の高精細画像等）、記者発表の会場も引き受けて積極的な普及広報に努めた。

(オ) 国立国際美術館

館ホームページをスマートフォンでも閲覧できるよう、トップページのバナーを Flash から Java Script に変更した。また、平成 27 年度からの SNS (Facebook, Twitter) 開始への前段階として、ウェブサイトのトップページに「いいね！」ボタン及び「ツイート」ボタンを設置した。さらに、将来的に講堂で Wi-Fi を利用したイベントが増加することを考え、館外の利用者用のネットワーク設備を整備 (ADSL 回線を光回線へ変更し、アクセスポイントをビジネス用に変更) した。

(カ) 国立新美術館

展覧会情報検索サービス「アートコモンズ」において、引き続き日本国内の美術館、画廊、美術団体が開催する展覧会の情報を収集し、検索可能とすることに努めた。平成 26 年度においては 3,430 件の展覧会情報を 1,170 の美術館・美術団体・画廊の協力により収集・公開した。また、ホームページを通じて、国立新美術館の活動を紹介すると共に、これまでのメールマガジンの発行に加え、SNS の活用により、昨今のインターネットの利用形態の変化に対応した幅広い情報発信の道筋について実践的に試行を続けている。

加えて、来館者向けの無料 Wi-Fi サービスを 1 階ロビーにて試行的に開始した。

② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

ア 図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	利用者数	目標利用者数 (第2期平均)
東京国立近代美術館	本館	3,533	131,319	2,150	2,921
	工芸館	1,004	24,815	319	356
	フィルムセンター	1,147	43,757	3,893	3,273
京都国立近代美術館		1,447	25,349	—	—
国立西洋美術館		1,023	48,285	436	399
国立国際美術館		1,129	39,596	—	—
国立新美術館		5,882	136,069	29,533	44,365*
計		15,165	449,190	36,331	51,314*

【注】東京国立近代美術館は本館 4 階、京都国立近代美術館は 4 階、国立西洋美術館は 1 階、国立国際美術館は地下 1 階に図録等が閲覧できる情報コーナーを設け、入館者が自由に閲覧できるようにしており、その場所については、利用者数の把握はしていない。

【注】東京国立近代美術館本館の平成 25 年度累計件数は 127,781 件であったが、平成 26 年度に雑誌から図書への移管が 5 件あったため、5 件増となっている。

【注】東京国立近代美術館工芸館の平成 25 年度累計件数は 23,814 件であったが、平成 26 年度に図書から雑誌への移管が 3 件あったため、3 件減となっている。

※ 新規開館により利用者が著しく増加した年度の実績を除く。

イ 特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

本館では、平成 24 年度に開始した 60 周年事業の一環である 60 年史のデータ集成及び編集作業と共に、ミュージアム・アーカイブの整備をあわせて進め、法人文書ファイル管理簿等との整合性が図れるよう関係部署との調整を行い、試行的に図書検索システ

ムでの情報管理に着手した。また、東京国立近代美術館を中核館とする実行委員会で、平成 26 年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）を得て「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」を実現させ、海外から 7 名を招へいして平成 26 年 12 月 11 日には公開ワークショップを開催した。その全容については、『公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」報告書』と題する報告書を刊行して広く共有することに努めた。

工芸館では、購入及び資料交換・寄贈によって、順調に収集件数が増加した。新規購入対象となる図書は展覧会に関係するものを中心に選定しているが、平成 26 年度は「大阪万博 1970 デザインプロジェクト」展の関連資料として、当時刊行された雑誌や現代デザイン概論等を収集した。また、平成 27 年度開催予定のデザイン展関連資料として 1940～50 年代の古書の収集も開始した。これにより近代日本のデザインの歴史を概観しやすくなった。

フィルムセンターでは、一定の網羅性を目指して、映画関連の新刊書と雑誌の収集を行うとともに、未所蔵の古書や一般の書籍流通ルートには乗らない刊行物の収集にも努めている。平成 26 年度は、終戦直後の興行雑誌やポスター、私家版の豆本などを購入した。図書公開への準備としては、今後のデータベース登録を見越して図書室内の映画雑誌などのリスト化を進めている。映画パンフレットについては OPAC データベースへの登録が進み、外国映画パンフレットに続いて日本映画パンフレットの登録も終了している。

#### (イ) 京都国立近代美術館

引き続き、開催予定の展覧会に関係する書籍を購入するとともに、外部の研究者と連携して研究をすすめている科学研究補助金によっても図書を収集した。

#### (ウ) 国立西洋美術館

中世末期から 20 世紀前半までの西洋美術に関する専門書・学術雑誌を収集・整理し、展覧会事業等、館の事業活動の推進に役立てた。収集資料は付帯施設の研究資料センターで外部に公開し、全国の美術館学芸員等の利用に供しているが、平成 26 年度はその開室日を週 2 日から週 3 日に増やし、サービスの向上に努めた。引き続き所蔵作品調査の一環として日頃より文献複写資料や記事切抜きを集積し、その成果の一部をデータベースでも公開しているが、平成 26 年度は記録や写真等のアーカイブ資料も含むこの「所蔵作品ファイル」の公開体制を他機関に先駆けて整備し、ホームページ等でその利用促進を図った。美術分野の研究教育用の大型デジタル画像データベース「ARTstor」を新規に導入し、利用者への提供を開始した。また、ホームページでは美術館の基本情報（所在地、代表者、設立年等）に加え、学芸課の組織や研究員名、館代表メールアドレス等の情報を和英 2 か国語で公開し、国内では数少ないレファレンスの窓口を確保しているが、平成 26 年度には海外から受理した日本の美術情報に関する質問に対し国内のネットワークの協力を得て対応し、ナショナルセンターとしてのレファレンス機能の発揮に努めた。

#### (エ) 国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を継続した。特に、企画展や所蔵作家関連の文献に加え、国際展に関する文献なども積極的に収集を行った。

(オ) 国立新美術館

引き続き日本の展覧会カタログを中心に網羅的、遡及的収集に努め、国内約 400、国外約 100 の美術館・博物館と展覧会カタログの相互寄贈関係を維持している。また、寄贈された複数の個人からの大口寄贈資料についての整理作業を進め、一部を別館閲覧室において公開した。さらに所蔵資料のうち脆弱なものの一部について引き続きデジタル化を行い、画像データを通じた資料閲覧の実現に向けて試験的な閲覧環境を構築した。そのほか、東京国立近代美術館の「コレクションを中心とした小企画：美術と印刷物—1960-70年代を中心に」への企画協力、及び展示資料の貸出を行った。

本館アトライブラリ、別館図書閲覧室の利用者数は、平成 25 年度よりも約 7,500 人増加し、3 万人近い数となったが、これは入館者数の増加と連動したものと考えられる。なお、来館者にアトライブラリの利用を促すための掲示を、展示室や講演会開催時の講堂ロビーに設置する等の取組を継続して行っている。

ウ 所蔵作品データ等のデジタル化

館名		画像データ				テキストデータ			
		デジタル化件数	デジタル化累計	累積公開件数 (公開率)	目標公開率	デジタル化件数	デジタル化累計	累積公開件数 (公開率)	目標公開率
東京国立近代美術館	本館	200	10,839	7,015 (55.6%)	33.0%	101	11,388	10,764 (85.3%)	97.3%
	工芸館	25	4,099	1,630 (47.2%)	5.5%	211	4,593	3,404 (98.7%)	99.5%
	フィルムセンター (映画関連資料)	—	—	—	—	3,581	162,676	—	—
京都国立近代美術館		71	7,590	2,149 (18.6%)	11.4%	93	13,693	12,389 (107.3%)	85.8%
国立西洋美術館		275	6,202	205 (3.7%)	4.4%	45	5,837	4,630 (83.4%)	94.7%
国立国際美術館		138	7,287	3,669 (51.0%)	19.0%	117	8,182	7,301 (101.5%)	97.6%
計		<b>709</b>	<b>36,017</b>	<b>14,668</b> <b>(36.4%)</b>	<b>17.8%</b>	<b>4,148</b>	<b>206,369</b>	<b>38,488</b> <b>(95.4%)</b>	<b>93.9%</b>

【注】「累計公開件数」は、所蔵作品総合目録における画像及びテキストデータの公開件数である。東京国立近代美術館工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載しているため、テキストデータの公開率が高くなっている。フィルムセンターについては、映画関連資料の NFGD へのデータ登録件数を掲載している。国立西洋美術館は「国立西洋美術館所蔵作品データベース」で作品画像データ 4,728 点を公開している。

エ インフォメーションデータセンター (IDC) の確立

平成 20 年度、国立美術館 5 館全体において V P N (暗号化された通信網) を採用し、情報ネットワークの安定かつ高速化を実現するとともに、V P N を用いたグループウェア及びテレビ会議システムを継続して稼働させた。

平成 23 年度に欧米主要美術図書館横断検索システムである「artlibraries.net」([http://artlibraries.net/index\\_en.php](http://artlibraries.net/index_en.php)) と国立美術館の図書検索システム (東京国立近代美

術館及び国立西洋美術館)の連携可能性について、国立情報学研究所と連携して始めた受託研究の成果により、平成25年度から「artlibraries.net」への参加を実現・継続している。

平成26年度6月に策定された「国立美術館のデータベース作成と公開の指針」にもとづき国立美術館5館の情報担当者による「国立美術館データベース作成と公開に関するWG」を設置し、各館の課題の整理と今後の事業について協議を行った。

#### (4) 国民の美的感性の育成

##### ① 幅広い学習機会の提供(講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等)

館名	実施回数	参加者数	目標数	
東京国立近代美術館	本館	410	8,542	5,509
	工芸館	158	3,481	1,616
	フィルムセンター	221	16,704	9,733
京都国立近代美術館	84	4,148	3,724	
国立西洋美術館	335	23,040	10,261	
国立国際美術館	51	2,623	3,486	
国立新美術館	95	12,819	10,518	
計	1,354	71,357	44,847	

#### ア 各館の特徴

##### (ア) 東京国立近代美術館

###### (本館)

幅広い層への解説プログラム(所蔵品ガイド、ハイライトツアー、キュレータートーク、音声ガイド、子ども用セルフガイドやイベント等)や来館者サービス(ライブラリ、ショップ、レストラン、休憩室、バリアフリー情報、夜間開館、無料観覧日、MOMATパスポート等)を一覧できるリーフレット「活用ガイド」を引き続き活用した。

また、これまで年に1回程度行っていた「先生のための鑑賞日」を、平成26年度より全ての企画展で行うこととし、期間も金曜(夜間開館日)から日曜までの3日間とするなど、忙しい教員にも参加しやすいよう工夫した。

さらに、教育プログラムの対象を拡げるため、4~5歳児とその家族を対象にした鑑賞プログラム「おやこでトーク」を7月と2月に実施し、鑑賞ツール「MOMATコレクションセルフガイドプチ&みつけてビンゴ」を新しく開発した。

###### (工芸館)

引き続き、ギャラリートークやタッチ&トークなど、様々な対象者を想定した多彩な教育普及事業を展開した。なかでもアーティスト・トークは、いずれの回にも多数の参加者を迎えることができた。工芸館の会場は多人数のイベントを実施するのに十分な広さとはいいがたいが、インターン生の研修の一環として運営を計画的かつ柔軟に対応したことから、目立った混乱もなく、内容ともどもアンケート結果は良好であった。

児童向けプログラムとしては、夏季のワークショップにおいて重要無形文化財保持者をはじめとする輪島の作家による「沈金」技法の指導を行った。ここでは、単に技法を習得するだけでなく、展覧会のテーマである「模様」を理解してもらうことを目的に、実技の前にギャラリートークを実施した。その結果、模様の造形や布置に対しても十分な理解を得られた様子が、完成した制作物からも窺えた。

(フィルムセンター)

大ホールの8企画及び展示室の3企画で、計21回のトーク・イベント(上映は講演会、舞台挨拶を含む)を行った。また、教育普及を目的とする上映イベントでは、小中学生を対象とする「こども映画館」や、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント(平成26年度は「関東大震災記録映画フィルムの発見——デジタル保存とその活用」を開催)といった恒例行事に加え、フィルムセンターでは2回目となる「全国コミュニティシネマ会議2014」、企画展示「ジャック・ドゥミ 映画／音楽の魅惑」の関連企画「『ベルサイユのばら』特別上映会」を開催した。

国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校(東京国立近代美術館利用校)が、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行う東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業、大学等の学生がフィルムセンターで映画の上映会または展覧会を観覧したことを証明する「鑑賞証明カード」の配付は3年目を迎え、大学等連携事業では、8回(6校)の講義が実施された。

13年目を迎えた「こども映画館」では、平成26年度も映画上映に施設見学や弁士・伴奏付きの無声映画上映などを組み合わせるスタイルを踏襲しつつ、子どもたちが日常のテレビやDVDなどでは接する機会を持ちにくい映画遺産に触れる機会を作るとともに、写真画像や手作りの動画等も用いて、わかりやすい解説を行うよう心がけた。

相模原分館では、相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)と締結した文化事業等協力協定により、平成26年度も相模原市内の小・中学生並びに相模原市及びJAXAとの共催事業の参加者を対象に、無料で映画上映と保存施設の案内を実施した。映画フィルムの受入・検査・収納までの工程を解説し、映画フィルムの保存の意義について普及することができた。

(イ) 京都国立近代美術館

引き続き、企画展ごとに講演会を実施した。「Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続」展では出品作品のデザイナーによる連続レクチャーを開催した。「チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより」展では「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2014」の開催に際し、出品作品に関連した映画の特集上映を実施した。「うるしの近代——京都、「工芸」前夜から」展では会場でのギャラリートークなど、関連イベントを多数実施した。「ホイッスラー展」では、同時期に「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展」を開催していた京都市美術館等と共催して、ジャポニスムのシンポジウムを実施した。また、平成26年度も展覧会に即した内容でワークショップを企画した。

学校との連携では平成25年度に引き続き、京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会(図工研)との共催で、小学校教員を対象に鑑賞教育の指導力向上に向けた講座「京都市図画工作科指導講座」を開催した。例年通り、鑑賞教育の指導方法において参加者それぞれが自主的に可能性を探る内容となるよう構成した。平成26年度で3年目を迎えた当講座は、図工研所属の現役教員たちの提案を受け、現場の声を活かしたより実践的な内容になるよう、作品の解説をより詳細にするなどの改善を図った。

その他特筆すべきこととして、夏から秋にかけて実施した、若い世代を対象とした「平成26年度学習支援事業 10代のためのプロジェクト「美術館の放課後」」が挙げられる。館内のフリースペースにワークルームという空間を作り上げ、そのスペースを自由に活用することを促すとともに、定期的にワークショップ等のイベントを開催する、というプロジェクトで、ワークルームに関しては、青少年にとって心地よい場所として機能するよう、建築家を招いたワークショップを開催し、10代の意見を踏襲した空間作りを心掛けた。そ

他のワークショップに関しても、食文化やアニメーション、小説など、多様なテーマを設定し、青少年が美術館と関わりを持つことを促した。従来美術館への来館が少ない世代や層に対してアプローチし、美術館のイメージの転換を図るプロジェクトであった。

#### (ウ) 国立西洋美術館

常設展を活用したプログラムを例年のように実施した。ファン・ウイズ・コレクションについては、平成 25 年度の好評を反映し、2 年連続で所蔵作品による企画展に関連するプログラムを構成した。

平成 26 年度は、年度末の工事期間を除き、安定して常設展示を行うことができたので、スクール・ギャラリートークを活用する学校も平成 25 年度に比べ増加した。また、「どようびじゅつ」も例年のように好評だった。特に春のプログラムでは、例外的に企画展「ジャック・カロ」を取り上げ、創作のパートではドライポイント技法による版画作りにも挑戦してもらったことで、子どもと大人の両方にとってやりがいのある活動となった。

#### (エ) 国立国際美術館

「ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉」においては、10 組の出品作家のうち、7 組（6 人と 1 組）の作家による対談、及びトークショーを 4 回に亘って行った。「ジャン・フォートリエ展」においては、館長が講演会を行うとともに、外部からパネリストとして研究者を招き、シンポジウムを開催した。また、「フィオナ・タン まなざしの詩学」においても、作家本人によるアーティスト・トークを実施し、多数の参加者を得た。上記イベント以外にも、巡回展開催館（新潟県立万代島美術館・茨城県近代美術館）において、巡回展開会式及び会期中に、館長による講演会、副館長によるギャラリートーク、及び複数の出品作家によるトークショーを実施した。

児童を対象としたものについては、継続して定期的実施している小中学生を対象とした鑑賞ツアー「こどもびじゅつあー」に加えて、ワークショップ形式のイベント「なつやすみびじゅつあー」（「じっくりゆっくりかんさつ会」）、「びじゅつあーすべしやる」（「とことんちょうこく そざいにちゅうもく」）を引き続き開催し、児童生徒が、作品を身近に、より深く鑑賞する手がかりを提供した。また、「カタルとツクルの映像ワークショップ」では、外部から講師を招き、特に児童生徒対象ではなく、小学 5 年生以上であれば誰でも参加できるイベントとして、スマートフォンを活用して映像作品を作るワークショップを開催した。

そのほか、学校団体等による団体鑑賞や、中学生の職場体験実習を受入れ、後者については発送作業、資料整理、看視業務等、美術館の業務を幅広く経験する機会を提供した。

#### (オ) 国立新美術館

講演会や作品解説会など、展覧会の内容を広く普及するためのイベントに継続的に取り組んだほか、「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」の関連事業として映画上映を行い、大勢の参加者を得た。また、「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」や「マグリット展」など 6 つの企画展会場において子ども向けの鑑賞ガイドや小冊子を無料で配布、さらに「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」ではジュニア版音声ガイドの提供を行うなど、特に若年層の鑑賞を補助する仕組みの充実を図った。

開館以来の特徴的な試みである「アーティスト・ワークショップ」では、平成 26 年度も絵画や彫刻、ファッションなど多彩な分野から講師を迎え、幅広い世代を対象に全 7 回を

実施した。また、アメリカのホイットニー美術館から教育普及担当者を招へいしてシンポジウムを開催し、国立新美術館のワークショップの事例を広く紹介するとともに、国際的な意見交流を行った。このほか、外部機関との共催事業に積極的に取り組み、「オルセー美術館展 印象派の誕生 一描くことの自由一」関連シンポジウム（共催：日仏美術学会）や公開シンポジウム「色彩が奏でる芸術と科学」（共催：日本色彩学会関東支部）などを開催、展覧会や美術に関してより深く考察する機会の創出に努めた。

平成 24 年度より取り組んでいる未就学児を対象にしたワークショップも引き続き企画・実施した。平成 26 年度は画家を講師に迎え、未就学児（3～6 歳）親子に加えて小学校 1～4 年生の親子も対象とした「はじめてのアート 絵描きさんといっしょに、描く、つくる！」を 2 日間にわたり開催した。また、「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」の関連事業として、絵本作家による子どもを対象としたワークショップ「アート de じぶんえほん」を開催し、いずれも非常に好評を得た。

## ② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

### ア ボランティアによる教育普及事業

館 名		ボランティア 登録者数	ボランティア 参加者数	事業参加者数
東京国立近代美術館	本館	38	594	4,901
	工芸館	30	361	2,435
京都国立近代美術館		36	—	—
国立西洋美術館		43	668	12,887
国立国際美術館		22	—	—
国立新美術館		93	126	5,632
計		262	1,749	25,855

### イ 各館の特徴

#### (ア) 東京国立近代美術館

本館では、ガイドスタッフのフォローアップ研修として、5 月には「未就学児向けプログラムについて」というレクチャーを実施し未就学児向けガイドのための知識を得、12 月には「戦争記録画について米国の美術館でのギャラリートークについて」というレクチャーを行い無期限貸与作品について理解を深めた。新たな試みとして、未就学児と保護者向けのギャラリートーク「おやこでトーク」をガイドスタッフが担当した。また、夏の小中学生向けプログラム KIDS★MOMAT2014 では、平成 25 年度に引き続き、ガイドスタッフが「夏休み！こども美術館」、「夏休みトークラリー」のスタッフを担当した。

工芸館では、ボランティアによる教育普及事業の実施回数及び参加人数が例年を大きく上回った。東北や東海、九州など関東地方以外からの参加者も見られたことから、当プログラムの 10 年以上にわたる周知活動が一定以上の成果を得たと考えられる。児童生徒への事業は、回数は減少したが、参加人数は 3 割増となった。また、授業との連携を期待する学校も少なくなく、これらによりきめ細やかに対応するためにも、平成 27 年度にはボランティア・スタッフを新規募集し、養成研修して今後のプログラムの充実を図る予定である。



(イ) 京都国立近代美術館

引き続き、京都市内博物館施設連絡協議会及び京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」の受講・修了者が所属する京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査回収、集計に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力した。

(ウ) 国立西洋美術館

平成 26 年度は、通常の活動の他に、ボランティア・スタッフが独自に企画・実施する「立ち寄りプログラム」を「指輪展」と「美術館でクリスマス」の二つにおいて試行的に実施した。短時間でできるように工夫された簡単な創作プログラムは大変好評で、多くの来館者が参加した。美術館が企画したプログラムへの協力だけでなく、まさにボランティアな活動によって、スタッフ同士のコミュニケーションも活性化され、さらに活動への意欲が増進されたことが評価できる取組となった。

(エ) 国立国際美術館

学生ボランティアを広く募り、図書資料等の整理等、美術館運営の補助業務に従事することを通じて、美術館活動に接する機会を提供した。

(オ) 国立新美術館

学生ボランティアである「サポートスタッフ」に、平成 25 年度よりも多い 93 名の大学生・大学院生が登録した。美術や美術史だけでなく、幅広い分野の専攻の学生が、講演会やシンポジウム、ワークショップ、コンサートの運営補助、広報事業の補助などの活動に参加した。美術館の活動に対する関心と意欲を持つ学生たちのサポートは、国立新美術館のイベント実施において欠かせない存在となっている。

ウ 支援団体等の育成と相互協力による事業

(ア) 東京国立近代美術館

- ・三菱商事株式会社と共同で行っている障がい者のための鑑賞プログラムとして、閉館後「菱田春草展」の障がい者特別内覧会を実施した。(計 1 件 1 回、参加者 108 人)

(イ) 京都国立近代美術館

- ・京都市立芸術大学との共催によるコンサート「京都国立近代美術館ホワイエコンサート」を開催した。(計 2 件 2 回、参加者 400 人)
- ・京都ミュージアムズ・フォーの連携講座として講演会「うるしの近代」を実施した。(計 1 件 1 回、参加者 89 人)
- ・京都岡崎魅力づくり推進協議会に協力し、「まち歩き【岡崎探検】学芸員さんとめぐる、京都国立近代美術館とバックヤード ～屋上から地下室まで、コレクション・ギャラリーの舞台裏～」を開催した。(計 1 件 1 回、参加者 16 人)

(ウ) 国立西洋美術館

- ・「ジャック・カローリアリズムと奇想の劇場展」のレクチャー・コンサート「ハープによる奇想の劇場」, 「美術館でクリスマス」クリスマスキャロル・コンサート, 三菱商事株式会社及び NPO 法人ジャパンアカデミーフィルハーモニックとの連携に

よる「ファン・デー2014」前庭コンサートを開催した。(計3件9回, 参加者1,209人)

- ・三菱商事株式会社と共同で行っている障がい者のための鑑賞プログラムとして、「ホドラー」展の障がい者特別内覧会を実施した。(計1件1回, 参加者85人)
- ・国立西洋美術館世界遺産登録上野地区推進委員会との共催により「国立西洋美術館大茶会」を実施した。(計1件1回, 参加者693人)

(エ) 国立国際美術館

- ・公益財団法人ダイキン工業現代美術振興財団と協力し, 国立国際美術館ミュージアムコンサート「森谷真理ソプラノ・リサイタル」及び「テノールとソプラノ オペラ・アリアの名曲」を開催した。(計1件2回, 参加者353人)
- ・大阪市立科学館との共同企画により, 同館から物理学専門の学芸員を招き, 「アンドレアス・グルスキー展」の主要出品作品のモチーフであるカミオカンデの解説を, ギャラリートークの形で実施した。(計1件1回, 参加者110人)

(オ) 国立新美術館

- ・企業協賛金を活用して, 以下の事業を実施した。
  - ◇館主催のロビーコンサート「国立新美術館サマー・ジャズコンサート」, 「国立新美術館音楽の楽しみ『弦楽四重奏の魅力』」, 六本木アートナイト2014 国立新美術館特別プログラム「雅楽の響き～魅力ある日本の音世界～」を開催(計3件3回, 参加者880人)
  - ◇託児サービスを提供(38回)
  - ◇JAC (Japan Art Catalog) プロジェクトとして海外の日本美術の研究拠点4箇所へ国内で開催された展覧会図録を寄贈
  - ◇教育普及事業としてワークショップ, 講演会及びシンポジウムを開催, 鑑賞ガイドを作成
    - ・政策研究大学院大学学生向けガイダンスを実施した。(計1件2回, 102人)
    - ・絵画鑑賞を通じて障害者への理解を深めることを目的に, 港区内の障害者施設で制作された作品を展示する「地域で共に生きる障害児・障害者アート展」を実施した。(主催: 港区, 共催: 国立新美術館, 1月21日～26日)

(カ) その他(各館共通)

東京の美術館・博物館等78施設が参加する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス2014」及び関西の美術館・博物館等51施設が参加する「ミュージアムぐるっとパス・関西2014」に参加し, 所蔵作品展覧料の無料化または割引や, 企画展覧料の割引などを実施した。

③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動

京都国立近代美術館では, 東京国立近代美術館フィルムセンターとの共同主催による映画上映「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films 2014」を4回にわたり実施した。MoMAK Filmsと「チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより」展の関連企画として, チェコセンター前所長のペトル・ホリー氏による講演会を実施し, 内容を充実させた。8月と10月の上映では「ホイッスラー展」にあわせたテーマを設け, 「映画とジャポニスム——早川雪洲特集」では, 上映前に専門家による作品解説を行った。

国立国際美術館では、第8回、及び第9回の「中之島映像劇場」を開催した。第8回では世界的に高名な映画作家ジョナス・メカスの60年代及び70年代の代表作を紹介し、第9回では、東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催により、同センター所蔵作品から、現在では失われた映画の形式である時代劇ミュージカル、オペレッタ時代劇の作品を選んで上映を行った。

これらの共催事業は、関西におけるフィルムセンター所蔵作品の定期的な上映拠点の形成に、堅実な成果を上げている。

## (5) 調査研究成果の美術館活動への反映

### ① 調査研究一覧

#### ア 東京国立近代美術館

(本館)

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	映画をめぐる現代美術家たちの実践について—マルセル・ブロータースを参照軸に	「映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める」展の開催、カタログの発行	京都国立近代美術館
2	ヤゲオ財団コレクション	「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」の開催、カタログの発行	名古屋市美術館、広島市現代美術館、京都国立近代美術館
3	菱田春草	「菱田春草展」の開催、カタログの発行	
4	高松次郎	「高松次郎ミステリーズ」展の開催、カタログの発行	The Estate of Jiro Takamatsu
5	奈良原一高「王国」	「奈良原一高 王国」展の開催、カタログの発行	
6	コレクションを軸にした1940年代から80年代までの美術に関する調査・研究	MOMATコレクション特集「何かがおこってるⅡ：1923, 1945, そして」の開催。章解説、作品解説の執筆	
7	コレクションを中心とした小企画 美術と印刷物	小冊子を発行、ギャラリートーク開催	
8	美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）	ワークショップの実施、セルフガイドの制作	
9	国立美術館の情報資源と国立情報学研究所によるWebcatPlus、文化庁文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、国立美術館「想—IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開	国立美術館「想—IMAGINE」の公開	国立情報学研究所・国立国会図書館
10	国立情報学研究所との共同による海外主要美術図書館横断検索システム（artlibraries.net）と国立美術館図書館OPACとの連携可能インターフェース	artlibraries.netへの参加による美術書誌情報の発信	国立情報学研究所・artlibraries.net・カールスルーエ工科大学
11	「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業 2014」（JAL2014）	海外日本美術資料専門家（司書）との招へい・研修・交流及び公開ワークショップの開催	国立西洋美術館・国立新美術館・東京文化財研究所及びフランス国立ギメ東洋美術館等招へい者所属6機関等
12	1960-70年代の概念芸術：作品の所在調査とデータ・ベース構築（科研費 基盤B 研究代表者：中林和雄、平成24年度～26年度）	データ・ベース「1960-70年代の概念芸術」を構築	

13	美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発 (科研費 基盤B 研究代表者: 一條彰子, 平成24年~平成26年)	所蔵作品を活用した鑑賞教育活動への反映	国立西洋美術館, 東京国立博物館, ヴィクトリア州立美術館, グッゲンハイム美術館, ホイットニー美術館 (研究者招へい・講演)
14	菱田春草の使用絵具に関する科学調査ならびに文献調査をともなう作品研究 (公益財団法人ポーラ美術振興財団からの助成, 研究代表者: 鶴見香織)	「菱田春草展」の開催, カタログの発行	永青文庫, 熊本県立美術館, 東京文化財研究所, 東京藝術大学等
15	1900-30年代フランスの美術と建築における軸測投影に関する総合的研究 (科研費 若手B 研究代表者: 米田尚輝, 平成24~26年度)	論文「ゾフィー・トイバー——1910-20年代のデザイン理論」の執筆	国立新美術館

### (工芸館)

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	青磁	「青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで」展の開催, カタログの発行	兵庫陶芸美術館, 静岡市美術館, 山口県立萩美術館・浦上記念館
2	中村ミナトのジュエリー	「中村ミナトのジュエリー: 四角・球・線・面」展の開催, カタログの発行	
3	1970年大阪万国博覧会のデザイン	「大阪万博 1970 デザインプロジェクト」展の開催	
4	工芸品の模様について	所蔵作品展「おとな+子ども工芸館 もようわくわく」の開催, セルフガイド・ワークシートの発行	
5	近代工芸について	所蔵作品展「近代工芸案内—名品選による日本の美」の開催, 『新版 近代工芸案内』の発行	
6	児童・生徒を対象とする工芸素材と技法の体験及び鑑賞教育の推進	沈金ワークショップ企画実施	石川県立輪島漆芸技術研究所
7	一般鑑賞者を対象とする工芸技法の鑑賞教育の推進	展覧会の企画構成, セルフガイドの作成	日本工芸会
8	児童の工芸鑑賞	展覧会の企画構成	東京都図画工作研究会
9	工芸の現代的表現に関する調査研究	在シンガポール日本国大使館ジャパン・クリエイティブ・センター (JCC) で開催された「わがの美—現代日本の工芸」展に対する企画協力	国際交流基金アジアセンター, 在シンガポール日本国大使館
10	20世紀前半の日本と中国・台湾・韓国とのデザイン/工芸の交流 (科研費基盤 (C) 研究代表者: 木田拓也, 平成26~28年度)	平成27年度デザイン展「ようこそ日本へ/アジアへ」展を開催予定	埼玉大学, 津田塾大学

### (フィルムセンター)

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) 会員, その他同種機関, 現像所等からの情報に基づく, 未発見の日本映画フィルムの所在調査	映画フィルムの寄贈, 購入, 不燃化・複製化	映画製作会社, フィルム所有団体及び個人, 現像所等
2	文化庁との共同事業による「近代歴史資料調査」の結果に基づき, 新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査	『日本南極探検』(1912年) デジタル復元及び再染色版プリント作成	原版フィルム所有者, 広瀬南極探検隊記念館, 現像所

3	可燃性フィルムを含む映画フィルム及びデジタルメディアの登録・長期保管・保存・変換、アナログ及びデジタル技術を活用した復元、及び映写	データベースの充実、可燃性フィルムを含む映画フィルムの格納、復元作品の館内及び館外における上映	FIAF会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等
4	不明となっている所蔵作品の権利帰属等メタデータ	映画フィルムの寄贈、購入、不燃化・複製化	映画製作会社、映画製作関連団体、現像所等
5	日本の初期カラー映画	上映会「日本の初期カラー映画」の開催	
6	ヨーロッパ諸国の映画	上映会「EUフィルムデーズ2014」の開催	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関
7	増村保造監督	上映会「映画監督 増村保造」の開催	
8	日本の自主映画	上映会「第36回PFF」の開催	PFFパートナーズ、公益財団法人ユニジャパン
9	新たに復元された映画とその作者、技術フォーマットや時代背景	上映会「発掘された映画たち2014」の開催	
10	アメリカ映画	上映会「MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション」の開催	一般社団法人コミュニティシネマセンター（シネマテーク・プロジェクト）、東京国際映画祭、モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）
11	オーストリア無声映画	上映会「シネマの冒険 闇と音楽 2014 フィルムアルヒーフ・オーストリアの無声映画コレクション」の開催	オーストリア大使館、フィルムアルヒーフ・オーストリア
12	千葉泰樹監督	上映会「映画監督 千葉泰樹」の開催	
13	東映時代劇	上映会「日本映画史横断⑤ 東映時代劇の世界」の開催	
14	アジア諸国の映画	上映会「現代アジア映画の作家たち 福岡市総合図書館コレクションより」の開催	福岡市総合図書館
15	現代日本映画の監督	上映会「自選シリーズ 現代日本の映画監督3 井筒和幸」の開催	
16	日本映画におけるタイトルデザインの歴史と現在	展覧会の企画・構成・開催	
17	映画監督ジャック・ドゥミ	展覧会の企画・構成・開催	シネマテーク・フランセーズ
18	ミュージカル映画のポスター	展覧会の企画・構成・開催	京都国立近代美術館
19	映画美術資料を調査及び整理するとともに、その画像をデジタル化し、若手美術監督等の育成及び映画美術の研究に活用することを目的とする「日本映画美術遺産プロジェクト」	映画資料のアーカイビング	協同組合日本映画・テレビ美術監督協会
20	無声映画の音—帝政期ロシアにおける初期映画興行研究（科研費 若手B 研究代表者：大傍正規、平成23年～平成26年度）	その他美術館活動の推進	

イ 京都国立近代美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	日本のファッション	展覧会「Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続」の開催	京都服飾文化研究財団
2	チェコの映画ポスター	展覧会「チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより」の開催	東京国立近代美術館フィルムセンター
3	上村松篁	展覧会「上村松篁展」の開催	松伯美術館、富山県水墨美術館
4	近代の漆芸	展覧会「うるしの近代——京都、「工芸」前夜から」の開催	
5	ジェームズ・マクニール・ホイッスラー	展覧会「ホイッスラー展」の開催	横浜美術館、グラスゴー大学附属ハンテリアン美術館
6	現代美術の個人コレクションとコレクター～ヤゲオ財団コレクションを例に	展覧会「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」の開催	ヤゲオ財団、東京国立近代美術館、名古屋市美術館、広島市現代美術館
7	ヨシダミノル	小企画「キュレトリアル・スタディーズ06：ヨシダミノルの絵画 1964-1967」の開催	
8	日本近代洋画と浮世絵—鏡としてのジャポニスム	小企画「キュレトリアル・スタディーズ07：日本近代洋画と浮世絵—鏡としてのジャポニスム」の開催	京都大学人文科学研究所
9	『マヴォ』とフロリアン・プムヘスル	小企画「キュレトリアル・スタディーズ08：フロリアン・プムヘスル×MoMAK 日本のダダ雑誌『マヴォ』研究：その翻訳の可能性」ラウンドテーブルの開催	PARASOPHIA：京都国際現代芸術祭2015
10	児童生徒を対象とした鑑賞教育	展覧会に関連したワークショップの開催 企画展での児童生徒向けガイドの作成	
11	10代を対象とした教育普及プロジェクト	「平成26年度学習支援事業 10代のためのプロジェクト「美術館の放課後」」の実施	
12	ベルリン工芸博物館開館時の展示方法—考—源泉としてのジオラマとグロビウス—族（科研費 基盤C 研究代表者：池田祐子，平成25年～平成27年）	美術館（博物館）における工芸・デザイン作品の展示方法の再考	
13	近代美術工芸における「図案」と「図案家」をめぐる基礎的研究（科研費 若手B 研究代表者：中尾優衣，平成25年～平成28年）	「うるしの近代——京都、「工芸」前夜から」展図録にて研究成果の一部を公開。 平成27年度発行予定の研究論集「CROSS SECTIONS」にて研究成果の一部を発表予定	
14	オーラルヒストリーによる1970年前後の前衛美術とその隣接領域に関する研究（科研費 基盤C 研究代表者：加治屋健司（京都市立芸術大学）研究分担者：牧口千夏，平成25年～平成27年）	所蔵作品作家についての情報収集	京都市立芸術大学
15	1960～70年代の概念芸術：作品の所在調査とデータ・ベース構築（科研費 基盤B 研究代表者：中林和雄（東京国立近代美術館）研究分担者：牧口千夏，平成24年～平成26年）	東京国立近代美術館ギャラリー4で開催した小企画「美術と印刷物—1960-70年代を中心に」にて作品解説を執筆	東京国立近代美術館
16	日本における「美術」概念の再構築—語彙と理論にまたがる総合的研究（科研費 基盤A 研究代表者：山崎剛（金沢美術工芸大学）研究分担者：松原龍一，平成25年～平成27年）	明治以降、欧米を参考になされてきた日本の美術の分類についての再検証と新しい分類の考察	金沢美術工芸大学

17	創造の為のアーカイブの実践的研究～言語・身体・イメージから (科研費 基盤B 研究代表者：高橋悟 (京都市立芸術大学) 研究分担者：牧口千夏, 平成26年～平成28年)	小企画「キュレトリアル・スタディズ08：フロリアン・プムヘスル×MoMAK 日本のダダ雑誌『マヴォ』研究：その翻訳の可能性」ラウンドテーブルの開催 27年3月からのコレクション展で展示する作品の技法面を調査	PARASOPHIA：京都国際現代芸術祭2015, 京都市立芸術大学
----	---	--	------------------------------------

## ウ 国立西洋美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	ジャック・カロ	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	
2	橋本コレクション	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	
3	フェルディナント・ホドラー	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	ベルン美術館, スイス芸術学研究所, 兵庫県立美術館
4	グエルチーノ	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	ボローニャ文化財・美術監督別監督局, チェント市美術館
5	旧松方コレクションを含む松方コレクション全体	作品収集, 作品及び文献調査, 所蔵作品展・企画展, 刊行物, 講演発表, 解説等	
6	中世末期から20世紀初頭の西洋美術	作品収集, 作品及び文献調査, 所蔵作品展・企画展, 刊行物, 講演発表, 解説等	
7	所蔵版画作品	作品収集, 作品及び文献調査, 所蔵作品展・企画展, 刊行物, 講演発表, 解説等	
8	美術館教育	教育普及プログラムを実施。鑑賞教育教材制作, インターンシップ, ボランティア指導, 解説等	
9	ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	教育普及プログラムの実施, 文献及び図面調査	
10	ボルドーの美術	展覧会及び講演会等の開催準備, 図録の刊行	ボルドー美術館, アキテーヌ博物館, ボルドー装飾芸術・デザイン美術館, CAPCボルドー現代美術館, ボルドー市立図書館, ボルドー市立公文書館, ワイン文明博物館 (2016年に開館予定), 福岡市美術館
11	黄金伝説	展覧会及び講演会等の開催準備, 図録の刊行	宮城県美術館, 愛知県美術館
12	カラヴァッジョ	展覧会及び講演会等の開催準備, 図録の刊行	
13	国立西洋美術館所蔵作品データベース (科研費 研究成果公開促進費 (データベース) 研究代表者：川口雅子, 単年度申請)	国立西洋美術館所蔵作品データベースの構築, 整備	
14	17世紀オランダ美術の東洋表象研究 (科研費 基盤A 研究代表者：幸福輝, 平成24年～28年)	作品及び文献調査, データベースの構築	
15	共和主義におけるチャールズ・ウィルソン・ピールのミュージアムの教育的役割と視覚による教育の成立 (科研費 基盤C 研究代表者：横山佐紀, 平成24年～26年)	教育普及活動に関する文献調査, 今後の活動に関する基礎資料	

16	ジャン・パオロ・パニーニの風景画に描かれた古代建築と古代彫刻のデータベース構築（科研費 基盤C 研究代表者：飯塚隆，平成24年～26年）	作品及び文献調査，所蔵作品展・企画展，刊行物，解説等	
17	エライザ法を用いた膠着材同定の実現のための検討（科研費 若手B 研究代表者：高嶋美穂，平成24年～27年）	所蔵作品の保存のための基礎資料	
18	古代ローマ工芸美術の基礎的研究 ～テッラ・シギラタについて～（科研費 基盤C 研究代表者：向井朋生，平成25年～27年）	作品及び文献調査，刊行物等	
19	前衛と古典主義：20世紀イタリア美術における美術館と複製媒体の諸機能に関する研究（科研費 若手B 研究代表者：阿部真弓，平成25年～27年）	作品及び文献調査，刊行物等	

## エ 国立国際美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵作品	展覧会の企画構成，作品の保存・修復	
2	現代美術の動向	展覧会の企画構成，作品の収集活動	
3	ジャン・フォートリエ	展覧会の企画構成，図録の作成	東京ステーションギャラリー，豊田市美術館
4	フィオナ・タン	展覧会の企画構成，図録の作成	東京都写真美術館
5	高松次郎	展覧会の企画構成，図録の準備	東京国立近代美術館
6	ジャコメッティ	展覧会の企画構成	
7	プレイ	展覧会の企画構成，国立国際美術館ニュースでの調査報告	
8	美術館教育	児童・生徒を対象としたイベントの開催等	
9	アジアの現代美術並びに美術館運営	美術館・展覧会運営	クイーンズランド州立美術館，シンガポール美術館，M+
10	現代美術の多様性	展覧会の企画構成	新潟県立万代島美術館，茨城県近代美術館

## オ 国立新美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	中村一美の芸術とその展開についての調査研究	「中村一美展」を開催	
2	先史時代から現代にいたるまでの造形物の機能と役割に関する，受容美学的観点での調査研究	「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」展を開催	国立民族学博物館
3	20世紀初頭から中葉にかけて様々な芸術分野に影響を及ぼした「バレエ・リュス」に関する調査研究	「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」を開催	オーストラリア国立美術館



4	印象派を中心とした19世紀フランス絵画の調査研究	「オルセー美術館展 印象派の誕生 ―描くことの自由―」を開催	オルセー美術館
5	20世紀前半を中心としたヨーロッパ美術の調査研究	「チューリヒ美術館展―印象派からシュルレアリスムまで―」を開催	チューリヒ美術館
6	16世紀から19世紀半ばまでのヨーロッパ風俗画の調査研究	「ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄―」を開催	ルーヴル美術館
7	ルネ・マグリットの芸術とその展開についての調査研究	「マグリット展」を開催	ベルギー王立美術館、マグリット財団
8	日本のマンガ、アニメ、ゲームについての調査研究	平成27年度に予定している「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」展開催に向けた調査	兵庫県立美術館、CG-ARTS協会
9	日韓の現代美術作家に関する調査研究	平成27年度に予定している「アーティスト・ファイル2015 隣の部屋―日本と韓国の作家たち―」展開催に向けた調査	韓国国立現代美術館 国際交流基金
10	美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）に関する調査研究	教育普及事業（ワークショップ等の開催、鑑賞ガイドの配布）	
11	日本とアメリカの美術館等施設における教育事業に関する調査研究	国際シンポジウムを開催	全国美術館会議 教育普及研究部会
12	田村画廊、真木画廊、田村・真木画廊、駒井画廊の写真資料を中心とした画像データベース構築 ―戦後日本美術研究の基盤として―（ポーラ美術振興財団 美術館職員の調査研究助成）	美術資料の収集・提供事業	
13	「国立新美術館を中心としたメディア・アート国際化推進事業」	「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」展を開催予定	
14	「二国間における美術館活動交流事業」	「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋―日本と韓国の作家たち―」展を開催予定	

## ② 展覧会カタログの執筆

本稿が国立美術館の実績報告書であることに鑑み、共同研究・共同発表・共同執筆等における氏名及び職名については、ここでは基本的に国立美術館所属者のもののみを記載することとする。以下同様とする。

### ア 東京国立近代美術館 (本館)

	タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
1	「まえがき」, 「標的は決してその姿をあらわさない 1964-1970s」, 2章解説, 作品解説, 年譜	蔵屋美香 (美術課長)	「高松次郎ミステリーズ」
2	「美術と印刷物」	鈴木勝雄 (主任研究員)	コレクションを中心とした小企画「美術と印刷物」
3	「菱田春草, 15年余の実験」, 章解説, 作品解説, 作品目録, 落款書体チャート	鶴見香織 (主任研究員)	「菱田春草展」
4	「なぜ美術館でコレクターの展覧会が行われ、現代美術が『世界の宝』と呼ばれたのか?」, 「ヤゲオ財団(台湾)理事長ピエール・チェンへのインタビュー」, 「イントロダクション」, 章解説,	保坂健二郎 (主任研究員)	「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」

5	作家略歴・作品解説	保坂健二郎 (主任研究員) 共同執筆者：平井章一(京都国立 近代美術館主任研究員)	「現代美術のハードコアはじつは世界の宝 である展 ヤゲオ財団コレクションより」
6	「それは『絵画』ではなかった 1970s-1998」, 3章解説, 作品解説	保坂健二郎 (主任研究員)	「高松次郎ミステリーズ」
7	「「点」, たとえば, 一つの迷宮事件 1960-63」, 1章解説, 作品解説	榊田倫広 (研究員)	「高松次郎ミステリーズ」
8	「「王国」について」	増田玲 (主任研究員)	「奈良原一高 王国」
9	《落葉》の『無・地 (non-ground) 』について	三輪健仁 (主任研究員)	「菱田春草展」

(工芸館)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「もようわくわく こどもセルフガイド」	今井陽子 (主任研究員)	所蔵作品展 こども+おとな工芸館 もよ うわくわく
2	「もようわくわく おとなセルフガイド」	今井陽子 (主任研究員) 内藤裕子 (客員研究員)	所蔵作品展 こども+おとな工芸館 もよ うわくわく
3	「『青磁』というやきもの」, 「『青磁』— 古陶磁鑑賞から創作への歩み」, 章解説, 第 III章作家解説	唐澤昌宏 (工芸課長)	「青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋 から現代まで」
4	「第IV章 伝統工芸」コラム「文化財保護と 重要無形文化財保持者(人間国宝)」 「伝統 工芸—現代」	唐澤昌宏 (工芸課長)	所蔵作品展 近代工芸案内一名品選による 日本の美
5	年表, 作品解説	諸山正則 (主任研究員)	所蔵作品展 近代工芸案内一名品選による 日本の美
6	「第V章 現代の工芸」, コラム「ファイバ ーワーク」	今井陽子 (主任研究員)	所蔵作品展 近代工芸案内一名品選による 日本の美
7	「第III章 日展, オブジェ, クラフト」 コラ ム「万国博覧会と美術工芸」	木田拓也 (主任研究員)	所蔵作品展 近代工芸案内一名品選による 日本の美
8	コラム「日本のクラフト」 「民藝と個人作家」 「オブジェの系譜」 「モダニズムの工芸家た ち」	北村仁美 (主任研究員)	所蔵作品展 近代工芸案内一名品選による 日本の美
9	作家索引/主要作家解説	内藤裕子 (客員研究員)	所蔵作品展 近代工芸案内一名品選による 日本の美
10	「中村ミナトのジュエリー: ジュエリー&彫 刻」	北村仁美 (主任研究員)	中村ミナトのジュエリー: 四角・球・線・面
11	「中村ミナト 年譜, 文献, 目録」	北村仁美 (主任研究員)	中村ミナトのジュエリー: 四角・球・線・面
12	大阪万博 1970 デザインプロジェクト——「人 類の進歩と調和」をめざして	木田拓也 (主任研究員)	大阪万博 1970 デザインプロジェクト
13	大阪万博 1970 デザインプロジェクト 解説, 年表, 文献	木田拓也 (主任研究員)	大阪万博 1970 デザインプロジェクト

## (フィルムセンター)

	タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
1	フィルムの夢、映画の自由——MoMA コレクションの上映を考える	岡島尚志 （主幹）	MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション
2	雲晴れて愛は輝く	岡島尚志 （主幹）	MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション
3	タイタニック	大澤浄 （研究員）	MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション
4	有名になる方法教えます	大澤浄 （研究員）	MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション

## イ 京都国立近代美術館

	タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
1	ポスター作家略歴	池田祐子 （主任研究員）	チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより
2	上村松篁の画業 —精神風景としての花鳥画—	柳原正樹 （館長）	上村松篁展
3	上村松篁 —人と作品	小倉実子 （主任研究員）	上村松篁展
4	主な作品解説	平井啓修 （研究員） 鈴木博喬 （富山県水墨美術館）	上村松篁展
5	上村松篁略年譜	小倉実子 （主任研究員）	上村松篁展
6	主要文献	小倉実子 （主任研究員）	上村松篁展
7	うるしの近代 —京都、「工芸」前夜から	中尾優衣 （研究員）	うるしの近代——京都、「工芸」前夜から
8	第1章—近代という大波、 第2章—漆を学ぶ、 第3章—漆と暮らす、 第4章—京都の「工芸」	中尾優衣 （研究員）	うるしの近代——京都、「工芸」前夜から
9	文献再録	中尾優衣 （研究員）	うるしの近代——京都、「工芸」前夜から
10	出品資料翻刻	中尾優衣 （研究員）	うるしの近代——京都、「工芸」前夜から
11	略年譜	中尾優衣 （研究員）	うるしの近代——京都、「工芸」前夜から
12	主要作家解説	中尾優衣 （研究員）	うるしの近代——京都、「工芸」前夜から
13	出品リスト（英訳）	池田祐子 （主任研究員）	うるしの近代——京都、「工芸」前夜から
14	作家略歴・作品解説	平井章一 （主任研究員） 共同執筆者：保坂健二郎（東京国立近代美術館主任研究員）	現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより

ウ 国立西洋美術館

	タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
1	「ジャック・カローリアリズムと奇想の劇場」,章解説, 作品解説	中田明日佳 (研究員)	ジャック・カローリアリズムと奇想の劇場
2	作品解説	渡辺晋輔 (主任研究員)	非日常からの呼び声 平野啓一郎が選ぶ西洋美術の名品
3	章解説, 作品解説	飯塚隆 (任期付研究員)	橋本コレクション 指輪 神々の時代から現代まで ― 時を超える輝き
4	「アール・デコの果実と花々」	陳岡めぐみ (主任研究員)	橋本コレクション 指輪 神々の時代から現代まで ― 時を超える輝き
5	「イエスの名を記した指輪」	中田明日佳 (研究員)	橋本コレクション 指輪 神々の時代から現代まで ― 時を超える輝き
6	「チャールズ 1 世の処刑と美術」	川瀬佑介 (研究員)	橋本コレクション 指輪 神々の時代から現代まで ― 時を超える輝き
7	章解説, 作品解説	新藤淳 (研究員)	日本・スイス国交樹立 150 周年記念 フェルディナント・ホドラー展
8	「グエルチーノの絵の“本物らしさ”」, 章解説, 作品解説, 人物紹介	渡辺晋輔 (主任研究員)	よみがえるバロックの画家 グエルチーノ展
9	「幻視絵画としてのグエルチーノ作《ロレートの聖母を礼拝するシエナの聖バルナルディーノと聖フランチェスコ》, 作品解説	川瀬佑介 (研究員)	よみがえるバロックの画家 グエルチーノ展

エ 国立国際美術館

	タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
1	世界の片隅で現代美術が見る夢	安来正博 (主任研究員)	ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉
2	絵画の現実性を求めて―フォートリエの軌跡	山梨俊夫 (館長)	ジャン・フォートリエ展
3	フィオナ・タンをめぐる用語集 (11 の用語解説)	中井康之 (主任研究員)	フィオナ・タン まなざしの詩学
4	美術の冒険とともにあるのは…	山梨俊夫 (館長)	平成 26 年度国立美術館巡回展「国立国際美術館コレクション 美術の冒険」

オ 国立新美術館

	タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
1	「日本におけるバレエ・リュスの受容―1910―20 年代を中心に」	本橋弥生 (主任研究員)	「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」
2	主要参考文献	岩崎美千子 (研究補佐員)	「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」
3	「落選者たち」／「参考文献 フランス近代美術に関する展覧会図録 1945-2014」／章解説「7 章 肖像」	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	「オルセー美術館展 印象派の誕生 ―描くことの自由―」
4	章解説「4 章 裸体」, 「6 章 静物」	宮島綾子 (主任研究員)	「オルセー美術館展 印象派の誕生 ―描くことの自由―」
5	「チューリヒ美術館のコレクションに探る 20 世紀美術の展開」／作品解説 (29 点分)	山田由佳子 (研究員)	「チューリヒ美術館展―印象派からシュルレアリスムまで」
6	作品解説 (23 点分)	長屋光枝 (主任研究員)	「チューリヒ美術館展―印象派からシュルレアリスムまで」

7	作品解説 (11 点分) / 関連年表	長谷川珠緒 (研究補佐員)	「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」
8	「『Peinture de genre』と『風俗画』—用語の生成をめぐって」 / 主要参考文献	宮島綾子 (主任研究員)	「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」
9	「ヨーロッパ風俗画 関連年表」 / 主要参考文献	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」
10	主要参考文献	西美弥子 (研究補佐員)	「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」
11	「ルネ・マグリットとマルセル・デュシャン」 / 作品解説 44 件	南雄介 (副館長兼学芸課長)	「マグリット展」
12	「ショーウィンドウとしての絵画」 / 作品解説 27 件	瀧上華 (アソシエイトフェロー)	「マグリット展」
13	作品解説 15 件 / 主要参考文献	岩崎美千子 (研究補佐員)	「マグリット展」

### ③ 研究紀要の執筆

#### ア 東京国立近代美術館

(本館)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	現実と絵画 赤塚祐二の方法をめぐって	中林和雄 (企画課長)	『東京国立近代美術館 研究紀要』 第 19 号	H27.3.31
2	現代美術展来館者のセグメント別特徴—東京国立近代美術館における来館者調査から—	中世古貴彦 (一般職員)	『東京国立近代美術館 研究紀要』 第 19 号	H27.3.31

(フィルムセンター)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	日露戦争記録映画群のカタログ—ジョゼフ・ローゼンタール撮影『旅順の降伏』の複数バージョン	大傍正規 (研究員)	『東京国立近代美術館 研究紀要』 第 19 号	H27.3.31
2	新外映コレクション—概要と目録	岡田秀則 (主任研究員)	『東京国立近代美術館 研究紀要』 第 19 号	H27.3.31

#### イ 京都国立近代美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
	該当なし			

※研究紀要の発行なし。なお、平成 26 年度及び平成 27 年度の研究紀要として、平成 27 年度に「京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS—Vol. 7」を発行予定。

#### ウ 国立西洋美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	カーレル・ファン・マンデルの「ヤン・ファン・エイクの伝記」における油彩技法に関する記述をめぐって	幸福輝 (客員研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』No. 19	H27.3.31

2	ピーテル・ブリューゲル（父）作《ベツレヘムの住民登録》に関する一考察—作品解釈を中心に—	中田明日佳 （研究員）	『国立西洋美術館研究紀要』No. 19	H27.3.31
3	21世紀の美術館と文化財の想像力—イタリアの3つの美術館の事例をめぐって（1）	阿部真弓 （リサーチフェロー）	『国立西洋美術館研究紀要』No. 19	H27.3.31

## エ 国立新美術館

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名	発行年月日
1	「視覚のタイム・トラベル ガートルード・スタイン, アルフレッド・バーJr., ドロシー・ミラーとともに」	横山由季子 （アソシエイトフェロー）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
2	カンディンスキーと私	長屋光枝 （主任研究員）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
3	日韓的美術館の領分	日比野民蓉 （研究補佐員）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
4	「もうひとつの大ガラス論—フレデリック・キースラー『デザイン・コルレーション』を読む」	瀧上華 （アソシエイトフェロー）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
5	「マックス・エルンストのオシレーションードリップングへの影響論を超えて」	長名大地 （研究補佐員）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
6	「傷ついた女性の身体とレジスタンス—ジャン・フォートリエの〈人質〉の連作をめぐって」	山田由佳子 （研究員）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
7	「Notes on Poussin's use of antique sources in his early works（ニコラ・プッサンの初期作品における古代美術からの図像借用について）」	宮島綾子 （主任研究員）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
8	「『未来の回路』展に寄せて」	南雄介 （副館長）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
9	「国立新美術館情報資料室の活動について」	阿部陽子 （研究補佐員）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
10	「展覧会と美術資料—Materializing Six Years: Lucy R. Lippard and the Emergence of Conceptual Art を例に」	伊村靖子 （研究補佐員）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
11	「美術資料をめぐる回想 松本武氏に聞く」	谷口英理 （アソシエイトフェロー） 伊村靖子 （研究補佐員） 長名大地 （研究補佐員）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
12	「ジョン・デューイの教育哲学に学ぶ, 美術館における教育普及の在り方」	井上絵美子 （研究補佐員）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
13	「美術と美術館と美術情報と」	室屋泰三 （主任研究員）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28
14	「黒川紀章メモリアル INTER-DESIGN FORUM TOKYO 2013 『共生のアジアへ』 Towards Symbiosis of Asia 報告」	吉澤菜摘 （アソシエイトフェロー）	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 No.1	H26.11.28

15	「黒川紀章メモリアル INTER-DESIGN FORUM TOKYO 2013 『共生のアジアへ』 Towards Symbiosis of Asia シンポジウム 『建築と美術館の未来』採録」	吉澤菜摘 (アソシエイトフェロー)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』No.1	H26.11.28
----	--	----------------------	------------------------------	-----------

#### ④ 館ニュース等の執筆

##### ア 東京国立近代美術館 (本館)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「『あなたの肖像—工藤哲巳回顧展』の広報について」	飛鳥川みつき (研究補佐員)	『現代の眼』606号	H26.6.1
2	「靨光の細密素描《作品》の制作時期をめぐって」	大谷省吾 (主任研究員)	『現代の眼』607号	H26.8.1
3	「新しいコレクション アレクサンダー・カルダー《モンスター》」	蔵屋美香 (美術課長)	『現代の眼』609号	H26.10.1
4	「新しいコレクション 山下菊二《あけぼの村物語》」	鈴木勝雄 (主任研究員)	『現代の眼』605号	H26.4.1
5	「新しいコレクション 中西夏之《コンパクト・オブジェ》」	鈴木勝雄 (主任研究員)	『現代の眼』609号	H26.10.1
6	「新しいコレクション 吉川壺華《離騷》」	鶴見香織 (主任研究員)	『現代の眼』606号	H26.6.1
7	「新しいコレクション 川端龍子《新樹の曲》」	鶴見香織 (主任研究員)	『現代の眼』610号	H27.2.1
8	「現代」におけるコレクターについて：宮津大輔氏、藤城里香氏に聞く」（構成・文責を担当）	保坂健二郎 (主任研究員)	『現代の眼』608号	H27.10.1
9	「作品研究 大下藤次郎の立つところ—百年前の《穂高山の麓》を探して」	梶田倫広 (研究員)	『現代の眼』608号	H26.10.1
10	「新しいコレクション 渡辺克巳《ゲイボーイ、新宿》」	増田玲 (主任研究員)	『現代の眼』607号	H26.8.1
11	「土田麦僊《島の女》再考— [その1] 部分と全体」	三輪健仁 (主任研究員)	『現代の眼』609号	H26.12.1

##### (工芸館)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「新しいコレクション 佐々木苑子《絵絣紬着物風の香》」	今井陽子 (主任研究員)	『現代の眼』605号	H26.4.1
2	[On view] 繰り返す型の造形思考：所蔵作品展「こども+おとな工芸館 もようわくわく」	今井陽子 (主任研究員)	『現代の眼』606号	H26.6.1
3	子どもと一緒に工芸鑑賞：「もようわくわく」展の試み	今井陽子 (主任研究員)	『現代の眼』610号	H27.2.1
4	「新しいコレクション 岡部嶺男《青織部縄文鼎》」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『現代の眼』606号	H26.6.1
5	On view 青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで「後記」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『現代の眼』608号	H26.10.1

6	「花展を準備しながら考えたこと—二代横山彌左衛門の《菊花文飾壺》	木田拓也 (主任研究員)	『現代の眼』605号	H26.4.1
7	「新しいコレクション 石黒宗鷹《失透釉茶碗》」	木田拓也 (主任研究員)	『現代の眼』608号	H26.10.1
8	「新しいコレクション 北原千鹿《羊》」	北村仁美 (主任研究員)	『現代の眼』607号	H26.8.1
9	「新しいコレクション 二十代堆朱楊成《彫漆硯箱 玄鶴》」	内藤裕子 (客員研究員)	『現代の眼』608号	H26.10.1
10	On view 所蔵作品展 近代工芸案内—名品選による日本の美「後記」	諸山正則 (主任研究員)	『現代の眼』609号	H26.12.1
11	新しいコレクション 吉田源十郎《柘榴之図乾漆硯箱》	諸山正則 (主任研究員)	『現代の眼』610号	H27.2.1

(フィルムセンター)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	小津安二郎カラー作品のデジタル復元を支えた3つの力	榎木章 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』第115号	H26.6.1
2	外式コニカラー, 色褪せぬ淡彩	大傍正規 (研究員)	『NFC ニューズレター』第114号	H26.4.1
3	第一次世界大戦から100年を迎えて—デジタル化の推進とアナログ技術の継承	大傍正規 (研究員)	『NFC ニューズレター』第116号	H26.8.1
4	複数バージョンとデジタル復元の現在	大傍正規 (研究員)	『NFC ニューズレター』第117号	H26.10.1
5	映画フィルムのデータベース化と「フィルム調査カード」の作成プロセス	大傍正規 (研究員)	『NFC ニューズレター』第119号	H27.2.1
6	フィルム・アーカイブ間の新たな連携の可能性について	岡島尚志 (主幹)	『NFC ニューズレター』第114号	H26.4.1
7	フィルムたちのいるところ—アメリカ映画保存の現状を考えながら—	岡島尚志 (主幹)	『NFC ニューズレター』第116号	H26.8.1
8	映画, いまだとどまらず (スティル・ムーヴィング) ——MoMA 映画コレクションの精華	岡島尚志 (主幹)	『NFC ニューズレター』第118号	H26.12.1
9	小津安二郎カラー作品のデジタル復元を支えた3つの力	榎木章 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』第115号	H26.6.1
10	《映画》と溶け合う《文字》——現代の映画タイトルと赤松陽構造の仕事	岡田秀則 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』第114号	H26.4.1
11	西日本の二つの映画資料館——松永文庫と八丁座映画図書館	岡田秀則 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』第115号	H26.6.1
12	ドミー/ドゥミー/ドゥミ——私たちのジャック	岡田秀則 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』第116号	H26.8.1
13	展示室・常設展のギャラリートークと音声資料紹介の意義	岡田秀則 (主任研究員) (佐崎順昭と共著)	『NFC ニューズレター』第119号	H27.2.1
14	技術, 経済, 政策——日本の初期カラー映画の一断面	大澤浄 (研究員)	『NFC ニューズレター』第114号	H26.4.1
15	大森一樹監督インタビュー (下) ハッピーエンドで落ち着くというのが自分の映画ではしっくりこないんです。	佐々木淳 [聞き手・構成] (客員研究員) 大澤浄 [聞き手] (研究員)	『NFC ニューズレター』第114号	H26.4.1



16	『しびれくらげ』	大澤浄 (研究員)	『NFC ニューズレター』第 116 号	H26.8.1
17	芸術の日常化, 日常の芸術化——千葉泰樹作品における歌うこと	大澤浄 (研究員)	『NFC ニューズレター』第 118 号	H26.12.1
18	千葉泰樹フィルモグラフィ―千葉泰樹年譜	大澤浄 (研究員)	『NFC ニューズレター』第 118 号	H26.12.1
19	井筒和幸監督インタビュー アメリカン・ニューシネマとピンク映画こそが僕の原点。	佐々木淳 [聞き手・構成] (客員研究員) 大澤浄 [聞き手・構成] (研究員)	『NFC ニューズレター』第 119 号	H27.2.1

## イ 京都国立近代美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	遡及的五十周年特集 第 1 部—近年の収蔵品から 平成二十四年度収蔵の日本画について	小倉実子 (主任研究員)	京都国立近代美術館ニュース『視る』464号	H27.1.23
2	遡及的五十周年特集 第 1 部—近年の収蔵品から ダダ・コレクションの出発点—京近美とハンナ・ヘッヒ	池田祐子 (主任研究員)	京都国立近代美術館ニュース『視る』464号	H27.1.23
3	遡及的五十周年特集 第 1 部—近年の収蔵品から 岸田劉生《門と草と道》—芝川照吉コレクションより	平井啓修 (研究員)	京都国立近代美術館ニュース『視る』464号	H27.1.23
4	遡及的五十周年特集 第 2 部—五十年を振り返る コレクションに思うこと—工芸の場合	中尾優衣 (研究員)	京都国立近代美術館ニュース『視る』464号	H27.1.23
5	遡及的五十周年特集 第 2 部—五十年を振り返る 現代美術の動向展	平井章一 (主任研究員)	京都国立近代美術館ニュース『視る』464号	H27.1.23
6	遡及的五十周年特集 第 2 部—五十年を振り返る 【その他】=分類できないもの?	牧口千夏 (主任研究員)	京都国立近代美術館ニュース『視る』464号	H27.1.23
7	チェコの映画ポスター (和訳)	池田祐子 (主任研究員)	京都国立近代美術館ニュース『視る』470号	H26.5.26

## ウ 国立西洋美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	企画展「橋本コレクション 指輪 神々の時代から現代まで — 時を超える輝き」	飯塚隆 (研究員)	『ZEPHYROS』第 59 号	H26.5.20
2	小企画展「私は見た：フランシスコ・デ・ゴヤの版画における夢と現実」	川瀬佑介 (研究員)	『ZEPHYROS』第 59 号	H26.5.20
3	「Fun with Collection 2014 リング・リング」	寺島洋子 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第 59 号	H26.5.20
4	企画展「日本・スイス国交樹立 150 周年記念 フェルディナント・ホドラー展」	新藤淳 (研究員)	『ZEPHYROS』第 60 号	H26.8.20
5	小企画展「ネーデルラントの寓意版画」	中田明日佳 (研究員)	『ZEPHYROS』第 60 号	H26.8.20
6	スクール・ギャラリートーク「鑑賞は知的冒険」	寺島洋子 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第 60 号	H26.8.20

7	美術館という機能について	馬淵明子 (館長)	『ZEPHYROS』第61号	H26.11.20
8	報告：2013年度収蔵作品について	陳岡めぐみ (主任研究員)	『ZEPHYROS』第61号	H26.11.20
9	企画展「グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家」	渡辺晋輔 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第62号	H27.2.20
10	小企画展「世紀末の幻想—近代フランスのリトグラフとエッチング」	袴田紘代 (研究員)	『ZEPHYROS』第62号	H27.2.20
11	保存科学の仕事	高嶋美穂 (研究補佐員)	『ZEPHYROS』第62号	H27.2.20

## エ 国立国際美術館

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名	発行年月日
1	在外調査報告（二） 三つの雑感	中西博之 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』201号	H26.4.1
2	エロディ・ロワイエ&ヨアン・グルメル『The Play/ザ・プレイ』（三）	翻訳：橋本梓 (研究員)	『国立国際美術館ニュース』201号	H26.4.1
3	ノスタルジーの中をさまよひ続ける現代人のファンタジー 「ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉」展開催にあたって	安来正博 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』202号	H26.6.1
4	現代美術のコレクションが語りかけること	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』202号	H26.6.1
5	エロディ・ロワイエ&ヨアン・グルメル『The Play/ザ・プレイ』（四）	翻訳：橋本梓 (研究員)	『国立国際美術館ニュース』202号	H26.6.1
6	「第一回 PLAY 展」	橋本梓 (研究員)	『国立国際美術館ニュース』203号	H26.8.1
7	映画《當倉》についての覚え書き	大橋勝 (客員研究員)	『国立国際美術館ニュース』204号	H26.10.1
8	館蔵品紹介	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』204号	H26.10.1
9	卵とプレイ	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』204号	H26.10.1
10	フィオナ・タンの映像作品について	中井康之 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』205号	H26.12.1
11	一九六八年の「ハプニング」	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』205号	H26.12.1
12	館蔵品紹介	安来正博 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』206号	H27.2.1
13	在外派遣研修報告（オーストラリア，シンガポール，香港）	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』206号	H27.2.1

## オ 国立新美術館

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名	発行年月日
	該当なし			

## (6) 快適な観覧環境の提供

### ① 高齢者、身体障害者、外国人等への対応

平成 26 年度の新規実施事項

- ・展示室に LED 照明を導入（京都国立近代美術館）
- ・アンケートで要望が多かった給水機を設置（京都国立近代美術館）
- ・会場内の空調の寒さ対策として、ブランケットの貸出（国立新美術館）
- ・無線アクセスポイント（Wi-Fi）の試験運用を 1 階ロビーにて開始（国立新美術館）

各館共通の継続実施事項

- ・多目的（身体障害者用）トイレ，エレベータ（エスカレータ），スロープ（手摺り）の設置
- ・車椅子，ベビーカー（国立西洋美術館は除く）の貸出
- ・身体障害者用駐車スペース（国立国際美術館は除く）の提供
- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・盲導犬，介助犬の同伴による観覧
- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット，ミュージアムカレンダー等の配布
- ・所蔵作品展（常設展），企画展（一部を除く）において作品リスト（日・英）の配布
- ・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
- ・オストメイト（人工肛門，人工膀胱保有者）用の設備を設置
- ・キャプションに英語表記を併記
- ・英語版ホームページの公開

各館ごとの継続実施事項

- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し，外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引（東京国立近代美術館，国立西洋美術館）
- ・所蔵作品展「MOMATコレクション」英語版音声ガイドを導入（東京国立近代美術館本館）
- ・インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置（京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立新美術館）
- ・授乳室（1階）の設置（京都国立近代美術館）
- ・貸出用拡大鏡16個を設置するとともに，授乳室及び安全仕様のキッズルームを地下 1 階に設置し，幼児向け絵本約400冊を常設（国立国際美術館）
- ・授乳室（地下1階）の設置，点字ブロック（正門から正面入口，地下鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベータ内他）の設置，補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機10台），ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示，託児サービスの実施，文字を大きくし，見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布，並びに最寄駅方面への分かりやすい案内表示板2枚設置（国立新美術館）

## ② 展示、解説の工夫と音声ガイドの導入

### 平成 26 年度の新規実施事項

- ・工芸館パンフレットの作成（東京国立近代美術館工芸館）
- ・「ジャック・カローリアリズムと奇想の劇場」及び「橋本コレクション 指輪 神々の時代から現代まで ― 時を超える輝き」における鑑賞補助システムの導入（国立西洋美術館）
- ・「ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」におけるジュニア版音声ガイドの導入（国立新美術館）

### 各館共通の継続実施事項

- ・共催展における音声ガイドの導入
- ・館内リーフレット，フロアプラン，ミュージアムカレンダー等の配布

### 各館ごとの継続実施事項

- ・館内サインの拡大・多言語化，所蔵作品展における「重要文化財」のキャプション表示の追加，ホームページ上の重要文化財作品の特設解説ページ設置，所蔵作品展における英語版音声ガイドの貸出（東京国立近代美術館本館）
- ・キャプションサイズの拡大化，作品名のふりがな及び素材・技法の追記（東京国立近代美術館工芸館）
- ・常設展「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」において，児童生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」を配布（東京国立近代美術館フィルムセンター）
- ・美術館ニュース『視る』の配布，共催展における児童生徒向けガイドの配布（京都国立近代美術館）
- ・企画展における児童生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布，本館の建築探検マップ（日・英・仏・韓・中国語版）や館広報（館ニュース Zephyros の最新号及びバックナンバー）の配布及びホームページ掲載，常設展ガイドとして利用できる iPhone/iPod Touch・Android 携帯端末専用アプリ「Touch the Museum」の無料配信（平成 27 年度更新予定）。このほか，企画展の解説パネルを，見やすいよう拡大文字の冊子に加工し展示室内に配置，版画展開催の際には，版画の技法を説明した小冊子を展示室内に配置している。（国立西洋美術館）
- ・作品紹介キャプションにおける見やすさの追求（国立国際美術館）
- ・「イメージの力―国立民族学博物館コレクションにさぐる」展鑑賞ガイド『アートのとびら 国立新美術館ガイドブック vol.8』（日英併記），「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」鑑賞ガイド，「オルセー美術館展 印象派の誕生 ―描くことの自由―」の見どころ紹介小冊子，「チューリヒ美術館展―印象派からシュルレアリスムまで」鑑賞ガイド，「ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」ジュニアガイド，「マグリット展」鑑賞ガイドの配布（国立新美術館）

### ③ 入場料金、開館時間等の弾力化

国際博物館の日（5月18日、東京国立近代美術館フィルムセンターの上映会を除く）及び文化の日（11月3日、国立新美術館を除く）の所蔵作品展（常設展）の観覧料を無料にするともに、夜間開館の実施、年始やゴールデンウィーク等休館日の臨時開館を実施した。また、所蔵作品展及び自主企画展の高校生以下及び18歳未満の者の観覧料の無料化についての周知に努めた。

その他、平成26年度の各館の取組は以下のとおりである。

#### （ア）東京国立近代美術館

- ・ 第一日曜日の所蔵作品展の無料観覧を実施（本館・工芸館）
- ・ クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売（本館・工芸館）
- ・ 東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎月第三土曜、日曜に優待券を提示した高校生以下の子どもを連れた家族に所蔵作品展の割引を実施（本館・工芸館）
- ・ 東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引を実施（本館・工芸館）
- ・ 「東京マラソン2015」イベントガイド持参者についての、所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施（本館・工芸館）
- ・ JAF 会員証提示による観覧料（個人一般）割引を実施（本館・工芸館）
- ・ 年始は1月2日から開館（本館所蔵作品展は無料）し、図録やオリジナルグッズをプレゼント（本館・工芸館）
- ・ 共催展においてペア観覧券等による観覧料割引を実施（本館）
- ・ 「映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める」展において、使用済入場券の提示で2回目は特別料金で観覧可能とするリピーター割引を実施（本館）
- ・ 桜花期における休館日について、臨時開館を実施（本館：3月23日、3月30日、工芸館：4月7日、3月23日、3月30日）
- ・ 共催展「青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで」と本館開催の「菱田春草展」、及び上野の森美術館開催の「ボストン美術館浮世絵名品展」において、半券提示による相互割引を実施（工芸館）

#### （イ）京都国立近代美術館

- ・ 企画展を開催しない土曜日について、所蔵作品展の無料観覧を実施
- ・ 「京都岡崎ハレ舞台」への協力の一環として特別夜間開館を実施（9月20日、21日）
- ・ 「関西文化の日」にちなみ、所蔵作品展の無料観覧を実施（11月15日、16日）
- ・ 京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と組織する「京都ミュージアムズ・フォー」において、各館の友の会と相互割引を実施
- ・ 近隣の京都市美術館、細見美術館と連携し、相互割引を実施
- ・ JAF 会員証提示による観覧料（個人一般）割引を実施
- ・ 朝日新聞グループ 朝日友の会、京都新聞 トマト倶楽部、神戸新聞 ミントクラブ、神姫バス ニコパクラブ、山陽新聞 さん太クラブ、中国新聞 ちゅーピーくらぶ、阪急阪神カード及び京阪カードの情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施

#### （ウ）国立西洋美術館

- ・ クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売

- ・平成 26 年度は全館休館の期間（1 月 13 日～3 月 2 日）を除き年間を通じて開館時間を 30 分延長し、午後 5 時 30 分まで開館
- ・第二・第四土曜日の所蔵作品展（常設展）の無料観覧を実施
- ・教育普及プログラム「ファン・デー」の開催に伴い、常設展の無料観覧を実施（9 月 27 日、28 日）
- ・上野公園での明かりと稔りのフェスティバル「創エネ・あかりパーク 2014」に参加し、午後 8 時まで延長開館を実施（11 月 1 日、2 日）
- ・お盆期間と桜花期における休館日について、臨時開館を実施（8 月 11 日、3 月 30 日）
- ・国立西洋美術館，東京国立博物館，国立科学博物館の国立 3 館共通入場券（所蔵作品展・期間限定）を開発。併せて、上野地区内の施設や商業施設との連携を深めることにより、入館サービスの向上を図り、来館者数増を目指し、今後の継続実施に向けての検証を行う。
- ・「日本・スイス国交樹立 150 周年記念 フェルディナント・ホドラー展」において、国立新美術館開催の「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」と半券提示による相互割引を実施。
- ・「グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家」において、国立新美術館開催の「マグリット展」及び国立科学博物館開催の「大アマゾン展」と半券提示による相互割引を実施。
- ・東京メトロ，都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引を実施。
- ・共催展において、ペア観覧券等による観覧料割引を実施。

#### （エ）国立国際美術館

- ・毎月第一土曜日に、所蔵作品展の無料観覧を実施
- ・開館期間中の金曜日に、午後 7 時まで延長開館を実施
- ・文化の日に企画展を含む全館無料化を実施（11 月 3 日）
- ・関西文化の日に、所蔵作品展の無料観覧を実施（11 月 16 日、17 日）
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会，阪急阪神カード，京阪カード及び大阪市交通局の情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・「ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉」展において、JAF 会員証提示による観覧料（個人一般・大学生）割引を実施
- ・近隣ホテルと連携し、ホテル利用者のうち、希望者に入場割引券を配布し、展覧会広報を行うとともに観覧料割引を実施
- ・国立国際美術館開催の展覧会の半券持参等により、提携ホテルで特典が受けられるよう近隣ホテルとの連携を強化
- ・近隣提携ホテルでの国立国際美術館観覧券付き宿泊プランの実施
- ・近隣の映画館と提携し、美術館関連映画作品と国立国際美術館の映像展（「フィオナ・タン まなざしの詩学」）の半券提示により双方での観覧料割引を実施

#### （オ）国立新美術館

- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売
- ・「平成 26 年度 [第 18 回] 文化庁メディア芸術祭」の無料観覧を実施
- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・東京メトロ，都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引を実施

- ・共催展において、ペア観覧券等による観覧料割引を実施
- ・共催展において、高校生無料観覧日の設定を推進
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引を実施
- ・自主企画展において、公募団体展と企画展の観覧料の相互割引に関し、65歳以上の割引後観覧料に大学生団体料金を適用し、高齢者の観覧料の低廉化
- ・自主企画展において、高校生及び18歳未満の者の無料観覧を実施
- ・共催展において、政府による美術品補償制度の還元策として、高校生の無料観覧を実施（「オルセー美術館展 印象派の誕生 一描くことの自由―」（7月24日～8月12日、計18日間）、「ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」（3月18日～4月6日、計18日間）、「マグリット展」（3月25日～4月13日、計18日間））
- ・休館日に臨時開館を実施（4月30日、8月12日、10月14日）
- ・「イメージの力―国立民族学博物館コレクションにさぐる」展及び「中村一美展」において、国際博物館の日の無料観覧を実施（5月18日）
- ・「六本木アートナイト」の開催に伴い、午後10時までの延長開館と無料観覧を実施（4月19日）
- ・隣接する政策研究大学院大学との連携を深めるため、自主企画展において同大学の学生の観覧料の無料化及び学生証の提示による入場の弾力化を実施
- ・共催展に加え自主企画展において、観覧券をインターネット上でオンライン販売
- ・「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」において、午後8時までの夜間開館を実施（8月16日、23日、30日）
- ・「オルセー美術館展 印象派の誕生 一描くことの自由―」において、午後8時までの夜間開館を実施（8月16日、23日、30日、9月6日、13日、20日、27日、10月4日、11日～16日、18～20日）するとともに、休館日の臨時開館を実施（10月14日）
- ・「チューリヒ美術館展―印象派からシュルレアリスムまで」において、国立西洋美術館開催の「ホドラー展」と観覧料の相互割引を実施
- ・「ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」において、三菱一号館美術館開催の「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展」と観覧料の相互割引を実施
- ・「マグリット展」において、国立西洋美術館開催の「グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家」、国立科学博物館開催の「大アマゾン展」及び三菱一号館美術館開催の「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展」と観覧料の相互割引を実施

#### ④ キャンパスメンバーズ制度の実施

国立美術館全体の事業として平成18年12月から実施している、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、引き続き特設サイト（パソコン版、モバイル版）において各館の展覧会情報を提供するとともに、サイトを周知するためのポスター及びチラシを加入校に配布するなど利用促進に努めた。平成26年度の実績としては、メンバー校は全80校、利用者数は全館合計で76,675名となっている。

## ⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、所蔵作品の図版を使用したポストカードや図柄を活用したオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなどの広報宣伝を行った。また、レストランについては、企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。

その他、平成 26 年度の各館の取組は以下のとおりである。

### (ア) 東京国立近代美術館

#### <ミュージアムショップ>

- ・本館では、引き続きシンボルマークを活用したオリジナルグッズ（Tシャツ、トートバッグなど）の販売を行った。また、共催展においては、共催者等と密に連携し、展覧会に応じた多様な商品を販売することで、ショップの充実を図った。
- ・工芸館では、「青磁のいま―受け継がれた技と美 南宋から現代まで」展の現役出品作家 10 名のうち 7 名の小品を工芸館のミュージアムショップで販売した。また、「中村ミナトのジュエリー：四角・球・線・面」においても、出品作家の中村ミナト氏のジュエリーを販売した。
- ・ミュージアムショップのないフィルムセンターでは、上映会・展覧会の企画内容にあわせた書籍等の委託販売を行っているが、平成 26 年度はミュージアムショップの開設に向け専門の企業と検討を行った。

#### <レストラン>

- ・レストランと協力し、「菱田春草展」の際にコースメニューに作品をイメージした料理を加えるとともに、美術館テラス側での営業を行い、より気軽に利用できるような取組を行った。

### (イ) 京都国立近代美術館

#### <ミュージアムショップ>

- ・「平成 26 年度学習支援事業 10 代のためのプロジェクト「美術館の放課後」」の開催に関連して、世界各国に伝わる郷土菓子の販売を行った。
- ・平成 25 年度より販売を続けている「上野リチ」オリジナルグッズについて、好評につき商品の種類を増やした。
- ・従前より販売を続けている所蔵作品のポストカードについて、種類を増やして品揃えをより充実させた。

#### <レストラン>

- ・春夏と秋冬でメニューを入れ替え、京都の旬の食材を使った手作りのメニューを提供するとともに、企画展に合わせたテーマランチやテーマデザートの提供を行った。
- ・「平成 26 年度学習支援事業 10 代のためのプロジェクト「美術館の放課後」」の開催に関連して、レストランでも世界各国に伝わる郷土菓子の販売を行った。
- ・「京都岡崎ハレ舞台」への協力の一環として行われた特別夜間開館では、レストランを会場にオルガンコンサート「音あそびの会」を開催した。
- ・平成 25 年度に刷新したホームページでは、郷土菓子の販売やオルガンコンサートの開催に合わせて情報を掲載し、周知に努めた。



(ウ) 国立西洋美術館

<ミュージアムショップ>

- ・販売品の充実のため、例年に引き続きオリジナルグッズ新商品の開発を行った。

<レストラン>

- ・各企画展に関連したメニューを開発し、提供した。
- ・美術館の前庭において、カフェの営業を検討した。

(エ) 国立国際美術館

<ミュージアムショップ>

- ・引き続き、所蔵作品の絵葉書、レターセットや、美術館のロゴ入りマグカップ、Tシャツ、キーホルダー等、オリジナルグッズの充実を心掛けたほか、企画展に合わせて、出展作家に関連した書籍、DVD等の販売を行い、来館者のニーズに合わせた運営を行った。

<レストラン>

- ・「ジャン・フォートリエ展」に合わせて、特別メニューを用意し、同展観覧券提示により、割引料金で提供した。

(オ) 国立新美術館

<ミュージアムショップ>

- ・平成25年度から設置した1階のミュージアムショップの運営に伴い、ミュージアムショップ用のロゴをリニューアルし、かつ、マグカップやボールペン等のオリジナルグッズを製作した。

<レストラン>

- ・引き続き、展覧会にゆかりのある特別メニューを企画・提供した。

## 2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

### (1) 美術作品の収集

館名		購入点数	購入金額	寄贈点数	年度末所蔵作品数	年度末寄託品数
東京国立近代美術館	本館	10	2,213,964,600	123	12,614	216
	工芸館	21	57,611,404	113	3,450	94
京都国立近代美術館		41	337,010,000	6	11,541	858
国立西洋美術館		8	1,140,975,270	12	5,549	123
国立国際美術館		24	48,059,448	47	7,194	243
計		104	3,797,620,722	301	40,348	1,534

館名		購入本数	購入金額	寄贈本数	年度末所蔵本数	年度末寄託品本数
東京国立近代美術館（フィルムセンター）		304	313,093,797	3,348	75,942	8,018

#### ア 平成26年度の収集方針

館名	平成26年度の収集方針	
東京国立近代美術館	本館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1970年代以降の日本と海外の作品の収集</li> <li>・日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集</li> <li>・1900-1940年代の日本画作品の収集</li> </ul>
	工芸館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本工芸の近代化を示す作品の補充</li> <li>・戦後から現代にいたる伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集</li> <li>・近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集</li> </ul>
京都国立近代美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作の積極的収集</li> <li>・優れた写真作品の収集</li> <li>・前衛的傾向を示す海外の美術作品の収集</li> <li>・京都を中心とする関西ないし西日本の地域性に立脚した所蔵作品の充実</li> </ul>	
国立西洋美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15～20世紀ヨーロッパ絵画の収集</li> <li>・ヨーロッパ版画の系統的収集</li> <li>・国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集の継続</li> </ul>	
国立国際美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1945年以降の日本の現代美術作品の系統的収集の継続</li> <li>・国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集の継続</li> </ul>	

館名	平成26年度の収集方針
東京国立近代美術館（フィルムセンター）	<p>映画を、芸術作品、文化遺産、歴史資料として網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集等優先順位を設けながら、以下の点に留意して収集。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期トーキー、初期カラーの試みを反映した作品の収集・復元</li> <li>・外国映画の名作・ヒット作、主要な映画監督の代表作、日本と関わりのある外国映画等の収集、及び所蔵外国映画フィルムの不燃化・複製化</li> <li>・企業の管理下に置かれない自主製作映画、実験映画等のさらなる収集と復元</li> </ul>

## イ 平成 26 年度の特記事項

### (ア) 東京国立近代美術館

#### (本館)

##### <購入>

特筆すべきは、特別購入予算によるポール・セザンヌ《大きな花束》の購入である。20 世紀絵画の父と位置付けられ、明治末から日本の芸術家たちに大きな影響を与え続けて来たセザンヌ作品の収蔵は、東京国立近代美術館の長年の課題であったが、今回静物画として最大クラスの充実した作品を購入することができた。

また、これまでも映像、印刷物などの収集に努めてきたアメリカの作家、ロバート・スミッソンの、初の立体作品であり、ミュージアム・ピースとしてほぼ最後と考えられる《ノン・サイト(デス・バレエの南, 127 号線上のリッグスとシルヴァー湖の間で採取された石灰岩)》も今回購入した。

##### <受贈>

日本における女性映像作家の先駆である出光真子の全ビデオ作品、計 16 点を受贈した。作家の意思に基づき、ニューヨーク近代美術館、パリ国立近代美術館と東京国立近代美術館それぞれに分けて全作品の寄贈を進めるプロジェクトの一環であり、東京国立近代美術館としては保管の便を考慮し、フィルム作品をフィルムセンターで、ビデオ作品を本館で、それぞれ受贈し、施設内で相互に活用できる体制を整えた。他に「空蓮房 谷口昌良コレクション」より写真作品全 64 点を受贈した。

#### (工芸館)

##### <購入>

石黒宗麿や前田昭博の陶磁、村上良子の染織、中野孝一の漆芸、山本晃の金工など伝統工芸系の作家による作品、加藤清之や宮下善爾といった日展系の作家による陶磁、笹山忠保や佐藤敏、坪井明日香、十二代三輪休雪の陶磁オブジェなど、戦後における工芸の各分野に亘って、バランスの取れた作品購入を行うことができた。国内の現代作家のものとしては陶磁の八木明や七宝の武山直樹らの近作を、国外ではイギリスのハンス・コパーの代表的な陶磁作品を購入した。また、工業デザイン部門では、近代を代表するマルセル・ブロイヤールのもっとも貴重で重要な作品である《クラブ・チェア B3 (ワシリー)》を購入した。

##### <受贈>

富本憲吉の大正期末から昭和初期頃の陶磁小品 2 点と、鹿児島寿蔵の初期の紙塑人形作品 3 点を受贈した。そのほか、内田邦夫のクラフト作品や加守田章二、笹山忠保、宮下善爾の造形的な作品、鈴田滋人や福本潮子の着物作品、面屋庄甫の現代の人形作品、築添正生の近年のジュエリー作品などを受贈した。

さらに、長野のコレクターの遺族から申し出があり、大量のコレクションのうちから 92 点の作品を選択して受け入れた。この中には、漆芸を主として、陶磁や金工、木竹工等の伝統工芸における重要無形文化財保持者をはじめとした、現代を担う気鋭の作家らの作品があった。また、漆芸の赤塚自得や小川松民、二十代堆朱楊成、金工の香取秀真や海野清、竹工の初代田辺竹雲齋らによる、明治から大正、昭和初期頃に制作されたと思われる貴重な作品も含まれており、工芸館のコレクションの充実が図られた。

#### (フィルムセンター)

##### <購入>

上映企画に合わせ、『ぐれん隊純情派』(1963 年)等増村保造監督作品 13 作品 27 本、『サラリーマン 目白三平』(1955 年)等千葉泰樹監督 22 作品 34 本、『ビッグ・トレイル』(ラオール・ウォルシュ監督, 1930 年)等、ニューヨーク近代美術館が所蔵する作品の 35

mm 日本語字幕付プリント 12 本を、コミュニティシネマセンターより購入した。また、プラネット映画資料図書館より、大藤信郎監督『のろまな爺』（1924 年）、『竹取物語』（1961 年）デジタル復元版など、16 作品 32 本を購入した。

映画関連資料については、新刊の映画関連図書の購入を行っているほか、古書店との連携を密にして情報を収集し、未収蔵の古書や映画資料の購入を進めた。

<受贈>

神奈川県より戦後ニュース映画を代表する『神奈川ニュース』の原版類 982 本の大量寄贈を受け入れた。また、戦前から戦後にかけて、京都の自由主義的な環境の中でアマチュア映画製作を行ってきた能勢克男のフィルムについて、原版類を含む 62 本を受贈した。また、記録映画作家・松川八洲雄の代表作『鳥獣戯画』（1966 年）のオリジナルネガ、1970 年前後の個人映画を代表する作家・奥村昭夫の『三人でする接吻』（1968 年）のオリジナルネガ、神奈川県立図書館より戦後 CIE 及び USIS 映画作品のプリント 57 本を受贈したことも、特筆される。

映画関連資料については、協同組合日本シナリオ作家協会より戦前期の時代劇を革新した脚本家三村伸太郎旧蔵の原稿・脚本など 171 点が寄贈されたほか、日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムより映画脚本 1,188 点の寄贈を受けている。また、カンヌ国際映画祭『挑戦』受賞トロフィー（1964 年）の寄贈手続きがなされたことも重要なトピックである。さらに、映画評論家津村秀夫関連の写真、映画美術監督久保一雄関連資料など、日本映画を担った映画人の資料が引き続きフィルムセンターに収められることとなった。

#### (イ) 京都国立近代美術館

<購入>

特別購入予算で購入した《蓬莱雲鶴図八足脚机》の収集は、海外流失の恐れがあったところを緊急に対応し流出を防いだという意味で、大きな成果であった。また、長い間行方知れずであった安井曾太郎《孔雀と女》が発見され、これを特別購入予算で購入できたことは、日本洋画史に対しても一つの貢献となった。そのほか、15 代樂吉左衛門がフランス、ルビニャックで制作した陶芸作品は、制作期間が 2007 年からの 4 年間のみで今後作られることの無いものであるため、そのような貴重な作品を購入できたことは陶芸史研究の上でも重要であった。

<受贈>

京都市立美術大学日本画科に学んだ作家を中心に結成し、従来の日本画の概念ではとらえられない実験的な作品を制作した「ケラ美術協会」の参加作家、野村久之と物部隆一の作品を受贈したことは、京都の日本画を考える上で重要であった。

また、京都国立近代美術館では、開館以来およそ 15 年間にわたって定期的に開催していた「現代美術の動向」展（後に「現代美術の鳥瞰」展と改称）の出品作、ないしはそれに準じる作品を適時収集しているが、平成 26 年度には、関西の戦後の立体造形を代表する作家であり「現代美術の動向」展出品作家でもある森口宏一の作品について、「現代美術の動向」展に出品したのと同年に制作された作品を発見し、受贈した。このことは、森口の同時代の作品が既に他館に収蔵されていたことを考えると大変貴重であった。

#### (ウ) 国立西洋美術館

<購入>

16 世紀初頭のフィレンツェ美術を代表する画家アンドレア・デル・サルトの典型的作品《聖母子》、及び 17 世紀スペイン静物画の隆盛に寄与した重要な画家ファン・バン・デル・アメ

ンの初期代表作として評価されている《果物籠と鴉鳥のある静物》を収蔵した。前者にはイタリア・ルネサンス美術における理想的な美の形式、後者にはバロック美術における世俗的な現実への関心をうかがうことができる。2点とも常設展示の要となる作品である。

＜受贈＞

ドメニコ・プリーゴの肖像画の優品《アレクサンドリアの聖カタリナを装う婦人の肖像》を受贈した。今年度作品を購入したアンドレア・デル・サルトの工房で働いた経歴のある画家であり、デル・サルトの作品とあわせて、イタリア・ルネサンス絵画のコレクションの厚みが増すことになった。

(エ) 国立国際美術館

＜購入＞

平成 26 年度は、柄澤齋の版画作品、北辻良央の彫刻作品等「ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉」展出品作家の作品等を中心に購入した。また、海外の作家では、ダーン・ファン・ゴールデンの洋画、版画、写真を購入した。

＜受贈＞

平成 26 年度は、塩見允枝子（千枝子）《日蝕の昼間の偶発的物語》、田淵安一《版画集『Augures [予兆]』》、《詩画集『Arbres écrits [「木」を書く]』》等からの版画作品や、1963 年に内科画廊において開催された展覧会に関する資料等をまとまった形で受贈し、1960 年代以降の日本の現代美術コレクションの充実につながった。

(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等

① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア 東京国立近代美術館

本館では、現在、新・旧二つの収蔵庫ともに収蔵率は約125%となっている。従来通り、館外の倉庫3ヶ所に作品の一部を預けること、年間約200点の作品貸与と年間約800点の所蔵作品展覧により作品を庫外に出すことで最低限のやりくりを成り立たせているが、これをもってしてもすでに収納が限界に達している状況が続いている（特に絵画スクリーン）。平成26年度も、作品同士の間隔が充分に取れないことから生ずる風通しの悪化と虫害の発生を防ぐため、こまめな清掃を実施した。今後も引き続き収納の効率化、虫害防止等の対策を行うが、将来的に外部に収蔵庫を設け、民間倉庫借り上げの費用的、業務的負担を軽減することが早急の課題となっている。

工芸館の収蔵庫 4 室も狭隘化が更に進行し、限界が迫っていると思われる。陶磁収蔵庫では、アール・デコの家具の木枠ケースや大型作品によって相当の床面を占有しているが、その上に作品を積み重ねている状態である。床面も大方が埋まっている状態で、棚間の通路にも作品を 2 段重ねにするほどである。染織と金工の収蔵庫も同様である。漆芸の収蔵庫は、1 階を展覧会準備用、2 階展示中の作品空箱保管用として、かろうじて確保しているが、作品の一時保管及び資料や図録（保管・販売）の保管庫として活用している荷解き室も、もはや一杯の状態である。安全な保管状況を保つために最低限の通路は確保しているが、外部倉庫の活用を検討する必要がある。

フィルムセンターでは、現在ノンフィルム資料のうち紙素材の資料は 4 階図書室と地下 3 階収蔵庫に保管しているが、やはり収蔵能力が限界に達しつつあるため、複本となった雑誌やプレスなどは相模原分館の新収蔵庫への部分的移転を行っている。また、映画人・映画会社の旧蔵品である未整理の新規寄贈資料も、同様に相模原分館への搬入を継続している。

イ 京都国立近代美術館

収蔵庫は収蔵率約 200%となっている。収納できない作品については、民間業者の倉庫を借り、一時的に保管している。

ウ 国立西洋美術館

不具合により使用が出来なくなっていた新館第一、二収蔵庫の絵画ラックについて、引き続き調査と修繕を実施した。収蔵庫内の日常的な整理整頓と、適正な温湿度管理、地震対策の徹底に努めているが、収蔵庫内の適切な保存環境の維持のために、新館・企画館の収蔵庫について、耐用年数を考慮した空調機の更新、及び適切な電圧設定の検討が望まれる。

エ 国立国際美術館

既に収納率が実質 100%以上となっているが、積み重ねることができる作品をまとめて収納する、ラックの隙間を可能な限り小さくする等、適切な保存環境を維持するよう努めた。引き続き、新たな収納ケースの整備、作品梱包の工夫、汚損した額縁の廃棄等を行い、適切な保存環境の整備について検討する。

## ② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

ア 東京国立近代美術館

(本館)

平成 26 年 8 月 21 日に、首都圏直下型地震を想定し、以下の避難訓練を行った。

- (1) 首都圏直下型地震の発生、来館者・職員等、館内全域において退避を必要とする状況を想定した避難誘導訓練（アトライブラリ及びミュージアムショップの避難誘導訓練を含む）
- (2) ELV 停止による救出対応訓練（お客様が ELV 内に閉じ込められた状況を想定）
- (3) 担架による搬送訓練（避難中に足をくじいたお客様が発生した状況を想定）
- (4) AED 講習

(工芸館)

平成 27 年 3 月 12 日に火災を想定した避難訓練を行った。

(フィルムセンター)

平成 26 年 7 月 15 日に、地下 3 階収蔵庫での作業者のため、収蔵庫での作業を前提とした火災訓練を行った。

イ 京都国立近代美術館

平成 27 年 3 月 23 日に自衛消防訓練を実施した。

ウ 国立西洋美術館

平成 27 年 3 月 23 日に地震災害を想定した避難訓練を実施した。

そのほか、常設展示室内での地震による衝撃の被害を軽減するための衝撃吸収ゴムの維持や、額装の改善を実施した。

エ 国立国際美術館

平成 27 年 1 月 22 日にミュージアムショップやレストランの職員、及び看視スタッフと合同で、火災発生を想定した消防避難訓練を実施した。

### (3) 所蔵作品の修理・修復

#### ① 東京国立近代美術館

絵画 9 点、書籍 2 点、工芸 6 点、デザイン 38 点、映画フィルムデジタル復元 11 本、ノイズリダクション等 32 本、不燃化作業 61 本

(本館)

特別修復予算によって、作品保全の観点から、下村観山《木の間の秋》の大規模な解体修理と、横山大観他《東都名所》の 22 面の色紙から画帖への仕立て直しを完了した。

(工芸館)

東京国立近代美術館へ移管される前の文化庁での活用頻度も高かった、漆芸の松田権六の作品の修復を継続して行っており、平成 26 年度は螺鈿の椀 1 点と蒔絵茶入 2 点を実施した。同様に染織の芹沢銈介の作品の修復を行い、平成 25 年度ののれん類に続き、状態が懸念される麻地と芭蕉布地の作品 2 点に着手して洗いとカビ落とし等を行った。

特別修復予算により金工の鈴木長吉《十二の鷹》の現状保存修復を実施した。欠落している「鉾垂」等の復元と鷹の漆塗り「架」の保存修復を実施した。

漆芸については目白漆芸研究所の文化財保存修復の専門家らと連携し、染織については京都の浅井エージェンシーの専門家と作品保守と修復について意見交換しながら、実施している。修復を要する作品があるため、継続して計画的に今後の対策を検討したい。

鈴木長吉《十二の鷹》の修復では、「鉾垂」等を川島織物セルコンと、「架」の保存修復を目白漆芸研究所と実施した。あわせて、東京藝術大学美術学部の受託研究として、X線透過像撮影・調査分析等、連携して 2 羽の鷹の自然科学的調査（保存状態、材料や表面処理、構造等）を実施した。

(フィルムセンター)

映画関連資料については、脚本家三村伸太郎の旧蔵資料をはじめ、劣化・損傷の恐れがあるシナリオ等冊子に対して中性紙の保存ケースを制作して長期保存を図った。また公開・貸出頻度の高いと思われる日本映画ポスターを中心に和紙を用いた簡易修復、酸性紙が劣化したプレス資料に対する脱酸化作業、接着したスチル写真の剥離作業やクリーニングなど、積極的に紙資料の保存のための措置を講じた。

#### ② 京都国立近代美術館

絵画 11 点

本絹の汚れ、シミ、裏打ちの浮きなど傷みが著しく鑑賞の妨げになっていたが、絹本の裏箔作品であることから通常の修復予算では賄えなかった堂本印象《江上の鶺鴒》，本絹の汚れ、シミ、絵具の剥落、下地の反りが生じて作品の破損が心配されながら、箔を多用した作品であることから、やはり通常予算では賄えなかった甲斐庄楠音《虹のかけ橋（七妍改題）》を特別修復予算で修復して新たな屏風装とし、オリジナルに近い姿に戻すことができた。特別修復予算では他にもそのままの状態では展示することのできなかつた吹田草牧《伊豆夏景》と、須田国太郎の初期の模写作品等計 11 点を修復した。

#### ③ 国立西洋美術館

絵画 8 点、彫刻 8 点、工芸 292 点

貸出予定作品や新規購入作品を中心に作品や額縁の修復を進める一方、特別修復予算によって、オーギュスト・ロダン《カレーの市民》をはじめとする屋外設置の大型彫刻の洗浄・修復を行い、長年展示不可能な状態で収蔵されていたピストルフィの一連の大型彫刻

の調査・洗浄・修復への取組を開始した。また、平成 24 年度に寄贈を受けた橋本コレクションのうち、指輪 292 点の修復も行った。

④ 国立国際美術館

絵画 8 点、水彩 2 点、素描 7 点、彫刻 4 点

特別修復予算によって、収蔵後一度もその紹介を十全には果たせていなかった三木富雄《EAR》を修復し、通常予算で修復した堂本尚郎《グリーン》などと併せて公開することができた。また、開催予定の「高松次郎」展への出品作品の状態も整備した。そのほか、コレクション展等へ出品する作品の修復も行った。

⑤ 国立新美術館

資料・その他約 25000 点

特別修復予算により、寄贈を受けた図書、展覧会カタログ、雑誌等（段ボール箱約 400 箱分）について、燻蒸処理、クリーニング（ドライクリーニングとアルコールによる湿式クリーニング併用）を実施した。

(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究

各館における調査研究の実施状況は、以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

所蔵作品展では、平成 24 年度のリニューアル以降、テーマ性の高い特集形式の展示を実施しており、この際各研究員の研究成果の展示への素早い反映を心がけている。平成 26 年度も所蔵作品の調査・研究に基づき、「何かがおこってるⅡ：1923, 1945, そして」等の特集を企画した他、コレクションを中心とした小企画「地震のあとで：東北を思うⅢ」、「美術と印刷物—1960—70 年代を中心に」を開催した。特に「何かがおこってるⅡ」は、平成 25 年度に開催して好評を博した 4 - 3 階を使用した大型特集の続編で、映像、雑誌、ポスターなども駆使して、関東大震災から戦争を挟んで 1970 年代までの時代と美術の動向を描き出すことに努めた。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

特別修復予算によって、作品保全の観点から、下村観山《木の間の秋》の大規模な解体修理と、横山大観他《東都名所》の 22 面の色紙から画帖への仕立て直しを完了した。また平成 25 年度に引き続き、手薄だった紙資料の修復として、岸田劉生資料のうち日記類の補修を継続して行った。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

調査研究に基づき所蔵作品展において特集展示企画を行うとともに、研究員による所蔵品ガイドを 5 回、「美術と印刷物—1960—70 年代を中心に」においてトークイベントを 6 回実施するなどした。さらに、「美術と印刷物—1960—70 年代を中心に」においては解説資料を作成し、無料配布した。



(工芸館)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

随時の専門的な調査研究とともに、所蔵作品展や企画展での展示、貸与及び熟覧等において専門家等と研究を行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

平成 25 年度に引き続き、目白漆芸研究所と浅井エージェンシーの専門家らと連携して文化財保存修復の調査・研究と修復を計画的に実施した。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

現状保存修復を実施する作品は活用頻度の高いもの、あるいは緊急度の高いものから計画的に行った。完了した作品については展示や貸与等に有効に活用した。

(フィルムセンター)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

無声映画時代の活動写真弁士に関する音源資料について、常設展トークイベントの開催と並行して調査を行った。また「NFC デジタル展示室」における第二次大戦前の日本の映画館写真の公開に伴い、関西・名古屋を中心とする映画館の歴史について調査を行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

ノンフィルム資料については、カタログニングの深化に努め、寄贈者別に配置されていたプレス資料の現物レベルでの統合作業を継続している。また映画パンフレットなど過去に寄贈されながら未整理であった分野の資料のデータベース登録に取り組み、図書室保管分については登録が終了した。

さらに、文化庁より平成 26 年度文化芸術振興費補助金（美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業）の交付を受けて、「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」（略称：BDC プロジェクト）に着手した。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

所蔵映画資料については常設展のギャラリートークや、「NFC デジタル展示室」に、映画関連資料の修理においては一部のシナリオ、プレス資料等、劣化した文献資料の修復に反映された。

イ 京都国立近代美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

「上村松篁展」や「うるしの近代——京都、「工芸」前夜から」展に出品した所蔵作品や修復が必要な作品を中心に、外部の専門家と詳細な分析や調査を行い、当該作品についての詳細な報告書を作成、今後の作品の保管、活用に関して役立つ重要な資料となった。また、開館以来の所蔵作品についても、引き続きデータベース構築に向けての点検・整理を行い、所蔵作品についての調査研究を進めた。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

とりわけ貸出の要請が高い日本画、洋画などの作品を中心に、その保管・修理について、信頼のおける修復工房などにもアドバイスを得ながら、企画競争制度を活用して、各研究員の保管・修理についての意識が高められるよう努力した。収蔵庫の空気調和設備工事も完了し、現在は、空調設備は安定稼働している。収蔵庫内の地震対策（棚から

の作品落下防止処置など)も含めて、早急の対応を行うために、保管・修理についても、他館の状況を視察しつつ、調査研究を進めている。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

特別購入予算で購入した安井曾太郎の《孔雀と女》をはじめ、平成 26 年度に購入、もしくは寄贈を受けた作品の調査研究を行い、コレクション・ギャラリーで小企画として展示した。

ウ 国立西洋美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

所蔵作品に関する調査研究として、平成 26 年度は以下のとおり取り組んだ。

- ・旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究
- ・中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術に関する調査研究
- ・所蔵版画作品に関する調査研究
- ・ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究
- ・ジャック・カロに関する調査研究
- ・寄贈された橋本コレクションの指輪に関する研究
- ・「国立西洋美術館所蔵作品データベース」に関する研究

(イ) 保存・修復に関する調査研究

修復処置過程での紫外線、赤外線等の調査を実施し、絵画作品の状態及び制作過程を検証する調査を実施した。作品によっては周辺部の絵具層を分析し、その材質を明らかにした。こうした過程で、15 世紀から 19 世紀までのさまざまな作品の技法や保存状態を確認し、これまでの処置の歴史を再確認しながら貸出のための安全／保存処置を実施した。また、作品ごとの状態調書の作成を進めつつ、作品ごとに、なされてきた処置、貸出履歴や過去の貸出時の温湿度記録などがすぐに把握できるよう、データベース化を進めた。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映

様々な技法の処置・調査によって作品の安全な貸出を実現すると同時に、こうした調査結果を展覧会のカタログ等に随時反映している。また、調査・処置後の作品は常設展示で随時公開し、国民のよりよい鑑賞環境の提供及び安定した状態の作品展示へと還元している。あわせて、館報や紀要による対外的な情報発信を積極的に進めている。

エ 国立国際美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

平成 26 年度は、平成 27 年 4 月開催の「高松次郎 制作の軌跡」の準備として、長年に亘り継続して収集してきた高松次郎作品に関する研究が集大成を迎えたことを受け、所蔵している高松次郎作品の調査研究を重点的に行った一方、その他の所蔵品についても引き続き調査研究を行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

保管・修理に関する調査研究に関して、植松由佳主任研究員が、以下のシンポジウム等で発表を行った。

- ・科学研究費補助金基盤研究(A)「日本における「美術」概念の再構築」シンポジウム  
日 時：平成 26 年 12 月 6 日

場 所：金沢美術工芸大学

タイトル：「日本の美術館における現代美術作品の収集，保存管理の課題」

・第18回文化庁メディア芸術祭テーマシンポジウム「メディアアートの記述は可能か？」

日 時：平成27年2月5日

場 所：国立新美術館

タイトル：「日本の美術館における現代美術作品の収集，保存管理の課題」

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

平成26年度は，戦後フランスにおけるアンフォルメルの代表的作家，ジャン・フォートリエの没後50年にあたり，調査研究の成果として，回顧展を開催し，同展開催にあわせて，今後のフォートリエ研究の基本的資料となる図録の刊行やシンポジウムの開催を行った。

また，その他の所蔵作品についても『国立国際美術館ニュース』紙上において，定期的に解説を行っている。

### 3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

#### (1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信

##### ① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信

##### ア 館の刊行物による研究成果の発信

各館において、展覧会図録（計 28 冊）、研究紀要（計 3 冊）、館ニュース（計 6 種、34 冊発行）等の刊行物により、研究成果を発信した。

館名	展覧会図録	研究紀要	館ニュース	所蔵品目録	パンフレット・ガイド等	その他
東京国立近代美術館	本館	5	6	—	5	2
	工芸館	3	0	—	3	1
	フィルムセンター	0	6	—	11	0
京都国立近代美術館	6	0	8	0	8	1
国立西洋美術館	5	1	4	—	4	2
国立国際美術館	4	—	6	—	1	2
国立新美術館	5	1	4	—	6	1
計	28	3	34	0	38	9

【注】「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット、子ども向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

##### イ 館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信

##### (ア) 東京国立近代美術館

[学会等発表] (本館)

	タイトル	学会等名	発表者氏名（職名）	日付	場所	聴講者数（人）
1	「オーストラリアの美術館における鑑賞教育-所蔵作品を活かしたスクールプログラム」	日本美術教育研究発表会（拡大枠）	一條彰子 （主任研究員） 共同発表者：寺島洋子（国立西洋美術館主任研究員）	H26.10.19	東京家政大学	40
2	「所蔵作品を用いた米国・豪国の鑑賞教育事情」	美術科教育学会	一條彰子 （主任研究員） 共同発表者：寺島洋子（国立西洋美術館主任研究員）	H27.3.29	上越教育大学	30
3	「国立美術館・博物館のコレクションを用いた鑑賞教育の展開」	美術科教育学会	一條彰子 （主任研究員）	H27.3.29	上越教育大学	40
4	「シュルレアリスムの影響を受けた日本の画家たちの、シュルレアリスムからの逸脱のあり方について：鬨光、浅原清隆を例に」	筑波大学芸術学美術史学会	大谷省吾 （主任研究員）	H26.4.19	筑波大学	30
5	美術を語る「矢崎博信」	生誕 100 年 矢崎博信展	大谷省吾 （主任研究員）	H26.8.2	茅野市美術館	40
6	「東京国立近代美術館の戦争記録画とその周辺」	BankARTschool「戦争と美術」	大谷省吾 （主任研究員）	H27.1.26	BankART Studio	20
7	「経験を捉え、形にし、伝えるということーヴェネチア・ビエンナーレを中心に」	講演会	蔵屋美香 （美術課長）	H26.4.18	日本大学芸術学部	70
8	「『絵画』について」	レクチャー	蔵屋美香 （美術課長）	H26.7.12	ハギワラプロジェクト	50

9	「TWS Emerging 第一期：本田アヤノ・清水香帆・衣真一郎」	TWS Emerging 212,213,214	蔵屋美香 (美術課長)	H26.8.9	トーキョウワンダーサイト渋谷	50
10	「遠くの観客に訴えるための方法：二つのプロジェクト」	キュレーター・ミーティング 2015	蔵屋美香 (美術課長)	H26.9.26- 9.28	CCA 北九州	15
11	「旅の行方≒榮螺堂」	「旅の行方≒榮螺堂」展	蔵屋美香 (美術課長)	H26.10.25	3331 ギャラリー, 3331 Arts Chiyoda	20
12	「高松次郎ミステリーズナイト」	トーク	蔵屋美香 (美術課長) 保坂健二郎 (主任研究員) 梶田倫広 (研究員)	H26.12.11	六次元	30
13	「ヴェネチア・ビエンナーレに参加して：経験を世界に伝えるということ」	講演会	蔵屋美香 (美術課長)	H27.1.9	金沢美術工芸大学	70
14	「現代アートを知りつくすヴェネチア・ビエンナーレに参加して：経験を世界に伝えるということ」	講演会	蔵屋美香 (美術課長)	H27.1.28	京都造形芸術大学 東京藝術学舎	27
15	「高松次郎 読書会」	猫町倶楽部読書会	蔵屋美香 (美術課長)	H27.1.31	猫町倶楽部	25
16	「芸術からの問い—デュシャンから高松次郎まで」	講演会	蔵屋美香 (美術課長)	H27.2.14	青山ブックセンター本店	50
17	「学校を出て、この先わたしはどんなふうに美術とつきあって行くのだろうか」	東京五美術大学連合卒業・修了制作展	蔵屋美香 (美術課長)	H27.2.21	国立新美術館	200
18	「作品のマニュアルのマニュアル」	開館 20 周年記念トークセッション ARTISTS'GUILD 生活者としてのアーティストたち	蔵屋美香 (美術課長)	H27.2.22	東京都現代美術館	30
19	「日本からキュレーションの未来を<さらに>考える」	公開座談会	蔵屋美香 (美術課長)	H27.3.20	紀伊国屋書店新宿本店	40
20	「ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展 日本館のキュレーティングができるまで」	東京アートフェア	蔵屋美香 (美術課長)	H27.3.21	東京国際フォーラム	50
21	「日米キュレーター・ミーティング プレゼンテーション」	日米キュレーター・ワークショップ	蔵屋美香 (美術課長)	H27.3.26- 27	ガラス美術館	14 (非公開 討論)
22	「地震のあとで、何かがおこってる：東京国立近代美術館 MOMAT コレクションのこころみ」	美術史学会美術館・博物館委員会シンポジウム「裂ける日常、断たれる記憶—福島をつなぐアート/ミュージアム」	蔵屋美香 (美術課長)	H27.3.29	福島県立美術館	80
23	国際セミナー2014 Cultural Rebellion in Asia 1960-1989	基調講演, パネル	鈴木勝雄 (主任研究員)	H26.9.30- 10.2	国際交流基金	50
24	「鉄斎の山水, 近代の山水」	「富岡鉄斎展」	鶴見香織 (主任研究員)	H26.7.2	出光美術館	150
25	「菱田春草展のみどころと春草作品」	(公財) 新宿未来創造財団	鶴見香織 (主任研究員)	H26.9.23	新宿区立新宿歴史博物館	120
26	「菱田春草展のみどころと春草作品」	(公財) 江東区文化コミュニティ財団	鶴見香織 (主任研究員)	H26.9.30	亀戸文化センター カメラアホール	200
27	「菱田春草展のみどころと春草作品」	荒川区地域文化スポーツ部生涯学習課	鶴見香織 (主任研究員)	H26.10.1	生涯学習センター	80
28	「菱田春草と落款と作品」	「創造の源泉—菱田春草のスケッチ」展	鶴見香織 (主任研究員)	H27.3.22	飯田市美術博物館	90

29	「竹内栖鳳の風景表現の展開について」	美術史学会東支部例会	中村麗子 (主任研究員)	H26.4.12	東京大学本郷キャンパス	50
30	「横山大観 その人と芸術」	八王子市教育委員会	中村麗子 (主任研究員)	H26.11.25	八王子市生涯学習センター クリエイトホール	82
31	「老いの力」	「アール・ブリュット☆アート☆日本2」展	保坂健二郎 (主任研究員)	H27.3.7	酒游館（近江八幡市）	40
32	「アール・ブリュットとはなにか」	エンジン 01 文化戦略会議	保坂健二郎 (主任研究員)	H27.3.28	富山大学	40
33	「あれからの、未来の途中：アーティスト・トーク3」		榊田倫広 (研究員)	H26.12.23	京都市立芸術大学 ギャラリー @ KCUA	40
34	ヒルサイドテラス・フォトフェア連続トークセッション	ヒルサイドテラス・フォトフェア	増田玲 (主任研究員)	H26.9.6	代官山蔦屋書店	50
35	トークイベント「インドで写真のことを考えた～エリックのスナップショットをもっと知る～」ERIC×増田玲	ERIC 写真展「Eye of the Vortex / 渦の眼」	増田玲 (主任研究員)	H26.9.19	ガーディアン・ガーデン	40
36	「大型化する現代写真作品の展示と保存：『アンドレアス・グルスキー』展などの事例をめぐって」	平成26年度画像保存セミナー(日本写真学会)	増田玲 (主任研究員)	H26.11.7	東京工芸大学	150
37	「何故、我々はそこに風景を見るのか？」	吉岡さとの写真展「Sciencescape -科学が押し開く新しい風景」	増田玲 (主任研究員)	H26.11.8	瑞雲庵	40
38	トーク「写真と写真集の関係」	アートフェア東京 2015	増田玲 (主任研究員)	H27.3.21	東京国際フォーラム	100
39	基調報告「作品の社会性」	アートプログラム青梅実行委員会、シンポジウム「まなざしを織る」	松本透 (副館長)	H26.11.8	青梅市立美術館	50
40	司会「第2部 教育と美術批評をめぐって」	美術評論家連盟、シンポジウム「いま変容と対峙する：情報と批評/教育と批評」	松本透 (副館長)	H26.11.30	東京国立近代美術館 講堂	90
41	「MLA連携の起源とLにおける効用を考える」	第2回埼玉新県立図書館在り方検討有識者会議	水谷長志 (主任研究員)	H26.5.29	さいたま市民会館うらわ	40
42	「IFLA 美術図書館分科会 パリ・サテライト・ミーティング 12 - 14 August, 2014 報告 'Crisis of art bibliography' 後の動向 一側面」	世界の図書館、フランスの図書館は今 - IFLA リヨン大会報告セミナー	水谷長志 (主任研究員)	H26.10.4	日仏会館	50
43	基調報告	「JAL2014」海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業 主催公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」	水谷長志 (主任研究員)	H26.12.11	東京国立近代美術館	60
44	「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業(JAL プロジェクト2014) その準備から展開へ - JAL との交流とかがいま見られる日本の課題」	アート・ドキュメンテーション学会第51回デジタルアーカイブサロン	水谷長志 (主任研究員)	H27.1.9	科学技術館	25

45	JAL 2014 and beyond: centering on the open workshop for “Recommendations for More Effective Dissemination of Information on Japanese-Art-Related Materials” in Tokyo, 2014	5 <sup>th</sup> International Symposium on Japanese Studies	水谷長志 (主任研究員)	H27.2.28	Center for Japanese Studies, University of Bucharest	60
46	村川拓也 アーティスト・ト ーク (対談)	KYOTO EXPERIMENT 京都国 際舞台芸術祭 2014	三輪健仁 (主任研究員)	H26.10.6	京都芸術センター	40
47	映像とアートの境界線をめぐ るプロブレマティック (対談)	COVERED TOKYO / NIKKEI ART LOUNGE	三輪健仁 (主任研究員)	H26.11.7	渋谷ヒカリエ	60

[雑誌等論文掲載] (本館)

学術書籍, 研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	発行者	発行年月日
1	『日本の 20 世紀芸術』 (共著)	大谷省吾 (主任研究員)	平凡社	H26.11.15
2	基調講演「今, アジアの文化的連帯を想像するために」, 『国際セミナー2014 Cultural Rebellion in Asia 1960-1980 報告集』	鈴木勝雄 (主任研究員)	国際交流基金	H27.3.20
3	『公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報 発信力の向上のための提言」報告書	水谷長志 (主任研究員)	JAL2014「海外日本美術資料専 門家(司書)の招へい・研修・交 流事業」主催	H27.3.31

【査読有り】学術誌論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「オーストラリアの美術館における鑑賞教育」	一條彰子 (主任研究員) 共同執筆者: 寺島洋子 (国 立西洋美術館主任研究員)	『日本美術教育研究論集』48 号 (日本美術教育連合)	H27.3.31
2	「日本における『コンセプチュアル・アート』元年一 一九六九年の言説空間から」	鈴木勝雄 (主任研究員)	『美術フォーラム 21』30 号 (醍 醐書房)	H26.11.30
3	「吉川霊華 離騷」	鶴見香織 (主任研究員)	『国華』1424 号 (国華社)	H26.6.20
4	戦後日本美術の歴史と現在	松本透 (副館長)	『美術フォーラム 21』30 号 (醍 醐書房)	H26.11.30

【査読無し】学術誌論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「回顧と展望 2013 年の歴史学会 日本 (近現代) 14 美 術」	大谷省吾 (主任研究員)	『史学雑誌』123 編 5 号 (史学会)	H26.5.20
2	北荘画廊をめぐってー戦前と戦後をむすぶ場所	大谷省吾 (主任研究員)	『近代画説』23 号 (明治美術学 会)	H26.12.13
3	「切った貼ったの世界の修復」	蔵屋美香 (美術課長)	『絵画の在りか』展図録 (オペラ シティアートギャラリー)	H26.7.12
4	「考えつづけること, 位置を確認すること ヴェネチ ア・ビエンナーレ国際美術展日本館をめぐって」	蔵屋美香 (美術課長)	『必然的にばらばらなものが生 まれてくる』(武蔵野美術大学出 版)	H26.9.9

5	“Who is Kishida Ryusei? A case study of a Taisho-sra Yoga painter”	蔵屋美香 (美術課長)	<u>Andon: Shedding Lights on Japanese Art</u> , no.97 (Society for Japanese Arts, Rotterdam, The Netherlands)	H26.9
6	「サロンと中村屋」	蔵屋美香 (美術課長)	『中村屋サロン—ここで生まれた、ここから生まれた—』展図録 (中村屋サロン美術館)	H26.10.29
7	「座談会：日本からキュレーションの未来を考える」	蔵屋美香 (美術課長)	『これからのキュレーション』 (フィルムアート社)	H27.2.25
8	「図と地と戦争：奈良美智の絵画」	蔵屋美香 (美術課長)	『YOSHITOMO NARA: SELF-SELECTED PAINTINGS』 (青幻舎)	H27.3.1
9	「MOT コレクション つくる、つかう、つかまえる—いくつかの彫刻から」 関連プログラム「高柳恵里の作品について—対談：高柳恵里×蔵屋美香」採録	蔵屋美香 (美術課長)	『平成26年度東京都現代美術館年報 研究紀要 第17号』 (東京都現代美術館)	H.27.3.31
10	「第二九二回水曜講演会『鉄斎の山水、近代の山水』講演録」	鶴見香織 (主任研究員)	『出光美術館 館報』168号 (出光美術館)	H26.8.31
11	「鐮木清方の初期作品と小坂象堂、无声会」	鶴見香織 (主任研究員)	『鐮木清方記念美術館叢書:15, 鐮木清方の随筆『こしかたの記』を読む:その2』 (鎌倉市鐮木清方記念美術館, 鎌倉市芸術文化振興財団)	H27.1.20
12	「国立美術館と建築展」	保坂健二郎 (主任研究員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』No.1 (国立新美術館)	H26.11.28
13	「三宅克己と『趣味』の写真」	増田玲 (主任研究員)	『三宅克己回顧展』図録 (徳島県立近代美術館)	H26.10.11
14	「大型化する現代写真作品の展示と保存：「アンドレアス・グルスキー」展などの事例をめぐって」	増田玲 (主任研究員)	『日本写真学会誌』第78巻1号 (日本写真学会)	H27.2
15	Yutaka Takanashi, <i>Towards the City</i>	増田玲 (主任研究員)	Yasufumi Nakamori with Allison Pappas ed., <u>For a New World to Come: Experiments in Japanese Art and Photography, 1968-1979</u> , (Museum of Fine Arts, Houston / Yale University Press)	H27.2
16	美術館は作品を展示すれば足りるのか？	松本透 (副館長)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』No. 1 (国立新美術館)	H26.11.28
17	「研究会「アート・アーカイヴの諸相」に参加して」	渡邊美喜 (研究補佐員)	『アート・ドキュメンテーション通信』101号 (アート・ドキュメンテーション学会)	H26.4

学術誌以外（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞，web サイト等）における発表

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「多様化する美術のなかで——公募団体ベストセレクション 美術 2014 によせて」	大谷省吾 (主任研究員)	『公募団体ベストセレクション 美術 2014』図録 (東京都美術館)	H26.5.4
2	「白昼に夜を見つめた人——矢崎博信の絵画と思想」	大谷省吾 (主任研究員)	『生誕100年 矢崎博信展』図録 (茅野市美術館)	H26.7.26
3	「第2回都美セレクション グループ展」をふりかえって	大谷省吾 (主任研究員)	『第2回都美セレクション グループ展 記録集』 (東京都美術館)	H26.7.31
4	「B.ヴェネツィアがみた日本の現代アート 1. 多様性の中の現在」	蔵屋美香 (美術課長)	『Artistic Practice』 (東京アートフェア小冊子)	H.27.3.20
5	「近代美術の眼 三上誠《冥》」	都築千重子 (主任研究員)	『読売新聞』都内版 (読売新聞社)	H26.4.11
6	「近代美術の眼 川端龍子《角突之巻(越後二十村行事)》」	都築千重子 (主任研究員)	『読売新聞』都内版 (読売新聞社)	H26.5.9
7	「菱田春草 日本画の領域をひろげた春草の試み」	鶴見香織 (主任研究員)	『月刊水墨画』8月号 (四季出版)	H26.7.3



8	「色彩研究宣言 色への興味, 新たな挑戦」, 「色彩研究の実り《賢首菩薩》 これまでになかった配色の冒険」, 作品解説	鶴見香織 (主任研究員)	『別冊太陽 日本の心 222 号 菱田春草 不熟の天才画家』(平凡社)	H26.10.17
9	「植物が登場するアートたち菱田春草 黒き猫」	鶴見香織 (主任研究員)	『小原流挿花』(財団法人小原流)	H26.10.1
10	「近代美術の眼 吉川壺華《離騷》」	鶴見香織 (主任研究員)	『読売新聞』都内版(読売新聞社)	H26.6.13
11	「荒井経, 研究と制作の交差点」	鶴見香織 (主任研究員)	『模写そして創造へ 荒井経の仕事』展図録(さくら市ミュージアム・荒井寛方記念館)	H26.11.15
12	「まじめふまじめポロックとウォーホル」	中林和雄 (企画課長)	『Fuji Xerox Print Collection 1988-2014』図録(富士ゼロックス)	H27.1
13	連載「美術」	保坂健二郎 (主任研究員)	『すばる』(集英社)	H26.4,6,8,10,12,H27.2
14	連載「視線」	保坂健二郎 (主任研究員)	『朝日新聞』(朝日新聞社)	H26.4.6,5.11,6.15,7.20,8.24,10.5,11.9,12.14,H27.2.1
15	連載「良口雑言」	保坂健二郎 (主任研究員)	『疾駆』(YKG Publishing)	H26.4,7,11,H27.1
16	「デュシャン以後の絵画: 愛と弱さ」	保坂健二郎 (主任研究員)	『絵画, それを愛と呼ぶことにしよう』(武蔵野美術大学)	H26.4
17	「アール・ブリュットの春」	保坂健二郎 (主任研究員)	『ころろ』(平凡社)	H26.4
18	「書評 見識を映し出す怖い存在 『山下清と昭和の美術』」	保坂健二郎 (主任研究員)	共同通信により各新聞に配信	H26.4
19	「座談会<物語を旅する> 岡田利規×小沢剛×保坂健二郎×松井周(司会: 相馬千秋)」	保坂健二郎 (主任研究員)	『フェスティバル/トーキョー13 ドキュメント』(フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局)	H26.5
20	「Graphic Designers, Be Anarchy!」	保坂健二郎 (主任研究員)	『Graphic Design in Japan』(六耀社)	H26.6
21	「現代美術のハードコアはじつは世界の「宝」である 保坂健二郎氏インタビュー」	保坂健二郎 (主任研究員)	『シノドス』(Web ニュースサイト)	H26.7
22	「近代美術の眼 日高理恵子《樹を見上げて VII》」	保坂健二郎 (主任研究員)	『読売新聞』都内版(読売新聞社)	H26.9.12
23	「Lost and Found in Translation: A Talk Between Sabine Schaschl and Kenjiro Hosaka」 「What is Logical Emotion?」, 作家解説, 作品解説	保坂健二郎 (主任研究員)	『Logical Emotion: Contemporary Art from Japan』(Snoeck Verlag)	H26.10
24	「十選 老いの力」	保坂健二郎 (主任研究員)	『日本経済新聞』(日本経済新聞社)	H26.10.17,20,21,22,24,27,28,30,31,11.3
25	「Licht im Schatten (oder andersherum): Miwa Ogasawaras Malerei」	保坂健二郎 (主任研究員)	『MIWA OGASAWARA - IM LICHT』(Verlag Kettler)	H26.11
26	「時代を拓く建築展⑤ 展示空間という建築 ヘルツォーク&ド・ムーロンの建築展」	保坂健二郎 (主任研究員)	『建築雑誌』(日本建築学会)	H26.11
27	「参加型アート」 「アール・ブリュット」 —コミュニケーションのためのアートと, これからの美術館のかたち	保坂健二郎 (主任研究員)	『10+1 web site』(LIXIL 出版)	H26.11
28	「2014 年年末回顧 高まるアール・ブリュットへの関心」	保坂健二郎 (主任研究員)	『新美術新聞』(美術年鑑社)	H26.12.21
29	「雑感以上批評未満 2」	保坂健二郎 (主任研究員)	『シェル美術賞展 2014』展図録(昭和シェル石油株式会社)	H26.12
30	「書評: ハンス・ブリントホルン『精神病患者はなにを創造したのか』」	保坂健二郎 (主任研究員)	『読売新聞』(読売新聞社)	H27.2.5

31	「塔本シスコの芸術論—この世界においてすべては等価である」	保坂健二郎 (主任研究員)	『塔本シスコ 絵の手帖』(平凡社)	H27.2
32	「インタビュー」	保坂健二郎 (主任研究員)	『公立美術館におけるアール・ブリュット索引の普及・展示活動に関する調査研究事業報告書』(滋賀県立近代美術館)	H27.3
33	「「不純」なる絵画たちと展覧会の在りか」	榊田倫広 (研究員)	『美術手帖』(美術出版社)	H26.9
34	「近代美術の眼 吉田博《新月》」	榊田倫広 (研究員)	『読売新聞』都内版(読売新聞社)	H26.10.10
35	「近代美術の眼 山下菊二《射角キャンペーン 5月26日》」	榊田倫広 (研究員)	『読売新聞』都内版(読売新聞社)	H26.11.14
36	「鷹野隆大, 高松次郎をとる」	榊田倫広 (研究員)	『IMA ONLINE』(Web サイト)	H26.12.16
37	「歴史を編み直す」	榊田倫広 (研究員)	『キュレーションの現在』(フィルムアート社)	H27.2.26
38	「膨大な記録群 余白に息づかい 河原温 NY 個展を見て」	榊田倫広 (研究員)	『朝日新聞』(朝日新聞社)	H27.3.18
39	「近代美術の眼 林忠彦《太宰治》」	増田玲 (主任研究員)	『読売新聞』都内版(読売新聞社)	H26.7.11
40	展評「放水路 大西みつぐ」	増田玲 (主任研究員)	『アサヒカメラ』(朝日新聞出版)	H26.8
41	「その写真は私たちをどこに連れていくのか」	増田玲 (主任研究員)	村越としや写真集 『火の粉は風に舞い上がる』(リプロアルテ)	H26.9
42	「A Short Study on BAU」	増田玲 (主任研究員)	写真集『KONTRAPUNKT BY TAKASHI SUZUKI』(Trademark Publishing)	H26.9
43	「近代美術の眼 奈良原一高《「王国」より 沈黙の園》」	増田玲 (主任研究員)	『読売新聞』都内版(読売新聞社)	H26.12.12
44	「人工と楽園—進藤環のコラージュ」	松本透 (副館長)	『飛び越える, 道をつないで 進藤環』(ハモニカブックス)	H26.7.18
45	「境界と全体—二木直巳の《見晴らし台》について」	松本透 (副館長)	「二木直巳 眺望を求めて—小杉放庵とともに—」展図録(小杉放庵記念日光美術館)	H26.8
46	「審査講評」	松本透 (副館長)	「FACE 展 2014 損保ジャパン美術賞展」図録(損保ジャパン東郷青児美術館)	H27.2
47	作品の社会性	松本透 (副館長)	「まなざしを織る」展カタログ(アートプログラム青梅実行委員会)	H27.3
48	「JAL プロジェクト 2014: 公開ワークショップ<報告>」	水谷長志 (主任研究員)	『カレントアウェアネス-E』274号(国立国会図書館)	H27.1.22
49	「ウワサの信憑」	三輪健仁 (主任研究員)	『core of bells 怪物さんと退屈くんの12ヵ月』(Web サイト)	H26.7.17
50	「対談 村川拓也アーティストトーク ドキュメンタリー映画のように演劇を作ってみる」	三輪健仁 (主任研究員)	『京都文化芸術オフィシャルサイト Kyoto Art Box』(Web サイト)	H27.1.26
51	作家推薦文「奥村雄樹」	三輪健仁 (主任研究員)	「VOCA 展 2015 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」図録(「VOCA 展」実行委員会 公益財団法人日本美術協会・上野の森美術)	H27.3.14

[学会等発表] (工芸館)

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「工芸から KŌGEI へ」展から～あらためて「KŌGEI」を考える～」	日本工芸会東日本支部	唐澤昌宏 (工芸課長)	H26.6.1	江戸東京博物館 大会議室	73
2	シンポジウム「第 10 回国際陶磁器展美濃審査員による」	国際陶磁器フェスティバル美濃'14	唐澤昌宏 (工芸課長)	H26.7.20	セラミックパーク美濃 国際会議場	120
3	対談「大和保男の陶芸」	「大和保男展」	唐澤昌宏 (工芸課長)	H26.8.24	イオンモール岡崎	30
4	トークイベント「宮田亮平展－海へ－」	LIXIL ギャラリー	唐澤昌宏 (工芸課長)	H26.12.20	LIXIL・GINZA	40
5	「ローカリティーの高い文化資源の効果的な展示法について」	平成 26 年度博物館学芸員専門講座	北村仁美 (主任研究員)	H26.12.11	国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター	60
6	The Formation of the Concept “Oriental Ceramics” (Toyo-toji): The Collection and Research of Chinese and Korean Ceramics in Japan 1920s-30s	Association for Asian Studies Annual Conference	木田拓也 (主任研究員)	H27.3.28	Sheraton Chicago	30
7	小山富士夫の現代陶芸へのまなざし：古陶磁と伝統工芸のはざま	東洋陶磁学会平成 26 年度第 5 回研究会	木田拓也 (主任研究員)	H27.1.10	学習院大学	20
8	近代日本における<工芸>ジャンルの成立：工芸家がめざしたもの	近代日本美術史と近代中国 (シンポジウム)	木田拓也 (主任研究員)	H26.11.23	清華大学 (北京)	80
9	工芸家が夢みたアジア：<東洋>と<日本>のはざままで	近代日本美術史と近代中国 (シンポジウム)	木田拓也 (主任研究員)	H26.11.22	中国社会科学院文学研究所 (北京)	30
10	アール・ヌーヴォー、アール・デコと日本の工芸：往還する東と西	「アール・ヌーヴォー、アール・デコと日本の工芸」展講演会	木田拓也 (主任研究員)	H26.8.30	安曇野高橋節郎記念美術館	40
11	勝見勝のめざしたもの：東京オリンピックの視覚伝達システム	意匠学会第 56 回大会	木田拓也 (主任研究員)	H26.7.26	お茶の水女子大学	60
12	昭和戦前期の『工芸美術』概念の朝鮮への輸出	「日本における『美術』概念の再構築—語彙と理論にまたがる総合的研究—」(科研 A) 公開研究会	木田拓也 (主任研究員)	H26.6.14	金沢美術工芸大学	30
13	Transplanting the Concept of Art-Crafts ( <i>bijustu-kogei/mi-sul-gong-ye</i> ) from Japan to Korea in the 1930s	1920-45 Inter-Asia Design Assimilation: Translations, Differentiations and Transmission	木田拓也 (主任研究員)	H26.5.30	Design Museum (London)	40
14	Koyama Fujio's View of Contemporary Ceramics: A Man Who Made “Living National Treasure”	Ceramics, Art, and Cultural Production in Modern Japan	木田拓也 (主任研究員)	H26.5.23	Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures, Norwich, England	30
15	アール・ヌーヴォー、アール・デコと日本の工芸：往還する東と西	「アール・ヌーヴォー、アール・デコと日本の工芸」展講演会	木田拓也 (主任研究員)	H26.5.10	横須賀美術館	40

[雑誌等論文掲載] (工芸館)  
 学術書籍, 研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	『工芸とナショナルイズムの近代: 「日本的なもの」の創出』	木田拓也 (主任研究員)	吉川弘文館	H26.8.10

【査読無し】学術誌論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	工芸 (第4章~第7章)	今井陽子 (主任研究員)	『日本の20世紀芸術』(平凡社)	H26.11.15
2	「『青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで』展の開催に寄せて」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『陶説』738号 (日本陶磁協会)	H26.9.1
3	勝見勝のめざしたもの: 東京オリンピックの視覚伝達システム	木田拓也 (主任研究員)	『デザイン理論』65号 (意匠学会)	H27.2.28
4	書評『東西文化の磁場: 日本近代の建築・デザイン・工芸における境界的作用史の研究』	木田拓也 (主任研究員)	『デザイン史学』12号 (デザイン史学研究会)	H26.8.9
5	板谷波山がめざしたもの	木田拓也 (主任研究員)	『出光美術館館報』167号 (出光美術館)	H26.5.31
6	工芸 (序章~第3章)	木田拓也 (主任研究員)	『日本の20世紀芸術』(平凡社)	H26.11.15
7	往還する東と西: 日本の工芸とヨーロッパのデザイン	木田拓也 (主任研究員)	『アール・ヌーヴォーとアール・デコ: ヨーロッパのデザインと工芸』(横須賀美術館)	H26.4.26
8	『相照らす場の創出』	北村仁美 (主任研究員)	『民族芸術』第31号 (民族芸術学会)	H27.3.30

学術誌以外 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, web サイト等) における発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	How to appreciate cloth: the pleasure of enjoy nuno	今井陽子 (主任研究員)	Reiko Sudo + NUNO (The Mississippi Valley Textile Museum, Ontario)	H26.7
2	築城則子の縞	今井陽子 (主任研究員)	『築城則子—縞の今—小倉織復元30周年』(北九州市立美術館)	H26.9
3	福本潮子の青	今井陽子 (主任研究員)	『福本潮子作品集 藍の青』(赤々舎)	H27.3
4	陶芸公募展レポート「第2回陶美展」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『炎芸術』118号 (阿部出版)	H26.5
5	「大和保男の陶芸『魂』」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『大和保男展』リーフレット	H26.6
6	「神谷紀雄の流儀『鉄絵銅彩』と『伝統』」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『神谷紀雄展』図録	H26.7
7	「海外に渡った工芸美術品の歴史と現在」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『アートコレクターズ』67号 (生活の友社)	H26.10
8	「『深まり』を感じる作陶—伊藤栄傑さんの個展に寄せて」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『伊藤栄傑展』図録	H26.10
9	アートダイアリー05: 青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで	唐澤昌宏 (工芸課長)	『文化庁広報誌 ぶんかる』(文化庁 Web 広報誌)	H26.10.2
10	展覧会スポットライト「青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『炎芸術』120号 (阿部出版)	H26.11
11	アートダイアリー09: 小さなジュエリーに凝縮されたダイナミックな空間性	北村仁美 (主任研究員)	『文化庁広報誌 ぶんかる』(文化庁 Web 広報誌)	H27.2.4
12	東京国立近代美術館工芸館「近代工芸案内—名品選による日本の美」から「羊置物」	内藤裕子 (客員研究員)	『読売新聞』夕刊 (読売新聞社)	H27.1.13
13	アートダイアリー08: 所蔵作品展「近代工芸案内—名品選による日本の美」	諸山正則 (主任研究員)	『文化庁広報誌 ぶんかる』(文化庁 Web 広報誌)	H27.1.6

14	Traditional Japanese <i>KOGEI</i>	諸山正則 (主任研究員)	『Beauty of KOGEI Art Crafts in Japan』展パンフレット(シンガポール JCC, 国際交流基金アジアセンター)	H26.5.31
15	黒田泰蔵 白磁 寸感抄	諸山正則 (主任研究員)	『黒田泰蔵 白磁』(求龍堂)	H27.3.13

[学会等発表] (フィルムセンター)

	タイトル	学会等名	発表者氏名(職名)	日付	場所	聴講者数(人)
1	東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品について	かがわ映画の楽校	岡島尚志 (主幹)	H26.4.13	アルファあなぶき小ホール(高松)	100
2	Pre-1914 Depictions of Conflicts (Symposium: World War I – A Hundred Years On)	国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)	岡島尚志 (主幹)	H26.5.6	マケドニア科学芸術アカデミー(スコピエ)	200
3	Ahead of the Time-buying Business: Film Preservation in Japan	韓国映像資料院(KOFA)	岡島尚志 (主幹)	H26.5.23	KOFA シネマテーク(ソウル)	200
4	フィルム・アーキビストとは何か?	映像アーキビストの会	岡島尚志 (主幹)	H26.6.14	フィルムセンター会議室	50
5	映像遺産の保存と活用 2014	相模原市民公開講座	岡島尚志 (主幹)	H26.10.3	フィルムセンター相模原分館ホール	65
6	映画保存の歴史と MoMA 映画部	高知県立美術館	岡島尚志 (主幹)	H27.3.22	高知県立美術館ホール	100
7	フィルム生産縮小時代における「フィルム・アーカイブ」	立命館大学映像学部	榎木章 (主任研究員)	H26.5.14	立命館大学	50
8	東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館映画保存棟Ⅱにおける映画フィルムの取り扱いについて	日本写真学会	榎木章 (主任研究員)	H26.5.26	千葉大学	20
9	記録映画の保存と活用を考える Vol.2	ゆふいん文化・記録映画祭	榎木章 (主任研究員)	H26.6.28	湯布院公民館	100
10	Japan Speaks Out: Restoring Early Japanese Sound Film	Film Restoration Summer School/FIAF Summer School 2014	榎木章 (主任研究員)	H26.7.1	UNIone Auditorium, Bologna	50
11	F シネマ・プロジェクト～フィルムの上映環境を確保するために	コミュニティシネマセンター	榎木章 (主任研究員)	H26.10.23	フィルムセンター6階会議室	80
12	映画を復元するとはどういうことか	金沢 21 世紀美術館	榎木章 (主任研究員)	H26.11.9	金沢 21 世紀美術館	30
13	経済活動としてのフィルム・アーカイビング～東京国立近代美術館フィルムセンターの場合～	日本大学芸術学部	榎木章 (主任研究員)	H26.11.26	日本大学芸術学部	60
14	フィルムを残す, フィルムで残す～ビネガーシンドロームの脅威と向き合いながら	東京工芸大学	榎木章 (主任研究員)	H26.12.13	東京工芸大学厚木キャンパス	20
15	フィルム・アーカイブは映画をどのように扱うのかー松本俊夫監督作品『銀輪』(1956年)をめぐる	アーカイブサミット組織委員会	榎木章 (主任研究員)	H27.1.26	千代田区立日比谷図書文化館	30
16	War films in the Far East: Cataloguing the war films before the World War I	国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF) 会議	大傍正規 (研究員)	H26.5.6	マケドニア・スコピエ	100
17	東京国立近代美術館フィルムセンターにおける復元の取り組み	映画の復元と保存に関するワークショップ	大傍正規 (研究員)	H26.8.24	京都文化博物館	100

18	ゴダール、ブレヒト、ウカマウ	革命の映画／映画の革命の半世紀 ポリビア・ウカマウ集団レトロスペクティブ	岡田秀則 (主任研究員)	H26.5.13	K's Cinema	60
19	映画美術監督・久保一雄と戦前戦後の日本映画	カフェアリエ	岡田秀則 (主任研究員)	H26.6.14	カフェアリエ	20
20	平成26年度女性情報アーキビスト養成研修 資料の保存・管理方法(フィルム・映像編)	国立女性教育会館	岡田秀則 (主任研究員)	H26.12.11	国立女性教育会館	50
21	Le film japonais indépendant des années 1960-1970 et son graphisme	ジュネーブ国際インディペンデント映画祭	岡田秀則 (主任研究員)	H27.1.17	シネマ・ド・グリュトリ	40
22	無声映画の興行に関する資料をめぐって	早稲田大学演劇博物館公募研究「無声映画の上映形態、特に伴奏音楽に関する資料調査」	岡田秀則 (主任研究員)	H27.2.4	早稲田大学	40
23	震災映像の想像力と市井の人々～京大所蔵関東大震災記録フィルムをめぐって～	京都大学アカデミック・デイ 2014	大澤浄 (研究員)	H26.9.28	京都大学	40
24	関東大震災映画フィルムの発見とその映画史的意義	記録映画アーカイブ・プロジェクト第3回ミニ・ワークショップ	大澤浄 (研究員)	H27.3.13	東京大学	80

[雑誌等論文掲載] (フィルムセンター)  
学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	『アーカイブ立国宣言』(第3章:映画「デジタル・アーカイブは「保存」に役立つか」)	岡島尚志 (主幹)	ポット出版	H26.11.14
2	『映像資料のヘルスケア—映画フィルムの物性と複製可能性から考える』	榎木章 (主任研究員)	公益財団法人 日本博物館協会	H26.9.25
3	『「格子なき図書館」映画フィルムの収集と保存をめぐって』	榎木章 (主任研究員)	公益財団法人 日本図書館協会	H26.10.31
4	「映像の《永久発明論》 マルケル, ルドゥー, ビオイ=カサーレス, メドヴェトキン」, 金子遊・東志保編『クリス・マルケル 闘争と遊動のシネアスト』	岡田秀則 (主任研究員)	森話社	H26.11.25

【査読無し】学術誌論文掲載

	タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	紙上ディスカッション「なぜ映画の古典に帰る必要があるのか？」	岡田秀則 (主任研究員)	L'ATALANTE N.18 (Associazione cineforum L'Atalante)	H26.10
2	Land, Crime, and Masculinity	大澤浄 (研究員)	Lone Wolves and Stray Dogs: The Japanese Crime Film 1931-1969 (Yale University)	H27.1.22

学術誌以外(研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、webサイト等)における発表

	タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	『羅生門』から始まったもの 日本映画の美と力	岡島尚志 (主幹)	『芸術新潮』7月号(新潮社)	H26.7.25
2	「フィルムセンターに残る戦前の風景」「変貌する都市を切り取る光—戦前記録映画にみる東京」	榎木章 (主任研究員)	『東京人』(都市出版)	H27.3.3
3	アートダイアリー07:フィルム映写を支える技術スタッフたち	大傍正規 (研究員)	『文化庁広報誌ぶんかる』(文化庁 Web 広報誌)	H26.12.3
4	「門司港レトロから新聞スクラップで映画文化を伝える」	岡田秀則 (主任研究員)	『スポーツニッポン』九州版(スポーツニッポン新聞社)	H26.9.21
5	アートダイアリー06:ジャック・ドゥミ 映画/音楽の魅力	岡田秀則 (主任研究員)	『文化庁広報誌ぶんかる』(文化庁 Web 広報誌)	H26.11.5

6	「花田清輝と映画批評」	岡田秀則 (主任研究員)	展覧会図録『運動族・花田清輝』 (福岡市文学館)	H26.11.6
7	ディスカッション「震災をめぐるドキュメンタリー映画のアーカイブ」採録	岡田秀則 (主任研究員)	ディスカッション「震災をめぐるドキュメンタリー映画のアーカイブ」採録(山形国際ドキュメンタリー映画祭)	H26.11.29

(イ) 京都国立近代美術館

[学会等発表]

	タイトル	学会等名	発表者氏名(職名)	日付	場所	聴講者数(人)
1	アート・アーカイブ・シンポジウム 関西地区アート・アーカイブの現状と展望	大阪新美術館建設準備室, 大阪芸術大学, 特定非営利活動法人 Japan Cultural Research Institute	平井章一 (主任研究員)	H26.5.24	大阪芸術大学スカイキャンパス	100
2	雑誌『Dekorative Kunst』とマイアー=グレーフェーユーゲントシュティール擁護と批判の現場	シンポジウム「アート(芸術/技)の増嶋一世紀転換期ドイツ語圏の芸術誌の研究」	池田祐子 (主任研究員)	H26.8.2	豊田市美術館	53
3	ホイッスラー作品の魅力と革新性:色と形のシンフォニーそしてジャポニスム	NHK 公開講演会	池田祐子 (主任研究員)	H26.9.25 H26.9.26 H26.10.10	高槻市立生涯学習センター 芦屋市立公民館 豊中市立千里公民館	181 494 115
4	Julius Meier-Graefe und Hermann Muthesius - Briefe zur Entstehungszeit der "Dekorative Kunst"	Internationale Tagung „Julius Meier-Graefe: Grenzgänger der Künste“	池田祐子 (主任研究員)	H27.3.13	Stiftung Brandenburger Tor im Max Liebermann Haus Berlin	180

[雑誌等論文掲載]

学術書籍, 研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「『Dekorative Kunst』誌とユーゲントシュティール—マイアー=グレーフェとムテジウスの視点から— 西川智之編『日本独文学会研究叢書:世紀転換期ドイツ語圏の芸術誌の諸相』	池田祐子 (主任研究員)	日本独文学会	H26.10
2	『「博物館における青少年教育」に関する日独交流事業報告書 2014』	朴鈴子 (研究補佐員) 共同執筆者:寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員)	公益財団法人 日本博物館協会	H27.3

【査読有り】学術誌論文掲載

	タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「吉田初三郎の戦時観光案内図——鳥瞰図にみる軍事施設」	平田剛志 (研究補佐員)	『民族藝術』第31号(民族芸術学会)	H27.3.30

【査読無し】学術誌論文掲載

	タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	美術館的症候群	柳原正樹 (館長)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』No.1(国立新美術館)	H26.11.28

学術誌以外(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, web サイト等)における発表

	タイトル	執筆者氏名(職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	日本画家・大島秀信先生を悼む	柳原正樹 (館長)	『北日本新聞』(北日本新聞社)	H26.9.3

2	消費されるニッポンの戦後前衛美術	平井章一 (主任研究員)	『文學界』2014年6月号(文芸春秋)	H26.5
3	戦後美術の考古学	平井章一 (主任研究員)	『京都新聞』(京都新聞社)	H26.5.3~ H27.3.7
4	ヨーロッパで評価された、白髪のアクション・ペインティング	平井章一 (主任研究員)	『アートコレクターズ』65号(生活の友社)	H26.8
5	アートダイアリー04: ジャポニズムとダンディズムー19世紀欧米画壇の巨匠 ジェームズ・マクニール・ホイッスラー	池田祐子 (主任研究員)	『文化庁広報誌 ぶんかる』(文化庁 Web 広報誌)	H26.9.1
6	ホイッスラー展 色と形のハーモニーーホイッスラーが目指した世界	池田祐子 (主任研究員)	『新美術新聞』9月11日付号(美術年鑑社)	H26.9.5
7	アートダイアリー01: 上村松篁 花鳥ひとすじ 楽しくて楽しくてしょうがない	小倉実子 (主任研究員)	『文化庁広報誌 ぶんかる』(文化庁 Web 広報誌)	H26.5.14
8	フィクションに取り込まれた現実: マルセル・ブローターの《セクション・シネマ》	牧口千夏 (研究員)	『現代の眼』605号	H26.4.1
9	文化ゾーンに位置する京都の近代美術館	平井啓修 (研究員)	『理大 科学フォーラム』2014年11月号(学校法人 東京理科大学)	H26.11.1
10	家族アルバムの時代ー宮本博史を中心に	平田剛志 (研究補佐員)	『映像試論100』第4号 (Port Gallery T)	H26.9.20
11	11月1日	平田剛志 (研究補佐員)	『ふらんす堂通信』142号(ふらんす堂)	H26.10.31
12	Visions in Time	平田剛志 (研究補佐員)	『timelake-時間の湖-』カタログ (timelake 実行委員会)	H27.3.3

(ウ) 国立西洋美術館

[学会等発表]

	タイトル	学会等名	発表者氏名(職名)	日付	場所	聴講者数(人)
1	「ミュージアムにおける身体ー視覚と触覚をめぐって」	日本比較教育学会	横山佐紀 (主任研究員)	H26.7.13	名古屋大学	30
2	Museum Education in Japanese Art Museums	Bayerische Museumsakademie	寺島洋子 (主任研究員)	H26.10.9	Munchener Stadtmuseum	60
3	利用者主体の美術館を目指してー所蔵作品を中心とする Fun with Collection, FUN DAY の試み	全国大学博物館学講座協議会	寺島洋子 (主任研究員)	H26.10.17	女子美術大学	60
4	「オーストラリアの美術館における鑑賞教育ー所蔵作品を活かしたスクールプログラム	日本美術教育研究発表会(拡大枠)	寺島洋子 (主任研究員) 共同発表者: 一條彰子(東京国立近代美術館主任研究員)	H26.10.19	東京家政大学	40
5	「所蔵作品を用いた米国・豪国の鑑賞教育事情」	美術科教育学会	寺島洋子 (主任研究員) 共同発表者: 一條彰子(東京国立近代美術館主任研究員)	H27.3.28	上越教育大学	60
6	「国立西洋美術館『グエルチーノ』展出品作品に関する考察」	近世美術研究会	川瀬佑介 (研究員)	H27.3.21	日本大学芸術学部 江古田キャンパス	15
7	「フェルディナント・ホドラーーー絵画のリズムを求めて」	日本スイス国交樹立150周年記念国際シンポジウム「フランス語圏スイス再考」	新藤淳 (研究員)	H26.10.11	慶應義塾大学日吉キャンパス	50
8	「エライザ法を用いた美術品における展色材の同定の試み」	文化財保存修復学会大会	高嶋美穂 (研究補佐員)	H26.6.7-8	明治大学アカデミーコモン	900



9	「Cusanus' Legacy in Art/Architecture in Rome」	Biannual American Cusanus Society Gettysburg Conference	金一 (リサーチフェロー)	H26.10.10 -12	American Cusanus Society Gettysburg	50
10	「Cusanus und Leon Battista Alberti」	Jubiläumssymposion des Wissenschaftlichen Beirats der Cusanus-Gesellschaft in Kooperation mit dem Deutschen Päpstlichen Institut Santa Maria dell'Anima aus Anlass des 550 Todestages von Nikolaus von Kues in Rom	金一 (リサーチフェロー)	H26.10.22 -26	Cusanus-Gesellschaft	100
11	「Ise and Modernists' Receptions—What They Missed」	Symposium "Ise Grand Shrine and Sagrada Familia"	金一 (リサーチフェロー)	H26.11.19	The Japan Society, New York	300
12	「Nicholas of Cusa as Antiquarian」	Renaissance Society of America Annual Meeting	金一 (リサーチフェロー)	H27.3.26- 28	Renaissance Society of America	50
13	「南ガリアのキリスト教聖堂における典礼空間と埋葬」	シンポジウム『聖域と社会』	奈良澤由美 (リサーチフェロー)	H26.6.1	西洋史学会	100

[雑誌等論文掲載]

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	『国立西洋美術館 教育活動の記録 1959-2012』	寺島洋子 (主任研究員) 横山佐紀 (主任研究員) 阿部祐子 (研究補佐員)	国立西洋美術館/西洋美術振興財団	H27.3.31
2	『「博物館における青少年教育」に関する日独交流事業報告書 2014』	寺島洋子 (主任研究員) 共同執筆者: 朴鈴子 (京都国立近代美術館研究補佐員)	公益財団法人 日本博物館協会	H27.3
3	『共和主義におけるピールのミュージアムの教育的役割と視覚による教育の成立』	横山佐紀 (主任研究員)	インターパブリカ	H27.3.31
4	「デュラン=リュエルのコレクション」	陳岡めぐみ (主任研究員)	喜多崎親編『西洋近代の都市と芸術 2 パリ I 19世紀の首都』(竹林舎)	H26.4.25
5	「ドラクロワ「平和の間」天井画をめぐる素描研究」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『鹿島美術研究』第31号別冊(鹿島美術財団)	H26.11.15
6	「日本からキュレーションの未来を考える」	新藤淳 (研究員)	蔵屋美香, 黒瀬陽平, 新藤淳, 松井茂『キュレーションの現在——アートが「世界」を問い直す』(フィルムアート社)	H27.2
7	III-4 ELISA (Enzyme-linked immunosorbent assay) testing for organic binding media of Üzümlü wall paintings.	高嶋美徳 (研究補佐員)	<u>Scientific Studies on Conservation for Üzümlü Church and its wall paintings in Cappadocia, Turkey.</u> (筑波大学)	H27.3
8	「聖なる形: ナルボンヌの『聖墳墓のメモリア』をめぐる研究」	奈良澤由美 (リサーチフェロー)	『鹿島美術研究』第31号別冊(鹿島美術財団)	H26.11.15

【査読有り】学術誌論文掲載

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	オーストラリアの美術館における鑑賞教育	寺島洋子 （主任研究員） 共同執筆者：一條彰子（東京国立近代美術館主任研究員）	『日本美術教育研究論集』第48号（日本美術教育連合）	H27.3.31
2	「エドゥアール・ヴェイヤールによる演劇プログラムの挿絵：一八九四年上演のイブセン劇『棟梁ソルネス』の挿絵をめぐって」	袴田紘代 （研究員）	『美術史』第177号（美術史学会）	H26.10
3	「前衛と古典主義——1910 - 1920年代のフランスとイタリアにおける画家たちの作品と著述」	阿部真弓 （リサーチフェロー）	『日仏美術学会会報』第33号（日仏美術学会）	H26.5.31
4	「エウカリスティアの祭儀の典礼空間における聖性の強調と信徒の参加 フランスの事例を中心に」	奈良澤由美 （リサーチフェロー）	『西洋美術研究』第18号（三元社）	H26
5	「トロス司教座聖堂出土の装飾石材について — 2013年度および2014年度の発掘から」	奈良澤由美 （リサーチフェロー）	『史苑』第75巻第2号（立教大学史学会）	H27.3

【査読無し】学術誌論文掲載

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「『ことばによる記述のためのガイドライン』—視覚に障害のある人との美術作品鑑賞のために」	横山佐紀 （主任研究員）	『立教大学博物館研究ムゼイオン』第60号（立教大学博物館講座）	H27.2.28

学術誌以外（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、webサイト等）における発表

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「『ディスカバリー』が開く新たな美術文献検索手段」	川口雅子 （主任研究員）	『アート・ドキュメンテーション通信』102号（アート・ドキュメンテーション学会）	H26.8
2	「美術書誌のいま——革新的な美術文献探索システム『アート・ディスカバリー・グループ目録』」	川口雅子 （主任研究員）	『アートスケープ』（Webマガジン）	H26.11.1
3	「美術作品の来歴研究と美術館」	川口雅子 （主任研究員）	『Echo（ドイツ学術交流会友の会会報誌）』第30号	H26.11
4	「IFLA リヨン大会、「美術書誌の未来」会議参加報告——欧州会議にみる美術図書館の専門性」	川口雅子 （主任研究員）	『アート・ドキュメンテーション通信』104号（アート・ドキュメンテーション学会）	H27.1
5	「ボルドー展 —美と陶酔の都へ—」	陳岡めぐみ （主任研究員）	『美術の窓』2015年2月号（生活の友社）	H27.2.20
6	アートダイアリー02：「橋本コレクション 指輪」展とFun with Collection2014について	寺島洋子 （主任研究員）	『文化庁広報誌ぶんかる』（文化庁Web広報誌）	H26.7.8
7	「グエルチーノ展」	渡辺晋輔 （主任研究員）	『うえの』3月号（上野のれん会）	H27.3
8	「Trois questions」	陳岡めぐみ （主任研究員）	Sortir, 26 août, 2014	H26.8
9	「イメージのリズムを感じて」（フェルディナント・ホドラー紹介）	新藤淳 （研究員）	『ミセス』8月号（文化学園）	H26.8
10	「ことのはじめからイメージは盗まれていた——デューラーに見る複製のジレンマ」	新藤淳 （研究員）	『美術手帖』9月号（美術出版社）	H26.9
11	「フェルディナント・ホドラー展」	新藤淳 （研究員）	『うえの』10月号（上野のれん会）	H26.10
12	「フェルディナント・ホドラー「木を伐る人」」	新藤淳 （研究員）	『日本経済新聞』（日本経済新聞社）	H26.11.13
13	「美術館は踊る——ワイズマンが見つめる内実 映画「ナショナル・ギャラリー 英国の至宝」」	新藤淳 （研究員）	『美術手帖』1月号（美術出版社）	H27.1
14	「美術館図書室 SIG 解題リレー：レファレンスブック・ガイド14」	黒澤美子 （研究補佐員）	『アート・ドキュメンテーション通信』104号（アート・ドキュメンテーション学会）	H27.1

15	「光 Mitsou——夢のなかのひとつの部屋」	阿部真弓 (リサーチフェロー)	『ユリイカ 特集バルテュス 20世紀最後の画家』no.642/ vol.46-4 (青土社)	H26.4.1
----	-------------------------	--------------------	--	---------

(エ) 国立国際美術館

[学会等発表]

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「拡張する彫刻とその限界—ヨーゼフ・ボイスの理念と実践について」	美学会西部会 第299回 研究発表会	福元崇志 (研究補佐員)	H26.7.5	同志社大学	60
2	「子どもとともに美術に関わる」	大阪府教育センター主催 「大阪教志セミナー」	藤吉祐子 (主任研究員)	H26.9.7	大阪府教育センター	230

[雑誌等論文掲載]

【査読無し】 学術誌論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	記録者工藤弘子—工藤哲巳回顧展余録	島敦彦 (副館長)	『NACT Review 国立新美術館 研究紀要』No.1 (国立新美術館)	H26.11.28

学術誌以外 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, web サイト等) における発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「無人島にて——「80年代」の彫刻/立体/インスタレーション」	中井康之 (主任研究員)	『アートスケープ』 (Web マガジン)	H26.10.15
2	「奈良・町家の芸術祭「はならあと」	中井康之 (主任研究員)	『アートスケープ』 (Web マガジン)	H27.1.15
3	小川智彦個展「景色の自由研究」ゼロ地点の景色, その先にあるもの	福元崇志 (研究補佐員)	『大阪日日新聞』 (新日本海新聞社 大阪本社)	H26.5.6
4	「ヨシダミノルの絵画 1964-1967」ゆがんだ鏡像が意味するもの	福元崇志 (研究補佐員)	『大阪日日新聞』 (新日本海新聞社 大阪本社)	H26.9.2
5	亡霊たち—無知の時代における植物の美とその名について	翻訳: 福元崇志 (研究補佐員) (著者: ガブリエーレ・マッカート)	『PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 [公式カタログ]』	H27.3.6

(オ) 国立新美術館

[学会等発表]

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	[ポスター発表] 「東京藝術大学大学美術館蔵 菱田春草《水鏡》の彩色材料分析調査報告」	文化財保存修復学会第 36回大会	日比野民蓉 (研究補佐員)	H26.6.4	明治大学	
2	「フォートリエを内側からひらく」	ジャン・フォートリエ 展関連シンポジウム	山田由佳子 (研究員)	H26.10.26	国立国際美術館	
3	フレデリック・キースラー《ブケパロス》——洞窟の展示空間	表象文化論学会第9回 研究発表集会	瀧上華 (アソシエイトフェロー)	H26.11.8	新潟大学	20

学術書籍, 研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	『もっと知りたい マグリット 生涯と作品』(監修・著)	南雄介 (副館長兼学芸課長)	東京美術	H27.3.20

【査読有り】学術誌論文掲載

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「ジャン・フォートリエの『人質』の連作再考—顔のイメージとヴェロニカの聖顔布」	山田由佳子 （研究員）	『美学』第245号（美学会）	H26.12.31
2	「朝鮮美術展覧会における日本人画家・安保道子について」	日比野民蓉 （研究補佐員）	『東京藝術大学美術学部紀要』 （東京藝術大学）	H26.12

学術誌以外（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、webサイト等）における発表

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「笛を吹く少年」	宮島綾子 （主任研究員）	『月刊展覧会ガイド』6月号（生活ガイド社）	H26.6.1
2	「アートダイアリー03:魅惑のコスチューム:パレエ・リュス展」	本橋弥生 （主任研究員）	『文化庁広報誌ぶんかる』（文化庁 Web 広報誌）	H26.8.4
3	「ぎやらりいモール 国立新美術館「オルセー美術館展 印象派の誕生 —描くことの自由— から 《ゆりかご》ベルト・モリゾ」	宮島綾子 （主任研究員）	『読売新聞』夕刊（読売新聞社）	H26.8.5
4	「没後五〇年目のジャン・フォートリエ展」	山田由佳子 （研究員）	『国立国際美術館ニュース』	H26.10.01
5	「ジャコメッティの線 『《終わりなきパリ》,そしてポーズ』展の余韻に（2014年4月26日～6月29日, 東京大学駒場博物館）」	横山由季子 （アソシエイトフェロー）	『REPRE』22号（表象文化論学会）	H26.10
6	「書評：澤村聡／編著『アートは地域を変えたか 越後妻有大地の芸術祭の十三年 2000-2012』慶應義塾大学出版会, 2014年」	横山由季子 （アソシエイトフェロー）	『地域開発』604号（日本地域開発センター）	H27.1
7	「『オルセー美術館展 印象派の誕生 —描くことの自由—（国立新美術館, 2014年7月9日～10月20日）関連シンポジウム『マネから印象派へ —1860年代のフランス絵画の変貌』」	横山由季子 （アソシエイトフェロー）	『REPRE』23号（表象文化論学会）	H27.2
8	「ルーヴル美術館の名画約80点でたどる, ヨーロッパ風俗画の展開」	宮島綾子 （主任研究員）	『美術の窓』第34巻第2号・通巻397号（生活の友社）	H27.2
9	「聖なる貧しさ—ムリーリョの子ども」	宮島綾子 （主任研究員）	『REZONAVI』2月号（りそなカード株式会社）	H27.2
10	「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」	宮島綾子 （主任研究員）	『新美術新聞』2月21日号・第1368号（美術年鑑社）	H27.2.16
11	「人間存在の本質突く 河原温さんを悼む」	南雄介 （副館長兼学芸課長）	『毎日新聞』夕刊（毎日新聞社）	H26.7.22
12	「追悼 辰野登恵子 確かな眼差しで切り開いた絵画の可能性」	南雄介 （副館長兼学芸課長）	『月刊美術』471号（サン・アート）	H26.12
13	「マグリット展」	南雄介 （副館長兼学芸課長）	『美術の窓』377号（生活の友社）	H27.2

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

- ・ 科研費基盤B「美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発」の研究成果に基づくウェブサイト「鑑賞教育.jp」 (<http://kanshokyoiku.jp/> 国立美術館・博物館の所蔵作品によるパイロット・プログラムを含む) を構築した。

(イ) 国立西洋美術館

- ・ ホームページ上の収蔵作品データベースを通じて、収蔵作品に関する歴史情報を公開した（来歴・展覧会歴・文献歴）。
- ・ 国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS をホームページに掲載した。

(ウ) 国立新美術館

- ・「国立新美術館活動報告」及び「国立新美術館ニュース」を、ホームページ上で公開した。

② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館

(本館)

セミナー・シンポジウム名	「コレクションと鑑賞教育1」	開催日	平成26年9月21日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	80人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	趣旨説明/調査報告: 一條彰子(東京国立近代美術館企画課主任研究員)・寺島洋子(国立西洋美術館学芸課主任研究員) ゲストスピーカー: ゲーナ・パネビエンコ(ヴィクトリア国立美術館教育部ディレクター) 鼎談パネリスト: 一條彰子, 寺島洋子, ゲーナ・パネビエンコ, 岡田京子(国立政策研究所・教科調査官), 奥村高明(聖徳大学教授)		
内容	美術館のコレクションを活用した鑑賞教育を学習指導要領に関連付けて考える科研費研究の途中報告にあわせ, オーストラリアの美術館教育の状況を知り, 鼎談を行った。		

セミナー・シンポジウム名	「コレクションと鑑賞教育2」 ワークショップ: グッゲンハイム美術館のギャラリートーク	開催日	平成27年1月9日
場所	東京国立近代美術館会議室	聴講者数	30人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	シャロン・バツスキー(グッゲンハイム美術館教育部ディレクター)		
内容	国内の美術館エデュケーター(教育担当学芸員)対象のワークショップ。グッゲンハイム美術館教育部で行われている鑑賞プログラムを, スライドを用いて再現しつつ, その要諦を理解した。		

セミナー・シンポジウム名	「コレクションと鑑賞教育3」 美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育の展開	開催日	平成27年1月10日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	140人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	科研成果報告: 一條彰子(東京国立近代美術館企画課主任研究員)・奥村高明(聖徳大学教授) ゲストスピーカー: シャロン・バツスキー(グッゲンハイム美術館教育部ディレクター) 司会: 寺島洋子(国立西洋美術館学芸課主任研究員) パネリスト: 一條彰子, シャロン・バツスキー, 岡田京子(国立政策研究所・教科調査官), 今井陽子(東京国立近代美術館工芸課主任研究員), 藤田千織(東京国立博物館教育普及室主任研究員)		
内容	科研費研究の成果としてのウェブ・プログラム「鑑賞教育キーワードmap」の報告, 米国の美術館教育についてのレクチャー, 鑑賞教育についてのシンポジウムを行った。		

セミナー・シンポジウム名	「コレクションと鑑賞教育4」 ワークショップ: ホイットニー美術館の ギャラリートーク in 東近美	開催日	平成27年3月12日
場所	東京国立近代美術館会議室・コレクション ギャラリー	聴講者数	60人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	ヘザー・マクソン (ホイットニー美術館教育部ディレクター)		
内容	国内の美術館エデュケーターと東京国立近代美術館ガイドスタッフのためのワークショップ。ホイットニー美術館で行われているギャラリートークの手法とアクティビティで、東京国立近代美術館のコレクションを鑑賞し、その要諦を理解した。		

(工芸館)

セミナー・シンポジウム名	「コレクションと鑑賞教育3」 美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育 の展開	開催日	平成27年1月10日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	140人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	<p>科研成果報告: 一條彰子 (東京国立近代美術館企画課主任研究員)・奥村高明 (聖徳大学教授)</p> <p>ゲストスピーカー: シャロン・バツスキー (グッゲンハイム美術館教育部ディレクター)</p> <p>司会: 寺島洋子 (国立西洋美術館学芸課主任研究員)</p> <p>パネリスト: 一條彰子, シャロン・バツスキー, 岡田京子 (国立政策研究所・教科調査官), 今井陽子 (東京国立近代美術館工芸課主任研究員), 藤田千織 (東京国立博物館教育普及室主任研究員)</p>		
内容	<p>科研費研究の成果としてのウェブ・プログラム「鑑賞教育キーワードmap」の報告, 米国の美術館教育についてのレクチャー, 鑑賞教育についてのシンポジウムを行った。</p>		

(フィルムセンター)

セミナー・シンポジウム名	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特 別講演会 関東大震災記録映画フィル ムの発見——デジタル保存とその活用	開催日	平成26年10月11日
場所	フィルムセンター大ホール	聴講者数	260人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	大澤浄 (フィルムセンター事業推進室研究員), 田中傑 (京都大学防災研究所特定研究員・特任助教), 西田幸夫 (埼玉大学理工学研究科特任准教授)		
内容	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」を記念してフィルムセンターで毎年開催している教育イベント。今年は近年発見された関東大震災に関する記録映画をテーマに取り上げ、その映画史/文化史的意義について、3人の講師が研究発表を行った。		

イ 京都国立近代美術館

セミナー・シンポジウム名	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 アクセスプログラム [ギャラリートーク] 私的防災計画 「ピピロッティ・リストの作品を中心に」	開催日	平成 26 年 4 月 29 日
場所	4 階 コレクション・ギャラリー	聴講者数	40 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	講師：ピピロッティ・リスト (作家) ナビゲーター：牧口千夏 (研究員)		
内容	京都国際現代芸術祭組織委員会，一般社団法人京都経済同友会，京都府，京都市が主催する国際展「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」において，京都国立近代美術館所蔵作品の作家であるピピロッティ・リストに関連するプログラムが京都国立近代美術館協力により実施された。		

セミナー・シンポジウム名	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム 09 [レクチャー] ピピロッティ・リスト	開催日	平成 26 年 4 月 29 日
場所	1 階 ロビー	聴講者数	200 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	講師：ピピロッティ・リスト (作家)		
内容	京都国際現代芸術祭組織委員会，一般社団法人京都経済同友会，京都府，京都市が主催する国際展「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」において，京都国立近代美術館所蔵作品の作家であるピピロッティ・リストに関連するプログラムが京都国立近代美術館協力により実施された。		

セミナー・シンポジウム名	講演会「ヨシダミノルとプラスチックの時代」+現代家族パフォーマンス	開催日	平成 26 年 8 月 9 日
場所	1 階 講堂	聴講者数	100 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	講演会講師：藤本由紀夫 (アーティスト) パフォーマンス：現代家族(荒木みどり・吉田省念・吉田朝麻) 司会進行：平井章一 (主任研究員)		
内容	「キュレトリアル・スタディズ 06：ヨシダミノルの絵画 1964-1967」の関連イベントとして，講演会+パフォーマンスを実施した。		

セミナー・シホジウム名	キュレトリアル・スタディズ 08：フロリアン・プムヘスル×MoMAK 日本のダダ雑誌『マヴォ』研究：その翻訳の可能性 Part 1：ラウンドテーブル：『マヴォ』とフロリアン・プムヘスル	開催日	平成 27 年 3 月 8 日
場所	1 階 講堂	聴講者数	26 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：フロリアン・プムヘスル（アーティスト，PARASOPHIA 参加作家），森下明彦（メディア・アーティスト）		
内容	「キュレトリアル・スタディズ 08：フロリアン・プムヘスル×MoMAK 日本のダダ雑誌『マヴォ』研究：その翻訳の可能性」のキックオフとして，プムヘスルが創作活動のなかで注目する『マヴォ』を取り上げ，さまざまな角度から議論する場をもった。		

#### ウ 国立西洋美術館

セミナー・シホジウム名	「コレクションと鑑賞教育 1」	開催日	平成 26 年 9 月 21 日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	80 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	趣旨説明／調査報告：寺島洋子（国立西洋美術館学芸課主任研究員）・一條彰子（東京国立近代美術館企画課主任研究員） ゲストスピーカー：ゲーナ・パネビエンコ（ヴィクトリア国立美術館教育部ディレクター） 鼎談パネリスト：一條彰子，寺島洋子，ゲーナ・パネビエンコ，岡田京子（国立政策研究所・教科調査官），奥村高明（聖徳大学教授）		
内容	美術館のコレクションを活用した鑑賞教育を学習指導要領に関連付けて考える科研費研究の途中報告にあわせ，オーストラリアの美術館教育の状況を知り，鼎談を行った。		

セミナー・シホジウム名	「コレクションと鑑賞教育 2」 ワークショップ：グッゲンハイム美術館のギャラリートーク	開催日	平成 27 年 1 月 9 日
場所	東京国立近代美術館会議室	聴講者数	30 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	シャロン・バツスキー（グッゲンハイム美術館教育部ディレクター）		
内容	国内の美術館エデュケーター（教育担当学芸員）対象のワークショップ。グッゲンハイム美術館教育部で行われている鑑賞プログラムを，スライドを用いて再現しつつ，その要諦を理解した。		



セミナー・シンポジウム名	「コレクションと鑑賞教育3」 美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育の展開	開催日	平成27年1月10日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	140人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	科研成果報告：一條彰子（東京国立近代美術館企画課主任研究員）・奥村高明（聖徳大学教授） ゲストスピーカー：シャロン・バツスキー（グッゲンハイム美術館教育部ディレクター） 司会：寺島洋子（国立西洋美術館学芸課主任研究員） パネリスト：一條彰子，シャロン・バツスキー，岡田京子（国立政策研究所・教科調査官），今井陽子（東京国立近代美術館工芸課主任研究員），藤田千織（東京国立博物館教育普及室主任研究員）		
内容	科研費研究の成果としてのウェブ・プログラム「鑑賞教育キーワードmap」の報告，米国の美術館教育についてのレクチャー，鑑賞教育についてのシンポジウムを行った。		

セミナー・シンポジウム名	「コレクションと鑑賞教育4」 ワークショップ：ホイットニー美術館のギャラリートーク in 東近美	開催日	平成27年3月12日
場所	東京国立近代美術館会議室・コレクションギャラリー	聴講者数	60人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ヘザー・マクソン（ホイットニー美術館教育部ディレクター）		
内容	国内の美術館エデュケーターと東京国立近代美術館ガイドスタッフのためのワークショップ。ホイットニー美術館で行われているギャラリートークの手法とアクティビティで，東京国立近代美術館のコレクションを鑑賞し，その要諦を理解した。		

## (2) 国内外の美術館等との連携

### ① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

#### ア 東京国立近代美術館 (本館)

セミナー・シンポジウム名	【再掲】「コレクションと鑑賞教育1」	開催日	平成26年9月21日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	80人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	趣旨説明／調査報告：一條彰子（東京国立近代美術館企画課主任研究員）・寺島洋子（国立西洋美術館学芸課主任研究員） ゲストスピーカー：ゲーナ・パネビエンコ（ヴィクトリア国立美術館教育部ディレクター） 鼎談パネリスト：一條彰子，寺島洋子，ゲーナ・パネビエンコ，岡田京子（国立政策研究所・教科調査官），奥村高明（聖徳大学教授）		
内容	美術館のコレクションを活用した鑑賞教育を学習指導要領に関連付けて考える科研費研究の途中報告にあわせ，オーストラリアの美術館教育の状況を知り，鼎談を行った。		

セミナー・シンポジウム名	国際セミナー2014 Cultural Rebellion in Asia 1960-1980	開催日	平成 26 年 9 月 30 日～10 月 2 日
場所	国際交流基金	聴講者数	60 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	鈴木勝雄(美術課主任研究員), ピー・リー(M+シグ・コレクション・シニア・キュレーター), パク・ヘソン(韓国国立近現代美術館キュレーター), ライ・エイエイ(国立台湾芸術大学教授), 林道郎(上智大学国際教養学部教授), ユージン・セン(シンガポール国立美術館シニア・キュレーター), プラポーン・カムジム(チュラーロンコーン大学アートセンター長), サイモン・スーン(シドニー大学博士課程), パトリック・D・フローレス(フィリピン大学ディリマン校美術学部教授), アデル・タン(シンガポール国立美術館キュレーター)		
内容	冷戦期におけるアジア各地の前衛的ないしは実験的芸術の動向を, トランスナショナルな視点で比較考察する国際共同プロジェクトの一環。		

セミナー・シンポジウム名	JAL2014「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」主催公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」	開催日	平成 26 年 12 月 11 日
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	60 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	長谷川・Sockeel 正子(フランス国立ギメ東洋美術館図書館), 岩瀬加奈子(ハワイ大学マノア校美術学部), カワイアイエ・藤田幸代(ホノルル美術館図書館), 吉村玲子(米国スミソニアン協会フリーア美術館図書館), 足立アン(フリーランス), 平野明(セイNZベリー日本芸術研究所図書館), 市川義則(パリ国際大学都市日本館図書室), 小出いずみ(渋沢栄一記念財団), 林理恵(国際文化会館図書室), 水谷長志(東京国立近代美術館)		
内容	関係機関と実行委員会を組織し, 文化庁補助金により実施した。JAL2014の招へい者による「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」をめぐって, 国内外の関係者が日本の美術資料の情報発信の課題について討議した。		

セミナー・シンポジウム名	【再掲】「コレクションと鑑賞教育2」ワークショップ:グッゲンハイム美術館のギャラリートーク	開催日	平成 27 年 1 月 9 日
場所	東京国立近代美術館会議室	聴講者数	30 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	シャロン・バツスキー(グッゲンハイム美術館教育部ディレクター)		
内容	国内の美術館エデュケーター(教育担当学芸員)対象のワークショップ。グッゲンハイム美術館教育部で行われている鑑賞プログラムを, スライドを用いて再現しつつ, その要諦を理解した。		

セミナー・シンポジウム名	【再掲】「コレクションと鑑賞教育3」 美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育 の展開	開催日	平成27年1月10日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	140人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	科研成果報告：一條彰子（東京国立近代美術館企画課主任研究員）・奥村高明（聖徳大学教授） ゲストスピーカー：シャロン・バツスキー（グッゲンハイム美術館教育部ディレクター） 司会：寺島洋子（国立西洋美術館学芸課主任研究員） パネリスト：一條彰子，シャロン・バツスキー，岡田京子（国立政策研究所・教科調査官），今井陽子（東京国立近代美術館工芸課主任研究員），藤田千織（東京国立博物館教育普及室主任研究員）		
内容	科研費研究の成果としてのウェブ・プログラム「鑑賞教育キーワードmap」の報告，米国の美術館教育についてのレクチャー，鑑賞教育についてのシンポジウムを行った。		

セミナー・シンポジウム名	【再掲】「コレクションと鑑賞教育4」 ワークショップ：ホイットニー美術館の ギャラリートーク in 東近美	開催日	平成27年3月12日
場所	東京国立近代美術館会議室・コレクション ギャラリー	聴講者数	60人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	ヘザー・マクソン（ホイットニー美術館教育部ディレクター）		
内容	国内の美術館エデュケーターと東京国立近代美術館ガイドスタッフのためのワークショップ。ホイットニー美術館で行われているギャラリートークの手法とアクティビティで，東京国立近代美術館のコレクションを鑑賞し，その要諦を理解した。		

(工芸館)

セミナー・シンポジウム名	【再掲】「コレクションと鑑賞教育3」 美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育 の展開	開催日	平成27年1月10日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	140人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	科研成果報告：一條彰子（東京国立近代美術館企画課主任研究員）・奥村高明（聖徳大学教授） ゲストスピーカー：シャロン・バツスキー（グッゲンハイム美術館教育部ディレクター） 司会：寺島洋子（国立西洋美術館学芸課主任研究員） パネリスト：一條彰子，シャロン・バツスキー，岡田京子（国立政策研究所・教科調査官），今井陽子（東京国立近代美術館工芸課主任研究員），藤田千織（東京国立博物館教育普及室主任研究員）		
内容	科研費研究の成果としてのウェブ・プログラム「鑑賞教育キーワードmap」の報告，米国の美術館教育についてのレクチャー，鑑賞教育についてのシンポジウムを行った。		

## (フィルムセンター)

セミナー・シンポジウム名	Lone Wolves and Stray Dogs: The Japanese Crime Film 1931-1969	開催日	平成 27 年 2 月 15 日
場所	イエール大学	聴講者数	25 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	大澤浄(フィルムセンター事業推進室研究員), アーロン・ジェロー(イエール大学教授), 四方田犬彦(京都造形芸術大学客員教授), フィル・キャプエン(ニューヨーク大学アシスタント・プロフェッサー)		
内容	フィルムセンターとイエール大学の共催による日本の犯罪映画特集上映会(平成 27 年 1 月 22 日~2 月 15 日)の最終日に開催されたシンポジウム。日本の映画ジャンルやスタイルの特徴を指摘しつつ, 映画保存活動の重要性を訴え, 同席パネリストらと共に討議を行った。		

## イ 京都国立近代美術館

セミナー・シンポジウム名	講演会「ジェームズ・マクニール・ホイッスラー(1834-1903) —芸術のコモポリタン」	開催日	平成 26 年 9 月 13 日
場所	1 階 講堂	聴講者数	78 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師: パトリシア・ド・モントフォールト(グラスゴー大学文化芸術学部 美術史講師)		
内容	「ホイッスラー展」において, 海外の研究者を招へいして講演会を開催した。		

セミナー・シンポジウム名	第 4 回畠山公開シンポジウム 「ジャポニスムの全貌~ホイッスラーから何が始まったのか?」	開催日	平成 26 年 10 月 4 日
場所	1 階 講堂	聴講者数	103 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	基調講演: 馬淵明子(国立西洋美術館館長) 発表: 小野文子(信州大学准教授), 三浦篤(東京大学教授), 鶴園紫磯子(ピアニスト・桐朋学園大学講師), 橋本順光(大阪大学准教授) ディスカッション 司会: 宮崎克己(ジャポニスム学会理事長・昭和音楽大学教授)		
内容	京都国立近代美術館の「ホイッスラー展」, 京都市美術館の「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展」開催に合わせ, 国内の研究者を集めたシンポジウムを開催した。		

セミナー・シンポジウム名	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム 12[レクチャー] ルイーズ・ローラー	開催日	平成 26 年 11 月 19 日
場所	1 階 講堂	聴講者数	70 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師: ルイーズ・ローラー(作家)		
内容	京都国際現代芸術祭組織委員会, 一般社団法人京都経済同友会, 京都府, 京都市が主催する国際展「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」において, 京都国立近代美術館及び東京国立近代美術館で平成 2 年に開催した展覧会「移行するイメージ: 1980 年代の映像表現」で紹介した作家の 1 人であるルイーズ・ローラーに関連するプログラムが京都国立近代美術館協力により実施された。		

ウ 国立西洋美術館

セミナー・シンポジウム名	【再掲】「コレクションと鑑賞教育1」	開催日	平成26年9月21日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	80人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	趣旨説明／調査報告：寺島洋子（国立西洋美術館学芸課主任研究員）・一條彰子（東京国立近代美術館企画課主任研究員） ゲストスピーカー：ゲーナ・パネビエンコ（ヴィクトリア国立美術館教育部ディレクター） 鼎談パネリスト：一條彰子，寺島洋子，ゲーナ・パネビエンコ，岡田京子（国立政策研究所・教科調査官），奥村高明（聖徳大学教授）		
内容	美術館のコレクションを活用した鑑賞教育を学習指導要領に関連付けて考える科研費研究の途中報告にあわせ，オーストラリアの美術館教育の状況を知り，鼎談を行った。		

セミナー・シンポジウム名	【再掲】「コレクションと鑑賞教育2」 ワークショップ：グッゲンハイム美術館のギャラリートーク	開催日	平成27年1月9日
場所	東京国立近代美術館会議室	聴講者数	30人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	シャロン・バツスキー（グッゲンハイム美術館教育部ディレクター）		
内容	国内の美術館エデュケーター（教育担当学芸員）対象のワークショップ。グッゲンハイム美術館教育部で行われている鑑賞プログラムを，スライドを用いて再現しつつ，その要諦を理解した。		

セミナー・シンポジウム名	【再掲】「コレクションと鑑賞教育3」 美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育の展開	開催日	平成27年1月10日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	140人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	科研成果報告：一條彰子（東京国立近代美術館企画課主任研究員）・奥村高明（聖徳大学教授） ゲストスピーカー：シャロン・バツスキー（グッゲンハイム美術館教育部ディレクター） 司会：寺島洋子（国立西洋美術館学芸課主任研究員） パネリスト：一條彰子，シャロン・バツスキー，岡田京子（国立政策研究所・教科調査官），今井陽子（東京国立近代美術館工芸課主任研究員），藤田千織（東京国立博物館教育普及室主任研究員）		
内容	科研費研究の成果としてのウェブ・プログラム「鑑賞教育キーワードmap」の報告，米国の美術館教育についてのレクチャー，鑑賞教育についてのシンポジウムを行った。		

セミナー・シンポジウム名	【再掲】「コレクションと鑑賞教育4」 ワークショップ: ホイットニー美術館の ギャラリートーク in 東近美	開催日	平成 27 年 3 月 12 日
場所	東京国立近代美術館会議室・コレクショ ンギャラリー	聴講者数	60 人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	ヘザー・マクソン (ホイットニー美術館教育部ディレクター)		
内容	国内の美術館エデュケーターと東京国立近代美術館ガイドスタッフのためのワークショ ップ。ホイットニー美術館で行われているギャラリートークの手法とアクティビティ で、東京国立近代美術館のコレクションを鑑賞し、その要諦を理解した。		

## エ 国立国際美術館

セミナー・シンポジウム名	ジャン・フォートリエ展 シンポジウム 「フォートリエをひらく」	開催日	平成 26 年 10 月 26 日
場所	国立国際美術館	聴講者数	70 人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	岡田温司 (京都大学大学院人間・環境学研究科 教授) 山田由佳子 (国立新美術館 研究員)		
内容	山田由佳子氏からは「人質」以前のフォートリエ作品を中心に、岡田温司教授にはイタ リアのアンフォルメルの動向を中心にお話しいただき、フォートリエを新たな文脈へ開 いていくようなシンポジウムを開催した。		

## オ 国立新美術館

セミナー・シンポジウム名	「マネから印象派へ —1860 年代のフ ランス絵画の変貌」	開催日	平成 26 年 9 月 13 日
場所	国立新美術館 3 階講堂	聴講者数	233 人
講師・パネリスト等の 氏名(職名)	【基調講演】「1860 年代のマネとそのグループ —ポスト・リアリズムから印象主義 へ—」三浦篤 (東京大学教授) 【研究発表】「作品展示の場を求めて——19 世紀半ばの画家たちの選択」横山由季子 (国立新美術館アソシエイトフェロー), 「ルグロとホイッスラー —三人会の結成と 新しい絵画の到来」安藤智子 (國學院大學, 法政大学, 一橋大学他非常勤講師), 「19 世紀版画の分岐点としての腐蝕銅版画家協会」和南城愛理 (町田市立国際版画美術館学 芸員), 「絵筆とナイフ——ピサロとセザンヌを中心に」石谷治寛 (甲南大学人間科学 研究所博士研究員), 「1860 年代のドガー—歴史画と近代性」岩崎余帆子 (ポーラ美術 館学芸課長)		
内容	主催: 国立新美術館, 日仏美術学会 本シンポジウムは, 「オルセー美術館展 印象派の誕生 —描くことの自由—」の関連 イベントとして, 1860 年代におけるフランス絵画をめぐる諸相について, 絵画作品その ものの分析だけでなく, 美術制度や芸術家の交流の変遷をたどりながら, 議論すること を目的として企画されたものである。展覧会に出品されていない画家も含めてこれまで あまり分析の対象とならなかった 1860 年代を俯瞰的に捉え, 第 1 回印象派展の開催に 先立つ時代に, 新しい絵画の誕生の兆しと新たな展示スタイルの模索が交錯したことを 示す, 実りある場となった。		

セミナー・シンポジウム名	日本から世界へ—マンガ、アニメ、ゲームによる文化発信と交流	開催日	平成 27 年 2 月 4 日
場所	国立新美術館 3 階講堂	聴講者数	120 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	<p>ディサボン・ネトロモン (タイ・ナショナル・ギャラリー・バンコク, キュレーター)          コニー・ラム (香港アーツセンター, コミックス・ホームベース, エグゼクティブ・ディレクター)          ゴードン・ロー (香港アーツセンター, コミックス・ホームベース, プログラム・オペレーション・マネージャー)          ファブリス・ビュオン(Japan Expo 日本駐在事務所マーケティング・マネージャー)          阿部芳久 (CG-ARTS 協会 イノベーション事業部長)          趙剛 (中国社会科学院, 助教授)          長井延裕 (クールジャパン機構 エグゼクティブ・ディレクター)          下山雅也 (国際交流基金 アジアセンター部長)          真住貴子 (文化庁 芸術文化調査官)          さやわか (ライター/編集)          室屋泰三 (国立新美術館 情報資料室長)</p>		
内容	<p>日本のマンガ、アニメ、ゲームは世界に類を見ない多様な表現を、メディアの各ジャンルの壁を超えて広げつつ、世相の変化やテクノロジーの革新を作品世界に映し出し、拡張された現実や未来世界を開示している。その影響は日本国内にとどまらず、グローバルな規模で注目され受容されている。</p> <p>本シンポジウムでは、国内外の美術展の企画・開催に携わる関係者及び日本の文化発信に携わる関係者が登壇し、国内外における日本のマンガ、アニメ、ゲームについての各国の状況を浮き彫りにし、国内及び海外双方の視点から議論を展開した。</p>		

セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム 「アーティストとの関わりは私たちに何をもたらすのか—“経験する”現場からの検証」	開催日	平成 27 年 3 月 15 日
場所	国立新美術館	聴講者数	159 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	<p>ヘザー・マクソン (ホイットニー美術館 学校・青少年・家族向けプログラム ディレクター), 端山聡子 (横浜美術館 教育普及グループ チームリーダー/主任学芸員), 並河恵美子 (認定 NPO 法人芸術資源開発機構 ARDA 代表理事), 吉澤菜摘 (国立新美術館 学芸課教育普及室アソシエイトフェロー)</p>		
内容	<p>主催：国立新美術館 協力：全国美術館会議 教育普及研究部会          特別助成：アメリカ大使館</p> <p>国立新美術館では、2007 年の開館以来アーティストを講師としたワークショップを開催してきた。こうしたアーティストとの教育事業は、昨今、美術館や芸術祭、学校、保育園・幼稚園、高齢者施設など様々な場で展開されているが、その意義や課題を論じる機会はこれまで多くはなかった。本シンポジウムでは、アーティストとの教育事業を数多く行っているアメリカ・ニューヨークのホイットニー美術館よりヘザー・マクソン氏を迎え、その事例と、事業に関わる人々にもたらす変化についてについて紹介した。また、美術館やトリエンナーレ、高齢者施設における事例報告も行い、アーティストとの教育活動について活発な意見を交わすとともに、その意義と社会的影響に関して検証を促す機会となった。</p>		

## ② 我が国の作家，美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

### ア 東京国立近代美術館

本館では、ヒューストン美術館で開催され（平成 27 年 3 月 7 日～7 月 12 日），その後平成 27 年度 9 月にジャパン・ソサイエティー・ギャラリー及びグレイ・アート・ギャラリーへ同時巡回する「来るべき世界のために：日本の美術と写真における実験 1968-1979」展に対し，出品協力を行った。

工芸館では，国際交流基金アジアセンターと在シンガポール日本国大使館ジャパン・クリエティブ・センターとが共催し開催した「アジアにおける現代工芸交流事業」の軸をなす展覧会「わざの美—現代日本の工芸」（平成 26 年 5 月 31 日～6 月 21 日）に企画協力し，諸山正則主任研究員が展覧会キュレーターを務めた。

フィルムセンターでは，フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャとの共催による第 28 回チネマ・リトバート映画祭・特集企画「日本が声を上げる！ パート 3：松竹映画特集」において，同社におけるトーキー映画黎明期に活躍した小津安二郎，清水宏等の監督作品 9 本を，すべて英語字幕付プリントで提供し，音声の再現に関する日本の映画作家たちの先駆的，実験的な試みについて，映画祭に参加した世界各国の研究者やアーキビストたちの認識を高めることができた。また，シネマテーク・ケベコワーズとの共催による第 13 回モンリオール・ケベックシティ国際フェスティバル「大藤信郎・政岡憲三回顧展」においては，近年デジタル復元を行った大藤信郎監督『くじら』（1953 年）『幽霊船』（1956 年），政岡憲三監督『くもとちゅうりっぷ』（1943 年）など 16 本のプリントを提供し，アニメーション映画の世界的拠点であるモンリオールの観客や研究者たちに，日本の初期アニメーション映画を代表する 2 人の作家の業績を伝えることができた。シネマテーク・フランセーズ主催による大規模な深作欣二監督の回顧展に対しては，21 本のプリントを貸与するとともに，オープニングにはフィルムセンター研究員を派遣し，海外における作家研究にとって大きな足掛かりとなる機会に協力をすることができた。加えて，ジュネーヴ国際インディペンデント映画祭（通称・ブラックムービー）の枠内で行われた「日本アート・シアター・ギルド映画ポスター展」のために映画ポスターを貸与し，現地で講演会・展示解説などを実施した。

### イ 京都国立近代美術館

樂美術館，国際交流基金，開催各館が主催し，ロサンゼルス・カウンティ美術館で開催され（平成 27 年 3 月 29 日～6 月 7 日），エルミタージュ美術館，プーシキン美術館で平成 27 年度に開催される「樂—茶碗の中の宇宙展」に企画協力し，松原龍一学芸課長が展覧会キュレーターを務めた。

### ウ 国立国際美術館

ダラス美術館及びヒューストン美術館で開催された「アクションと未知の間で—白髪一雄と元永定正」展に出品するため，国際交流基金を通じて，元永定正，白髪一雄の作品を貸与，また，「タイペイビエンナーレ 2014」に出品のため工藤哲巳作品の貸与を行った。

### エ 国立新美術館

平成 27 年 6 月に開催を予定している「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」展を海外に巡回させることを決定し，海外の美術館や文化機関との連携について協議を重ねた。また，同じく平成 27 年度に開催予定の「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋—日本



と韓国の作家たち」の開催に向けて、共同企画者の韓国国立現代美術館と連携し、日韓の優れた美術家たちを調査、現代美術の現況を研究した。

### ③ その他海外の美術館との連携・協力

国立美術館本部では、ICOM年次会合、アジア・ヨーロッパ博物館ネットワーク（Asia-Europe Museum Network, ASEMUS）等の国際会議へ出席した。

日豪美術館学芸員交流では、ヴィクトリア国立美術館から教育室長を招へいし、国立西洋美術館において筑波大学附属小学校教員との面談や鑑賞科研報告会での講演・ディスカッション、ファン・デーの見学等の場を持った。さらに、京都及び東京の美術館及び博物館等へ案内し、それぞれの美術関係者と共に意見交換及び情報収集を行った。

## (3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換

### ア 東京国立近代美術館

(フィルムセンター)

ゴスフィルモフォンド、アカデミー・フィルム・アーカイブ、シネマテーク・フランスーズ、神戸映画資料館、映画製作配給各社、現像所、図書館、個人等より、映画フィルムに関する新たな所在情報を得た。

フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ、ゴスフィルモフォンド、映画製作配給各社、現像所、映画フィルム製造会社、映画関連機器メーカー等との間で、映画フィルムの保存・修復に関する調査や情報交換を行った。また、研究員が「Memory! 第2回国際映画遺産フェスティバル」（カンボジア・プノンペン）「映画の復元と保存に関するワークショップ」「日本写真学会」「アーカイブサミット2015」等で行われたシンポジウムやワークショップに参加することで、参加者との情報交換に努めた。

シネマテーク・スイスと、ノンフィルム資料の収集・保存事業の展開について情報交換を行った。

鎌倉市川喜多映画記念館、神戸映画資料館、八丁座映画図書館、松永文庫と、寄贈資料重複分の分配について調整を開始した。

## (4) 所蔵作品の貸与等

### ① 作品の貸与

館名	貸出件数	貸出点数	特別観覧件数	特別観覧点数
東京国立近代美術館（本館）	72	244	157	482
東京国立近代美術館（工芸館）	19	153	27	107
京都国立近代美術館	46	315	91	173
国立西洋美術館	8	21	76	145
国立国際美術館	30	267	12	16
計	175	1,000	363	923

東京国立近代美術館本館では、個展では「谷中安規展」（町田市立国際版画美術館他）に20点、「生誕140年 中澤弘光」展（三重県立美術課他）に6点、「藤井浩祐の世界」展（井原市立田中美術館他）に5点、「安井曾太郎展」（ふくやま美術館他）に4点を貸与した。研究的意義の大きな展覧会としては、「東京・ソウル・台北・長春一官展にみる

近代美術」(福岡アジア美術館他)に5点、「光風会 100 年記念 光風会と日本の外光派」(東京ステーションギャラリー他)に5点の貸与などを行った。海外への貸出実績としては、「For a New World to Come: Experiments in Japanese Art and Photography」(ヒューストン美術館他)に33点、「Ink and Gold: Art of the Kano」(フィラデルフィア美術館)に1点、「On Kawara - Silence」(グッゲンハイム美術館)に1点をそれぞれ貸与した。

東京国立近代美術館工芸館からは、文化庁が毎年開催している「日本のわざと美—重要無形文化財を保持する人々」展をはじめ、高岡市美術館、島根県立石見美術館、倉吉市博物館への大量貸出を行った。浦添市美術館では、工芸館で毎年実施している所蔵作品展「こども／おとな美術館」と同様主旨の企画展が開催され、陶磁・ガラス・染織・漆工・金工の各分野から大作を含む15点の貸与協力を行った。

国立西洋美術館では、国内の展覧会だけではなく、毎年、国外の重要な展覧会にも作品の貸与を続けているが、パリ、ロンドン、フィラデルフィアを巡回する大規模な「デュラン・リュエル」展に貸与した国立西洋美術館のモネ作品は、ロンドン会場(ナショナル・ギャラリー)において、展覧会の中心作品としてポスターをはじめとする数々の媒体のイメージとして用いられた。(後半2会場のロンドン、フィラデルフィアに貸与)

## ② 映画フィルム等の貸与

種別	貸出		特別映写観覧		複製利用	
	件数	本数	件数	本数	件数	本数
映画フィルム	105	264	112	485	60	1,987

種別	貸出		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数
映画関連資料	7	164	29	532

所蔵作品の貸与等のうち、映画フィルムにおける平成26年度の特徴は、まず共催事業での協力及び貸与については、海外へ大量のフィルムの提供・貸出が目立ったこと、特別映写観覧については、アマチュア映画を含む文化・記録映画の観覧が顕著だったこと、複製利用については、日本ニュース映画への大量の複製申請や海外でのデジタル復元に伴う素材提供が特筆できる。

映画フィルムの貸与では、海外との共催事業として、第28回チネマ・リトロバート映画祭特集企画「日本が声を上げる！ パート3：松竹映画特集」において、最初期トーキー映画作品を10本、第13回モントリオール・ケベックシティ国際フェスティバル「大藤信郎・政岡憲三回顧展」において、両監督作品を16本、イェール大学東アジア研究センターとの共催による「一匹狼と野良犬たち——日本の犯罪映画 1931～1969」において10本のフィルムの貸出を行った。また、シネマテーク・フランセーズ主催による深作欣二監督の回顧展に日本劇映画21本を、ファンタジーシュ国際アニメーション映画祭に日本アニメーション映画5本のプリントを貸与した。

国内での協力のうち、共催事業では、引き続き京都国立近代美術館との間で開催した「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2014」において、4回の上映会に対し日本劇映画4本、外国劇映画8本を、国立国際美術館との間で開催した「第9回中之島映像劇場」においては、時代劇ミュージカルの日本劇映画2本を提供し、関西における所蔵フィルムの定期的な上映拠点として、より堅固な地盤を築くことができた。また、一般社団法人コミュニ

ティシネマセンターとの共催による巡回上映事業では、平成25年度に引き続き開催した「蘇ったフィルムたち 東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集」において日本映画34本を、平成26年度よりスタートした「MoMA ニューヨーク近代美術館 映画コレクション」では、新規に収集した外国映画12本のプリントを提供した。通常の貸与では、川崎市市民ミュージアム、鎌倉市川喜多映画記念館、神戸映画資料館、京都府京都文化博物館、アンスティチュ・フランセ日本等が主催する上映会や、仙台短篇映画祭、京都国際映画祭等の映画祭、並びに神保町シアター、新文芸坐、ラピュタ阿佐ヶ谷、シネマヴェーラ渋谷等の名画座における特集上映に対して、番組に欠くことのできない作品の所蔵プリントの貸与を行った。

特別映写観覧については、大学等教育研究機関、映画関連団体、映画及びテレビ番組製作会社、映画・映像に係る非営利法人等による調査・研究・研修等に、所蔵プリントの試写を通して寄与した。

複製利用については、平成26年度も著作権者等による運用、美術館・博物館等における展示作品の充実、映像作品や番組における資料としての映像提供等に寄与したが、中日映画社から5回に亘る申請により『中日ニュース』『中日映画ニュース』全1,471本の大量利用を受けるとともに、イタリア映画実験センター、フリートリヒ・W・ムルナウ財団からデジタル復元のための元素材として、所蔵フィルムの利用に応じ、両機関の活動に貢献することができた。

映画関連資料については、国外ではスイスの「日本アート・シアター・ギルドポスター展」に対するポスター貸与、国内では鎌倉市川喜多映画記念館への資料貸与が特筆される。また資料の特別観覧については、大学等の教育研究機関、出版社、映画及びテレビ番組製作会社などに対し、所蔵資料の提供や観覧サービスを行った。

## (5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

### ① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施等

9年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、より多くの方々と研修成果を共有するため、従来冊子として発行してきた研修記録を平成23年度からウェブサイトで公開しているが、平成26年度も引き続き公開した。また、本研修において「教員免許状更新講習」を実施した。

- ・参加人数：99名（小中学校教諭31名，中学校教諭33名，指導主事8名，学芸員25名，その他2名）
- ・会 期：平成26年8月4日，5日（2日間）
- ・会 場：東京国立近代美術館（8月4日），国立新美術館（8月5日）
- ・教員免許状更新講習：受講者16名（全員に履修証明書を授与）

京都国立近代美術館では、京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会との共催で、小学校教員を対象に鑑賞教育の指導力向上に向けた講座を開催した。講演会、展覧会鑑賞、グループワーク等を実施し、30名の参加者があった。

国立国際美術館では、大阪市教育センター、大阪市小学校教育研究会図画工作部等と連携して、大阪府市内小・中学校の図画工作・美術教員を対象に研修会を4回実施し、計85名の参加者があった。

## ② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発

### ア 国立美術館全体としての取組

引き続き、各館から学校へ、鑑賞教材「国立美術館アートカード」の貸出をするほか、教員の研修などの機会をとらえて紹介している。

また、科研費基盤B「美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発」（代表：一條彰子・東京国立近代美術館主任研究員）の研究成果に基づき、東京国立近代美術館（本館・工芸館）、国立西洋美術館、東京国立博物館の所蔵作品による鑑賞教育のパイロット・プログラムをウェブ上に公開した。

### イ 東京国立近代美術館

工芸館では、「所蔵作品展 もようわくわく」展開催にあたり、セルフガイド（2種）及びワークシート（1種）を作成した。小学生以下を対象とする子ども向けセルフガイドはスタンプラリー付の地図をイメージしたデザインとして、6点の対象作品を探しながら鑑賞し、児童の達成感を充足させるように努めた。一方、中学生以上を対象とする大人向けのセルフガイドには、子ども向けと同じ6点の作品を取り上げながら、作家情報や歴史的背景、素材技法の情報を詳細に掲載した。ワークシートは中学生以下を対象とするもので、児童生徒が鑑賞によって得た知識や感情を絵と言葉でアウトプットする内容とした。

### ウ 京都国立近代美術館

10代の若い世代を対象とした教育普及事業として「平成26年度学習支援事業 10代のためのプロジェクト「美術館の放課後」」を実施した。これは館内のフリースペースにワークルームという空間を作り上げ、そのスペースを自由に活用することを促すとともに、定期的にワークショップを行うものである。空間デザイン、食文化やアニメーション、小説など、多様なテーマで青少年が美術館と関わりを持つ機会を提供し、来館の少ない世代や層に対してアプローチした。

## （6）美術館活動を担う中核的人材の育成

館名		インターンシップ受入数	博物館実習受入数
東京国立近代美術館	本館	5	—
	工芸館	4	0
	フィルムセンター	2	15
京都国立近代美術館		5	—
国立西洋美術館		3	—
国立国際美術館		7	—
国立新美術館		7	—
計		33	15

(7) 全国的美術館等との連携・人的ネットワークの構築

① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館名		共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館	本館	2	1
	工芸館	0	0
	フィルムセンター	8	1
京都国立近代美術館		7	10
国立西洋美術館		0	2
国立国際美術館		3	5
国立新美術館		6	9
計		26	28

特記事項（共同研究によって特に得られた成果等）

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

「菱田春草展」では永青文庫、熊本県立美術館、東京文化財研究所、東京藝術大学等と協力し作品に使われた絵具の科学的分析を行い、その成果を図録に発表した。

(フィルムセンター)

- ・「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2014」（京都国立近代美術館との共催）及び「第9回中之島映像劇場」（国立国際美術館との共催）については、各館と協議しながら作品の選定、提供を行い、関西における所蔵フィルムの定期的な上映拠点として、より堅固な地盤を築くことができた。また、京都国立近代美術館と共催で「チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより」展を開催した。
- ・映画美術資料を調査及び整理するとともに、その画像をデジタル化し、若手美術監督等の育成及び映画美術の研究に活用することを目的とする「日本映画美術遺産プロジェクト」を協同組合日本映画・テレビ美術監督協会と引き続き共同で進めている。

(イ) 京都国立近代美術館

東京国立近代美術館フィルムセンターと共催で「チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより」展を開催したほか、同館と共催の映画会「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2014」を、4回（計8日）開催した。

(ウ) 国立西洋美術館

共同研究による企画展等については、以下の通り実施した。

1. 「日本・スイス国交樹立 150 周年記念 フェルディナント・ホドラー展」（ベルン美術館、スイス芸術学研究所、兵庫県立美術館）
2. 「グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家」（ボローニャ文化財・美術監督別監督局、チェント市美術館）

(エ) 国立国際美術館

- ・「ジャン・フォートリエ展」を東京ステーションギャラリー、豊田市美術館と、「フィオナ・タン まなざしの詩学」を東京都写真美術館との巡回により開催。

- ・第9回中之島劇場「時代劇ミュージカル ジャンル映画の享楽」を東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催により開催。
- ・上記3件に加え、平成27年度に開催予定の「高松次郎 制作の軌跡」に関して東京国立近代美術館と、同じく平成27年度に開催予定の「他人の時間」に関して東京都現代美術館、シンガポール美術館、クイーンズランド州立美術館と共同研究を実施。

(オ) 国立新美術館

国内外の機関のコレクションを紹介する展覧会を数多く開催し、所蔵館との緊密な連携のもと展覧会を企画した。「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」展では国立民族学博物館と、「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」ではオーストラリア国立美術館と、「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」ではオルセー美術館と、「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」ではチューリヒ美術館と、「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」ではルーヴル美術館と、「マグリット展」ではベルギー王立美術館と共同して準備を進めた。

また、平成27年度に開催予定の「アーティスト・ファイル2015」展については、平成25年度から引き続き韓国国立現代美術館と共同で調査にあたりつつ、企画内容を固めた。

② キュレーター研修

館名	受入人数
東京国立近代美術館（本館・工芸館）	4
京都国立近代美術館	0
国立西洋美術館	1
国立国際美術館	2
国立新美術館	1
計	8

(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動

① 国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) の正会員としての活動

- ・ニューヨーク近代美術館 (MoMA) 映画部門の特別協力を得て「MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション」を開催した。
- ・フィルムアルヒーフ・オーストリアの特別協力を得て「シネマの冒険 闇と音楽 2014 フィルムアルヒーフ・オーストリアの無声映画コレクション」を開催した。
- ・福岡市総合図書館との共同主催により「現代アジア映画の作家たち 福岡市総合図書館コレクションより」を開催した。

いずれの機関も FIAF 加盟機関であり、その連携を活かした上映会となった。

② 日本映画情報システムの運営

文化庁が実施する「日本映画情報システム」については、文化庁主導で民間へ委託することで運営管理を行っている。東京国立近代美術館フィルムセンターとしては、旧作に関する情報提供の協力は終了したが、東京国立近代美術館フィルムセンター公開データベースへの接続に関する協力は引き続き行っている。

### ③ 所蔵映画フィルム検索システムの拡充

「所蔵映画フィルム検索システム」については、平成 26 年度は日本劇映画のレコード 268 件を新たに公開し、公開件数は 6,721 件となった。

### ④ 映画関係団体等との連携

- ・国内団体との連携は、共催巡回事業を通じて、一般社団法人コミュニティシネマセンターとの連携及び実施会場となった川崎市アートセンター、金沢 21 世紀美術館、神戸アートビレッジセンター、広島市映像文化ライブラリー、山口情報芸術センター、映画の楽校(高松)、高知県立美術館への協力を行った。映画フィルムの貸与を通じては、川崎市市民ミュージアム、鎌倉市川喜多映画記念館、神戸映画資料館、京都府京都文化博物館等への協力を行った。また、特別映写観覧を通じては、日本映画撮影監督協会、シナリオ作家協会、国際日本文化研究センター、北海道大学、立教大学、明治学院大学、東海大学、桜美林大学等への協力を行った。
- ・海外団体との連携は、フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ、シネマテーク・ケベコワーズ(ともに FIAF 加盟機関)との共催事業において、番組編成、カタログ執筆、プリント提供等を通じて、協力を行った。映画フィルムの貸与を通じては、シネマテーク・フランセーズ(フランス)、フィルムアルヒーフ・オーストリア、タイ国立フィルム・アーカイブ、クィーンズランド・アート・ギャラリー(オーストラリア)、キノテカ・ナ・マケドニア、ユーゴスロヴェンスカ・キノテカ(セルビア。以上 FIAF 加盟機関)、パリ日本文化センター(フランス)、ジャパン・ソサエティ(アメリカ)等への協力を行った。また、特別映写観覧を通じては、ドイツ日本研究所(ドイツ)、ソルボンヌ・ヌーヴェルパリ第 3 大学(フランス)等への協力を行った。
- ・日本映画・テレビ美術監督協会との連携による「日本映画美術遺産プロジェクト」は 5 年目となり、映画美術資料のデジタル化と目録化、保存を進めている。また、シナリオ作家協会との協議により、同協会会員の旧蔵シナリオのフィルムセンターへの寄贈が開始され、脚本家三村伸太郎旧蔵資料の寄贈が行われた。さらに、映画関連資料の貸与を通じて、鎌倉市川喜多映画記念館への協力を行った。

### ⑤ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討

引き続き館の内外で独立のための検討を行った。特に、外部資金の導入について具体的な可能性を模索した。

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 業務の効率化のための取組

#### (1) 各美術館の共通的な事務の一元化

引き続き、理事長の指示による事務局長のトップマネジメントの下、各館の事務組織が有機的に連携し、効果的・効率的な業務を遂行した。また、法人内で採用しているVPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いたグループウェア及びテレビ会議システム、特にテレビ会議システムについては、定期的な会議等に積極的に活用している。

#### (2) 使用資源の削減

##### ① 省エネルギー（5年計画中に5%の削減）

###### ● 使用量，使用料金の削減割合（対前年度比）

館名	使用量			使用料金		
	電気	ガス	合計	電気	ガス	合計
東京国立近代美術館本館	100.0%	97.8%	99.0%	108.4%	107.3%	108.0%
東京国立近代美術館工芸館	97.4%	—	97.4%	102.9%	—	102.9%
東京国立近代美術館フィルムセンター	105.6%	—	105.6%	113.4%	—	113.4%
東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館	112.1%	—	112.1%	115.9%	—	115.9%
京都国立近代美術館	98.0%	121.6%	102.0%	92.6%	81.8%	90.9%
国立西洋美術館	98.1%	96.6%	97.5%	109.0%	107.5%	108.4%
国立国際美術館	92.5%	—	92.5%	99.5%	—	99.5%
国立新美術館	102.3%	96.4%	100.5%	109.4%	104.4%	107.9%
計	101.2%	97.2%	100.1%	108.5%	105.2%	107.6%

※東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター・フィルムセンター相模原分館及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。

※使用量の合計は、電気は一般電気事業者からの昼間買電を9.97GJ/千kWh、夜間買電を9.28GJ/千kWh、特定規模電気事業者からの買電を9.76GJ/千kWh、都市ガスを45GJ/千kWhに換算し得た熱量に0.0258kl/GJを乗じて得た原油換算量を、各施設の延床面積で除した値（原単位）を基礎とする（エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づく）。

###### ● 特記事項（増減の理由等）

国立美術館全体においては、業務の特殊性から展覧会場や美術作品収蔵庫において一定の温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの、引き続き、美術作品のない区画における空調機の設定温度の適格化（夏季28℃、冬季19℃）、夏季における服装の軽装化、不使用設備機器類のこまめな停止及び職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき、エネルギー管理統括者の元で、省エネルギー計画策定等を行い、各館において可能な箇所から施設設備の改修を行い、省エ



エネルギー効果を高めた。特に、国立新美術館においては、引き続き、BEMS (Building and Energy Management System)により、詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い、その情報を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し、省エネルギー対策に生かすなどの取組を行っている。

更に、平成 25 年度に引き続いて「2014 年度夏季の電力需給対策について (26 文科施第 92 号)」及び「2014 年度冬季の電力需給対策について (26 文科施第 327 号)」を踏まえた節電対策を実施した。具体的内容は以下のとおり。

(1) 設備・機器等の使用抑制

① 空調に係る節電

- ・部分的な運用，時間的な運用など柔軟に対応
- ・設定温度夏期 28℃，冬期 19℃を徹底（展示室及び収蔵庫等を除く）
- ・節電にも役立つ服装の励行
- ・ブラインドを調節し，夏期は直射日光を遮光，冬期は暖気を確保
- ・空調機のフィルター清掃

② 照明に係る節電

- ・執務室の照明は，最低基準の照度を確保しつつ大幅削減
- ・廊下，ロビー，階段等は，安全確保を優先し極力消灯
- ・昼休みの消灯を徹底
- ・白熱電球の原則使用禁止（代替品のない場合を除く）

③ エレベータ，エスカレータ

- ・必要最小限度の運転，階段利用の促進

④ 衛生設備に係る節電

- ・給湯室，洗面台，電気温水器等の利用時間，設定温度の変更
- ・自動販売機の消灯，設定温度の変更
- ・暖房便座，温水洗浄の停止
- ・便所温風器（手乾かし器）の停止

⑤ OA 機器等

- ・一定期間使用しない場合の電源の切断
- ・節電モードでの使用を徹底
- ・プリンタ，コピー機等の使用制限

⑥ その他

- ・ノー残業デーの推進
- ・冷蔵庫，電気ポット等，家電機器の使用制限
- ・冬期のハロゲンヒーター等の暖房機器の個人使用の禁止
- ・各テナントへの節電の協力要請
- ・サーバ室等個別空調機器の適切な温度設定

(2) 夏期休暇等の確実な取得

業務効率の維持等に留意しつつ，次の取組を推進

- ・夏期休暇の完全取得，夏期における年次休暇の計画的長期取得

(3) その他

- ・超過勤務の一層の縮減
- ・中長期の節電にも資する設備の設置等の検討及び着手
- ・夏季及び冬季における全館一斉休業日の実施

東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館の電気使用量の増加は、平成 26 年 3 月に増築が竣工し、平成 26 年度より稼働したためである。

京都国立近代美術館のガス使用量は、平成 26 年 9 月 13 日～11 月 16 日に開催した「ホイッスラー展」において、通常より多く空調を稼働させたことにより増加している。

なお、法人全体ではエネルギー使用量は 100.1%と横ばいであったが、使用料金は供給各社の値上げ等の影響により 7.6%の増加となっている。

## ② 廃棄物減量化

### ● 排出量、廃棄料金の削減割合（対前年度比）

館名	排出量			廃棄料金	
	一般廃棄物	産業廃棄物	合計	一般廃棄物	産業廃棄物
東京国立近代美術館本館	81.2%	110.1%	90.8%	83.5%	113.3%
東京国立近代美術館工芸館	96.0%	83.3%	93.6%	98.8%	85.7%
東京国立近代美術館フィルムセンター	113.9%	72.6%	78.4%	59.1%	96.5%
京都国立近代美術館	77.8%	99.2%	88.4%	102.9%	100.3%
国立西洋美術館	82.8%	66.1%	78.5%	74.2%	62.4%
国立国際美術館	81.4%	110.4%	85.1%	102.9%	98.5%
国立新美術館	115.7%	57.0%	95.3%	125.6%	50.1%
計	101.5%	68.0%	87.9%	105.8%	67.2%

※東京国立近代美術館フィルムセンターには、東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館を含む。

### ● 特記事項（増減の理由等）

国立美術館においては、開館日数や来館者数の増減による影響など、業務の性質上、廃棄物の計画的な削減が難しいものの、引き続き、事務・研究部門における電子メール、グループウェアの活用による通知文書の発信やサーバ保存文書の共同利用によるペーパーレス化、両面印刷の促進等による用紙の節減に努めるとともに、古紙の分別回収による再資源化を進めることにより、廃棄物の削減を図った。

廃棄物の排出量及び廃棄料金の増加は、来館者数の増加及び展覧会に使用した部材の廃棄に伴う増加といった一時的な要因によるものが主である。

東京国立近代美術館フィルムセンター（相模原分館を含む）及び国立新美術館の一般廃棄物の排出量の増加は、来館者数の増加等によるためである。

国立西洋美術館の排出量は、入館者数が、平成 25 年度から大幅に減少したため、前年度比で排出量が減少した。

国立新美術館の産業廃棄物排出量は、平成 25 年度に蛍光灯の廃棄をまとめて行い、一時的に排出量が増加したため、前年度比で減少となっている。

## ③ リサイクルの推進

平成 25 年度に引き続き、古紙含有率 100%のコピー用紙の利用、廃棄物の分別、OA 機器等トナーカートリッジのリサイクルによる再生使用を行い、リサイクルの推進に努めた。

### (3) 美術館施設の利用推進

#### 外部への施設の貸出

各館の貸出施設名	貸出日数 (平成26年度)	貸出日数 (平成25年度)
東京国立近代美術館本館（講堂）	24日	19日
東京国立近代美術館フィルムセンター（小ホール）	9日	2日
東京国立近代美術館フィルムセンター（会議室）	6日	3日
京都国立近代美術館（講堂）	1日	2日
京都国立近代美術館（会議室）	3日	3日
国立西洋美術館（講堂）	17日	10日
国立西洋美術館（会議室）	16日	6日
国立国際美術館（講堂）	12日	31日
国立国際美術館（会議室）	19日	27日
国立新美術館（講堂）	105日	72日
国立新美術館（研修室A）	109日	95日
国立新美術館（研修室B）	92日	63日
国立新美術館（研修室C）	57日	45日
計	470日	378日

#### ● 特記事項

当該施設については、展覧会事業にあわせた講演会やシンポジウム等に使用するものである。東京国立近代美術館は、積極的に外部への貸出を行うため、貸出条件を緩和する等の改正を行った。国立新美術館は、展示室以外の施設を有効活用することを推進し、貸出日数が増加した。

### (4) 民間委託の推進

#### ① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

(ア) 会場管理業務，(イ) 設備管理業務，(ウ) 清掃業務，(エ) 保安警備業務，  
(オ) 機械警備業務，(カ) 収入金等集配業務，(キ) レストラン運營業務，  
(ク) アートライブラリ運營業務，(ケ) ミュージアムショップ運營業務，  
(コ) 美術情報システム等運営支援業務，(サ) ホームページサーバ運用管理業務，  
(シ) 電話交換業務，(ス) 展覧会アンケート実施業務，(セ) 省エネルギー対策  
支援業務，(ソ) 展覧会情報収集業務

「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り民間競争入札を行った東京国立近代美術館本館及び工芸館の管理運營業務（展示事業の企画等を除く。以下同じ。）並びに東京国立近代美術館フィルムセンターの管理運營業務，国立新美術館の管理運營業務は、契約事務の軽減，統括管理業務導入による事務と委託業務の効率化，民間事業者の相互連携の推進による適確な業務の実施とともに，それぞれの業務の専門的知識を活かした適確な提案による施設設備維持管理と観覧環境の向上に寄与した。

## ② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

(ア) 情報案内業務, (イ) 広報物等発送業務, (ウ) 交通広告等掲載, (エ) ホームページ改訂・更新業務, (オ) インターネット検索サイト, (カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務, (キ) 講堂音響設備オペレーティング業務, (ク) 画像貸出業務

## (5) 競争入札の推進

### 一般競争入札の実績

ア 契約件数及び契約金額 (少額随契を除く) 200 件, 10,020,948,450 円

イ 契約種別毎の年間契約数

① 競争性のある契約 77 件 (38.5%), 2,647,330,806 円 (26.4%)

#### 【内訳】

- ・一般競争入札 59 件, 2,487,621,764 円
- ・企画競争, 公募 17 件, 129,901,042 円
- ・不落随契 1 件, 29,808,000 円

② 競争性のない随意契約 123 件 (61.5%), 7,373,617,644 円 (73.6%)

#### 【内訳】

- ・同一所管公益法人等の契約 2 件, 3,026,001,919 円
- ・同一所管公益法人等以外の法人等 121 件, 4,347,615,725 円  
(うち美術作品の購入に関する随意契約 82 件, 3,735,757,007 円)

ウ 公益調達適正化 (財計第 2017 号) 等に即した実施状況  
別紙 1 を参照

### ● 特記事項

平成 26 年度において、競争性のない随意契約の占める割合は、件数では全体の 61.5%、金額では全体の 73.6%となっている。このうち、同一所管公益法人等の契約 (2 件, 3,026,001,919 円) は、国立新美術館の土地購入及び土地借料である。また、同一所管公益法人等以外の法人等の契約 (121 件, 4,347,615,725 円) の中には、国立美術館特有の業務である美術作品の購入に関する随意契約 (82 件, 3,735,757,007 円) が含まれている。これらの特殊な事由を除く比率で比較すると、競争性のない随意契約の割合は件数で全体の 33.6%、金額は全体の 18.8%となる。

少額随契又は真にやむを得ない場合を除き、一般競争入札や公募、企画競争等の実施により競争性の確保に努めている。

## 2 事業評価及び職員の研修等

### ① 外部有識者による事業評価

#### ア 本部

独立行政法人国立美術館運営委員会を2回(平成26年7月16日及び平成27年2月25日)開催し、平成25年度事業実績並びに、平成26年度事業の実施状況及び平成27年度事業計画(案)について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、独立行政法人国立美術館外部評価委員会を2回(平成26年4月22日及び6月3日)開催し、平成25年度事業実績について説明聴取の上、審議し評価報告書を取りまとめた。

#### イ 東京国立近代美術館

評議員会(美術・工芸部会)を2回(平成26年7月9日及び平成27年2月13日)、評議員会(映画部会)を2回(平成26年6月20日及び平成27年2月20日)開催し、平成25年度事業実績、平成26年度事業の実施状況及び平成27年度事業計画(案)について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### ウ 京都国立近代美術館

評議員会を1回(平成26年7月28日)開催し、平成25年度事業実績、平成26年度年度計画及び事業実施状況について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### エ 国立西洋美術館

評議員会を1回(平成26年11月6日)開催し、平成25年度事業報告及び平成26年度事業計画及び事業実施状況について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### オ 国立国際美術館

評議員会を1回(平成27年2月13日)開催し、平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### カ 国立新美術館

評議員会を2回(平成26年5月9日、平成27年2月19日)開催し、平成25年度事業報告及び平成26年度事業計画(案)等について説明聴取の上、今後の運営について意見交換を行った。

顧問会を2回(平成26年5月13日、平成27年2月26日)開催し、広い見知から現代の美術及び美術館に関する意見をいただいた。

## 3 管理情報の安全性向上

個人情報の保護については、引き続き、個人情報保護に関する説明会への参加や情報漏えいの事例等の通知を行うとともに、個人情報ファイルの保有状況調査の実施等にあわせ、重要書類は鍵のかかる保管庫に納めること、個人情報を取り扱う業務中に離席する際は、当該書類やパソコン画面を他の職員等から見られないような措置を講じること、廃棄する際はシュレッダーにかけることなど、厳格に書類管理を行った。また、あわせてウィルス対応ソフトウェアの導入の徹底や最新のプログラムへの更新を随時行うなど、電子メール等による外部からのウィルス進入を回避する安全策を講じた。

## 4 人件費の抑制、給与体系の見直し

### ① 人件費決算

決算額 926,998千円(対平成25年度比較 110.3%)

・人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

## ② 給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成18年4月から俸給表の水準を全体として平均4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の4分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。また、平成27年4月からは俸給表の水準を平均2%引下げるなど、国家公務員の給与制度の総合的見直しを踏まえた給与体系の見直しを行った。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けると同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成25年度）」平成26年9月2日総務省公表資料を参照。）。

### ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

＜国との比較＞25年度実績

項目	国	国立美術館
平均年齢	43.5歳	41.5歳
学歴（大学卒の割合）	53.6%	68.8%
調整手当支給率 ※1	44.7%	100%

※1 1級地、2級地及び4級地の支給地の割合

＜他の独立行政法人との比較＞25年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	6,341千円	5,805千円
平均年齢	43.6歳	41.5歳
ラスパイレス指数 ※2	104.6	96.0

※2 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

### イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

＜国との比較＞25年度実績

項目	国	国立美術館
平均年齢	45.3歳	46.7歳
学歴（大学卒の割合）	97.6%	100%
調整手当支給率 ※3	61.2%	100%

※3 1級地、2級地及び4級地の支給地の割合

＜他の独立行政法人との比較＞25年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	8,138千円	8,089千円
平均年齢	46.4歳	46.7歳
ラスパイレス指数 ※4	100.3	97.8

※4 国の研究職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

### ウ 常勤役員の年間報酬

25年度実績

項目	全独立行政法人	国立美術館
法人の長	16,067千円	15,095千円
理事	14,741千円	15,163千円

## ③ 平成26年度の役職員の報酬・給与等について

別紙2「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

### Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

#### 1 予算（単位：百万円）

区 分	計画額	決算額	増△減額
収入			
運営費交付金	7,460	7,460	0
展示事業等収入（注1）	1,106	1,262	156
寄附金収入（注2）	—	622	622
施設整備費補助金（注3）	3,596	3,865	269
文化芸術振興費補助金（注4）	—	227	227
計	12,162	13,436	1,274
支出			
運営事業費	8,566	9,276	△710
管理部門経費	1,296	1,361	△65
うち人件費（注5）	293	287	6
うち一般管理費（注6）	1,004	1,075	△71
事業部門経費	7,270	7,914	△644
うち人件費（注7）	790	790	△0
うち展覧事業費（注8）	5,360	5,991	△631
うち調査研究事業費（注9）	181	158	23
うち教育普及事業費（注10）	939	975	△36
施設整備費（注3）	3,596	3,865	△269
文化芸術振興費（注4）	—	227	△227
計	12,162	13,368	△1,206
収支差引	—	68	68

#### 主な増減理由

（注1）入場料収入等の増加による。

（注2）国立美術館が行う事業に対する寄附の受入れによる。

（注3）前年度予算及び前年度補正予算に係る工事の完了による。

（注4）文化庁による美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業及び地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業による。

（注5）昨年度の予定外の退職による職員の減少による。

（注6）設備等の修繕及び更新に係る経費の増加による。

（注7）予定外の退職手当の支給による。

（注8）前年度からの繰越金に係る収蔵品の購入等及び入館者数の増加に伴う経費の増加による。

（注9）業務の見直しによる。

（注10）入館者数の増加に伴う経費の増加による。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

#### ● 特記事項

一般管理費、展覧事業費、調査研究事業費及び教育普及事業費を合わせた物件費は、美術作品購入費の運営費交付金債務の前期繰越額の支出及び入館者数の増加に伴う経費の増加等により、予算に比べ710百万円の支出増となった。

展示事業等収入は、展覧会の入館者数が目標入館者数を上回ったことから、予算に比べ156百万円の収入増となった。

施設整備費補助金は、平成25年度当初予算及び補正予算による工事が当期へ繰越になったこと等により、計画額より269百万円支出増となった。

寄附金については、622百万円を獲得した。うち12百万円を平成26年度の収益とし、残りの610百万円を平成27年度以降に繰り越して執行する予定である。

## 2 収支計画（単位：百万円）

区 分	計画額	決算額	増△減額
費用の部			
経常費用	5,070	5,721	△651
管理部門経費	1,269	1,724	△455
うち人件費 (注1)	293	400	△107
うち一般管理費 (注2)	976	1,324	△348
事業部門経費	3,634	3,814	△180
うち人件費 (注3)	790	679	111
うち展示事業費 (注4)	1,754	1,915	△161
うち調査研究事業費 (注5)	176	235	△59
うち教育普及事業費 (注6)	914	984	△70
減価償却費	167	183	△16
収益の部			
経常収益	5,070	5,755	685
運営費交付金収益 (注7)	3,797	3,903	106
展示事業等の収入 (注8)	1,106	1,262	156
資産見返運営費交付金戻入	150	168	18
資産見返寄附金戻入	3	3	0
資産見返物品受贈額戻入	14	11	△3
資産見返補助金等戻入	—	0	0
補助金等収益 (注9)	—	94	94
寄附金収益	—	17	17
施設費収益 (注10)	—	298	298
経常利益		34	
臨時損失		0	
臨時利益		—	
当期純利益		34	
前中期目標期間繰越積立金取崩額		2	
当期総利益		36	

### 主な増減理由

(注1) 支出経費の見直しによる。

(注2) 設備等の修繕及び更新に係る経費の増加等による。

(注3) 支出経費の見直しによる。

(注4) 入館者数の増加に伴う経費の増加による。

(注5) 補助金による経費の増加による。

(注6) 入館者数の増加に伴う経費の増加による。

(注7) 運営費交付金による固定資産の取得が見込より少なかったことによる。

(注8) 入場者数の増加による。

(注9) 補助金による支出による。

(注10) 施設整備費補助金による工事の完了による。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。



### 3 資金計画（単位：百万円）

区分	計画額	決算額	増△減額
資金支出	12,162	13,747	△1,585
業務活動による支出（注1）	8,464	9,656	△1,192
投資活動による支出（注2）	3,698	4,091	△393
財務活動による支出	—	—	—
資金収入	12,162	13,489	1,327
業務活動による収入	8,566	9,330	764
運営費交付金による収入	7,460	7,460	0
展示事業等による収入（注3）	1,106	1,870	764
投資活動による収入	3,596	4,159	563
施設整備補助金による収入（注4）	3,596	4,159	563
資金増減額		△257	
資金期首残高		1,955	
資金期末残高		1,697	

主な増減理由

（注1）運営費交付金の前期繰越額による美術品・収蔵品の購入による。

（注2）平成25年度補正予算による工事の完了による。

（注3）入場料収入等の増加による。

（注4）平成25年度施設整備費補助金の精算に伴い、一部が平成26年度の収入となったこと及び平成26年度施設整備費補助金の精算に伴い、一部が平成27年度の収入になることによる。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

### 4 貸借対照表（単位：百万円）

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
I 流動資産	2,442	I 流動負債	2,223
II 固定資産		II 固定負債	1,077
1. 有形固定資産	176,821	負債合計	3,300
2. 無形固定資産	14,996		
固定資産合計	176,836	純資産の部	
		I 資本金	81,019
		II 資本剰余金	94,378
		III 利益剰余金	36
		純資産合計	175,978
資産の部合計	179,278	負債及び純資産の部合計	179,278

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

### 5 短期借入金

実績なし

## 6 重要な財産の処分等

実績なし

## 7 剰余金

### (1) 当期末処分利益の処分計画

区分	金額（円）
I 当期末処分利益	35,512,685
当期総利益	35,512,685
II 利益処分額	
独立行政法人通則法第44条第3項により 主務大臣の承認を受けようとする額	
施設設備積立金	15,512,685
調査研究事業積立金	10,000,000
資料収集事業積立金	10,000,000

平成26年度未処分利益については、中期計画の剰余金の使途において定めた施設・整備の充実、調査研究事業の充実及び資料の収集事業の充実に充てるため、独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律第百三号）第44条第3項に定める目的積立金として申請する。

### (2) 利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

#### ● 特記事項

国立新美術館で開催した「オルセー美術館展 印象派の誕生ー描くことの自由ー」が目標入館者数455,000人に対して入館者数696,442人であったこと及び「チューリッヒ美術館展ー印象派からシュルレアリスム」が目標入館者数232,000人に対して入館者数300,086人であったこと、並びに「ルーヴル美術館展 日常を描くー風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」の平成26年度中の目標入館者数が98,000人に対して入館者数215,349人であったことなどにより、予算額を上回る自己収入を得ることができた。また、所蔵作品の画像貸出業務について料金等を見直した上で外部委託したこと及び展示室以外の施設の有効活用を積極的に推進したこと等、自己収入を拡大させるための取組を行った。

### (3) 目的積立金の使用状況

今中期目標期間における目的積立金について、平成26年度に使用実績はない。

### (4) 積立金（通則法第44条第1項）の状況（単位：円）

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
前中期目標期間 繰越積立金	377,754,257	-	1,611,791	376,142,466
施設設備積立金	-	31,951,800	-	31,951,800
調査研究事業積立金	-	4,285,595	-	4,285,595
積立金	100,593,497	33,171,544	-	133,765,041

平成26年度は、中期計画の剰余金の使途において定めた施設・整備の充実、調査研究事業の充実及び資料の収集事業の充実に充てるため、独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律

第百三号) 第 44 条第 3 項に定める目的積立金として申請する。また、前中期目標期間繰越積立金の当期減少額はファイナンスリースによる減価償却費相当額である。

## 8 人事に関する計画

### 職種別人員の増減状況 (過去 5 年分)

(単位:人)

職種※	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
定年制研究系職員	57	57	54	50	50
定年制事務系職員	52	51	45	49	47
定年制技能・労務系職員	3	3	3	2	2
指定職相当職員	2	2	1	2	2

① 「公務員の給与改定に関する取扱について (平成 18 年 10 月 17 日閣議決定)」に基づき、公務員の例に準じて措置、対処している。

#### ② 人事交流の推進

事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

#### ③ 職員の研修等

##### ア 東京国立近代美術館

- ・ 人事院主催「平成 26 年度関東地区新採用職員研修」 (1 名)
- ・ 国立美術館「平成 26 年度メンタルヘルス研修」 (7 名)
- ・ 国立美術館「平成 26 年度接遇・クレーム・仕事の進め方研修」 (3 名)
- ・ 東京大学主催「平成 26 年度東京大学係員研修 (7 年経験者)」 (2 名)
- ・ 国立公文書館主催「平成 26 年度公文書管理研修 I (第 1 回)」 (1 名)
- ・ 放送大学「科目履修生」 (1 名)
- ・ 避難誘導訓練 (本館:平成 26 年 8 月 21 日, 工芸館:平成 27 年 3 月 12 日)
- ・ フィルムセンター消防訓練 (京橋:平成 26 年 7 月 15 日)

##### イ 京都国立近代美術館

- ・ 文化庁「平成 26 年度図書館等職員著作権実務講習会」 (1 名)
- ・ 日本博物館協会 (文部科学省スポーツ・青少年局委託事業)「平成 26 年度日独青少年指導者セミナー『博物館における青少年教育』」 (1 名)
- ・ 総務省近畿管区行政評価局「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」 (1 名)
- ・ 大阪教育大学「平成 26 年度大阪教育大学中堅職員研修」 (1 名)
- ・ 経済調査会「印刷費積算講習会」 (2 名)
- ・ 経済調査会「官庁契約・公共工事と会計検査講習会」 (2 名)
- ・ 国立美術館「平成 26 年度メンタルヘルス研修」 (2 名)
- ・ 国立美術館「平成 26 年度接遇・クレーム・仕事の進め方研修」 (2 名)
- ・ 自衛消防訓練 (平成 27 年 3 月 23 日)

##### ウ 国立西洋美術館

- ・ 国立美術館「平成 26 年度新任職員接遇・クレーム・仕事の進め方研修」 (2 名)
- ・ 国立美術館「平成 26 年度メンタルヘルス研修」 (4 名)
- ・ 国立公文書館「平成 26 年度公文書管理研修 I (第 4 回)」 (1 名)

- ・国立公文書館「平成 26 年度公文書管理研修Ⅱ（第 1 回）」（1 名）
- ・人事院主催「平成 26 年度関東地区新採用職員研修」（1 名）
- ・人事院主催「平成 26 年度関東地区女性職員登用推進セミナー」（1 名）
- ・国立大学法人「関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」（1 名）
- ・全国美術館会議「第 29 回学芸員研修会」（1 名）
- ・避難誘導訓練（平成 27 年 3 月 23 日）

#### エ 国立国際美術館

- ・国立公文書館「平成 26 年度公文書管理研修Ⅰ（第 4 回）」（1 名）
- ・平成 26 年度大阪大学係長研修（新任）（1 名）
- ・国立美術館「平成 26 年度接遇・クレーム・仕事の進め方研修」（2 名）
- ・人事院主催「第 72 回近畿地区中堅係員研修員研修」（1 名）
- ・文化庁主催「第 4 回ミュージアム・マネジメント研修」（2 名）
- ・中之島まちみらい協議会「中之島エリアの防災図上訓練」（2 名）
- ・消防避難訓練（平成 26 年 1 月 26 日）

#### オ 国立新美術館

- ・財務省会計センター主催「第 4 3 回会計事務職員契約管理研修」（1 名）
- ・公益財団法人文化財虫害研究所主催「第 36 回 文化財の虫菌害・保存対策研修会」（2 名）
- ・国立美術館「平成 26 年度接遇・クレーム研修」（5 名）
- ・国立美術館「平成 26 年度メンタルヘルス研修」（6 名）
- ・第 40 回幼児造形教育研究会 夏の研修大会（1 名）
- ・平成 26 年度図書館等職員著作権実務講習会（2 名）
- ・東京大学主催 「平成 26 年度東京大学課長級研修」（1 名）
- ・自衛消防・防災訓練（平成 26 年 10 月 28 日，平成 27 年 2 月 17 日）
- ・東京大学主催 「平成 26 年度東京大学係長級研修（初任者）」（1 名）
- ・放送大学「科目履修生」（4 名）

## 9 施設整備に関する計画

東京国立近代美術館防災設備更新工事，国立西洋美術館企画展示館空調設備改修工事，国立西洋美術館新館熱源機器設備等改修工事及び国立西洋美術館屋上防水改修工事について平成 26 年度に竣工した。また，平成 24 年度から 3 年計画の京都国立近代美術館電気設備等更新について 3 年目の工事を行い，平成 25 年度から 2 年計画の京都国立近代美術館昇降機設備等改修について 2 年目の工事を行った。さらに，平成 19 年度からの継続事業として国立新美術館の土地購入を行った。

## 10 関連公益法人

該当なし。

「公共調達適正化について」（財計第 2017 号）等に即した独立行政  
法人における実施状況調書  
（独立行政法人名 国立美術館）

1. 公共調達適正化の実施状況

(1) 再委託の適正化を図るための措置

措置済み      ・一部未措置 (      )      ・未措置 (      )

(2) 契約に係る情報の公表

措置済み      ・一部未措置 (      )      ・未措置 (      )

○各支店・支社等で公表を行っている場合に、法人のメインの公表  
ページへの直接リンクを行っているか

措置済み      ・未措置 (      )      ・支店等がない

(3) 公共調達に関する問合せの総合窓口の設置

措置済み      ・未措置 (      )

○措置済みと回答した場合

・連絡先等（本部事務局財務担当係）

・URL（<http://www.artmuseums.go.jp>）

(4) 内部監査の実施

(イ) 監査計画等に随意契約の重点的監査を記載

措置済み      ・未措置 (      )

(ロ) 監査マニュアル等の整備

措置済み      ・未措置 (      )

(ハ) 内部監査の実施状況をデータベース化している。

措置済み      ・未措置 (      )

(5) 決裁体制の強化

措置済み      ・未措置 (      )

・具体的な措置内容（複数の係による監査を行っている）

2. 随意契約の適正化の一層の推進の実施状況

(1) 随意契約見直し計画の厳正な実施の徹底

措置済み      ・一部未措置 (      )      ・未措置 (      )

(2) 監事の入札・契約の適正な実施についての徹底的なチェック

- 措置済み   ・未措置（        ）
- (3) 府省の独立行政法人評価委員会による、入札・契約事務の適正執行についての厳正な評価
- 措置済み   ・未措置（        ）

3. 平成 25 年度各独立行政法人が行う随意契約の見直し状況フォローアップについての公表状況

- 公表済み   ・未措置（        ）
- 公表済みと回答した場合
- ・ URL（<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>）

4. 平成 26 年度に締結した「競争性のない随意契約」に係る契約情報の公表状況

【第 1・四半期分】

- 公表済み   ・未措置（        ）
- 公表済みと回答した場合
- ・ URL（<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>）

【第 2・四半期分】

- 公表済み   ・未措置（        ）
- 公表済みと回答した場合
- ・ URL（<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>）

【第 3・四半期分】

- 公表済み   ・未措置（        ）
- 公表済みと回答した場合
- ・ URL（<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>）

【第 4・四半期分】

- 公表済み   ・未措置（        ）
- 公表済みと回答した場合
- ・ URL（<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>）

5. 平成 26 年度に締結した「競争性のない随意契約」に係る契約情報の公表状況

【第 1・四半期分】

- 公表済み   ・未措置（        ）
- 公表済みと回答した場合
- ・ URL（<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>）

【第2・四半期分】

- 公表済み ・ 未措置 ( )
- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第3・四半期分】

- 公表済み ・ 未措置 ( )
- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第4・四半期分】

- 公表済み ・ 未措置 ( )
- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

6. 「1者応札・1者応募」に係る改善方策の公表状況
----------------------------

- 公表済み ・ 未措置 ( )
- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【記載要領】

- ・ いずれかを○で囲むこと
- ・ 一部未措置又は未措置である場合は、実施予定時期を記載すること

## I 役員報酬等について

## 1 役員報酬についての基本方針に関する事項

## ① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。理事においてもこれら多岐に渡る業務を遂行する理事長の職務を補佐するにあたり、相当の専門的能力が求められる。以上により役員報酬の設定にあたっては、国家公務員の指定職、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の長を参考とした。

## ② 平成26年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則により役員に支給される報酬のうち、期末特別手当においては、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別の業績評価、役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案して理事長が決定する評価に基づき、期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。平成26年度においては、平成25年度の評価結果を基に検討の結果、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

## ③ 役員報酬基準の内容及び平成26年度における改定内容

## 法人の長

役員報酬支給基準は、月額及び期末特別手当から構成されている。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(984,000円)及び地域手当(俸給月額の18%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の147.5、12月に支給する場合においては100分の162.5を乗じて得た額としている。また、文部科学省独立行政法人評価委員会が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。なお、平成26年度では、平成24年4月1日から平成26年3月31日までの特例期間における減額措置を終え、国の給与水準と同様とした。また、給与法指定職の改定に準拠した期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.15ヶ月分)を実施した。

## 理事

役員報酬支給基準は、法人の長と同様である。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(720,000円から984,000円までの範囲内で理事長が決定する額)及び地域手当(東京都23区18%、大阪府15%、京都市10%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の147.5、12月に支給する場合においては100分の162.5を乗じて得た額としている。また、文部科学省独立行政法人評価委員会が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。なお、平成26年度では、平成24年4月1日から平成26年3月31日までの特例期間における減額措置を終え、国の給与水準と同様とした。また、給与法指定職の改定に準拠した期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.15ヶ月分)を実施した。

## 監事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額80,000円としている。なお、平成26年度においては改定は行っていない。



2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成26年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
		報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
法人の長	千円 19,062	千円 11,808	千円 5,082	千円 2,125 (地域手当) 46 (通勤手当)			
A理事	千円 15,639	千円 10,944	千円 3,036	千円 1,094 (地域手当) 145 (通勤手当) 420 (単身赴任手当)	H26.4.1		
B理事	千円 17,277	千円 10,944	千円 4,608	千円 1,642 (地域手当) 83 (通勤手当)			
C理事	千円 15,083	千円 9,312	千円 4,008	千円 1,676 (地域手当) 87 (通勤手当)			◇
D監事 (非常勤)	千円 960	千円 960	千円 0	千円 0 ( )			
E監事 (非常勤)	千円 960	千円 960	千円 0	千円 0 ( )			

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「\*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*※」、該当がない場合は空欄

### 3 役員の報酬水準の妥当性について

#### 【法人の検証結果】

##### 法人の長

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。

そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。

理事長の年間報酬額は、事務次官の年間給与額2,265万円と比べてもそれ以下となっている。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人(国立文化財機構/日本芸術文化振興会)の長の報酬水準は、年間1,800万円を超えている。

こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

##### 理事

理事の職務においては上記理事長の多岐に渡る業務を補佐するに当たり、相当の専門性を求めている。

また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の理事の報酬水準は、年間1,500万円を超えている。

理事の年間報酬算定に当たり、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

##### 監事(非常勤)

監事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに業務内容、想定勤務日数等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事(非常勤)との比較を踏まえ、報酬水準は妥当であると考えられる。

#### 【主務大臣の検証結果】

専門性の観点及び同等分野の法人との比較において報酬水準は妥当であると考え。また、国及び民間との比較においても、報酬水準は下回っていること等から報酬額は適正であると考え。引き続き適正な報酬額の維持に努めていただきたい。

4 役員の退職手当の支給状況(平成26年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	前職
	千円	年	月			
法人の長	12,054	8	4	H25.7.7	1.0	※
理事	4,563	4	0	H25.6.30	1.0	※

注:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「\*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*※」、該当がない場合は空欄

法人の長、理事については、平成25年度に仮の業績勘案率により算出した支給額(法人の長:12,054千円、理事:4,563千円)を当該役員に対して支給していたが、当該役員が在職した期間の業績勘案率が決定したことにより確定した退職手当の総額である。

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	業績勘案率については、当該法人の長の在職した期間に係る業績評価及び在職中の個人的な業績を勘案し、文部科学省独立行政法人評価委員会において1.0と決定された。
理事A	業績勘案率については、当該理事の在職した期間に係る業績評価及び在職中の個人的な業績を勘案し、文部科学省独立行政法人評価委員会において1.0と決定された。

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

当法人においては、退職手当の額は、在職期間1月につき、退職した日におけるその者の俸給月額に100分の10.875の割合を乗じて得た額に文部科学省独立行政法人評価委員会が0.0から2.0の範囲内で業績に応じて決定する業績勘案率を乗じて得た額としている。

## II 職員給与について

### 1 職員給与についての基本方針に関する事項

#### ① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

独立行政法人通則法第63条第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢(国家公務員の給与水準)に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定している。

#### ② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

給与種目	制度の内容
俸給月額 (昇格)	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額 (昇給)	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与:勤勉手当 (査定分)	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。

#### ③ 給与制度の内容及び平成26年度における主な改定内容

独立行政法人国立美術館職員給与規則に則り、俸給及び諸手当(扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、超過勤務手当、休日出勤手当、夜勤手当、管理職手当、主任研究員手当、期末手当及び勤勉手当)としている。

期末手当については、期末手当基準額(俸給+扶養手当+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に6月に支給する場合においては100分の122.5、12月に支給する場合においては100分の137.5を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合を乗じて得た額としている。

勤勉手当については、勤勉手当基準額(俸給+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に勤勉手当の支給基準に従って定める割合を乗じて得た額としている。

なお、平成26年度では、平成24年4月1日から平成26年3月31日までの特例期間における減額措置を終え、国の給与水準と同様とした。また、①全俸給表の若年層に重点を置いて俸給水準の引上げ(平均0.3%)、②通勤手当のうち、交通用具使用者に係る支給月額を使用距離の区分に応じ100円から7,100円までの幅で引上げ、③勤勉手当の支給率について、0.15ヶ月分の引き上げ、④平成27年1月の昇給号俸を1号俸抑制した(55歳を超える一般職員、研究職員(技能・労務職員は57歳を超える職員)は良好及び特に良好の勤務成績では昇給しないこととし、極めて良好の場合には1号俸以上の昇給にそれぞれ抑制した)。

## 2 職員給与の支給状況

### ① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成26年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
千円	千円	千円	千円	千円		
常勤職員	89	43.7	7,468	5,623	157	1,845
事務・技術	41	39.6	5,982	4,502	167	1,480
研究職種	46	46.8	8,857	6,668	146	2,189
技能・労務職種	2	-	-	-	-	-

任期付職員	8	46.8	8,919	6,645	141	2,274
指定職種	2	-	-	-	-	-
研究職種	6	38.8	6,203	4,674	124	1,529

非常勤職員	2	-	-	-	-	-
事務・技術	2	-	-	-	-	-

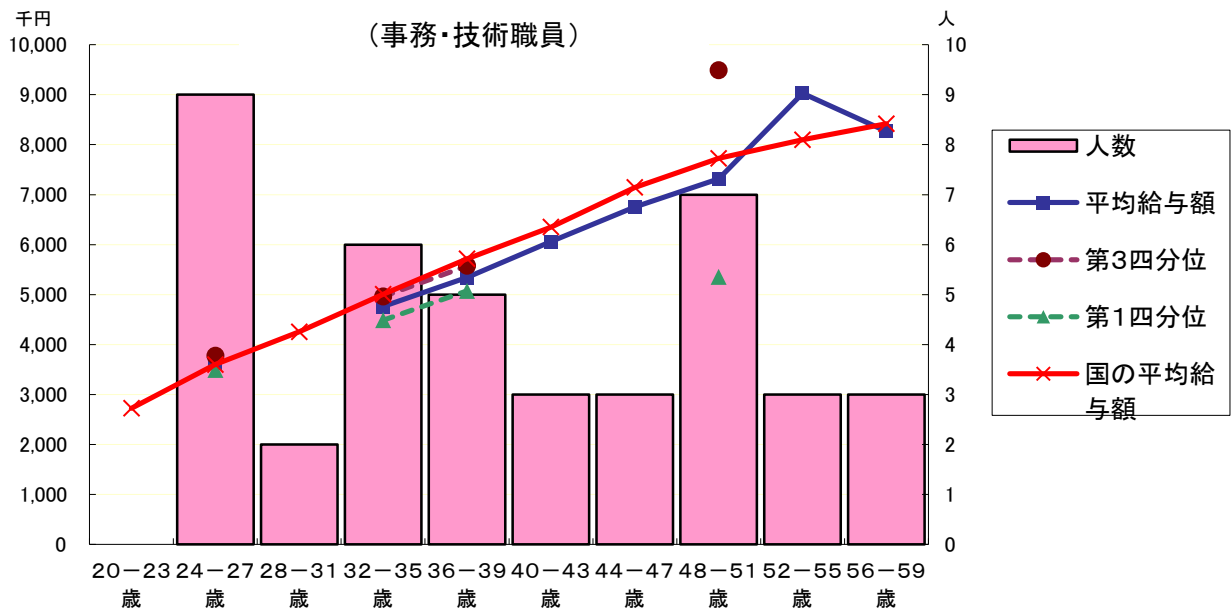
注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3: 技能・労務職種、指定職種、非常勤職員の該当者は2人以下の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

注4: 常勤職員、任期付職員、非常勤職員のうち医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)及び教育職種(高等専門学校教員)、在外職員並びに再任用職員については、該当する者がいないため欄を省略した。

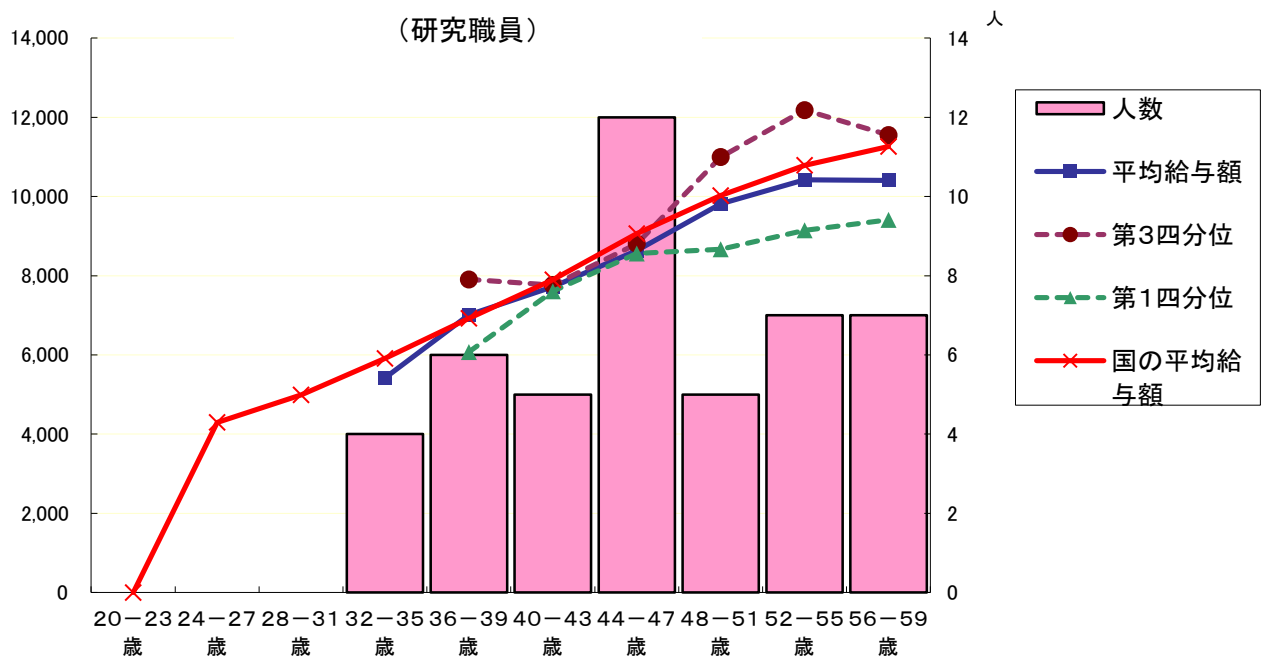
② 年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)〔在外職員，任期付職員及び再任用職員を除く。以下，④まで同じ。〕



注1: ①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下，⑤まで同じ。

注2: 年齢40-43歳，44-47歳，52歳-55歳及び56歳-59歳の該当者については4人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位を表示していない。

注3: 年齢28-31歳の該当者については2人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位及び平均給与額を表示していない。



注1: 年齢32-35歳の該当者については4人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位を表示していない。

③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部部長	1	-	-	-	-
本部課長	2	-	-	-	-
本部係長	3	39.5	5,780	-	-
本部係員	6	26.3	3,751	4,457	3,433
地方課長	3	54.2	8,593	-	-
地方室長	3	53.5	7,505	-	-
地方係長	11	42.0	6,120	7,585	4,953
地方主任	2	-	-	-	-
地方係員	10	30.5	4,246	4,693	3,493

注1: 本部係長, 地方課長, 地方室長, 地方主任の該当者は4人以下のため, 当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから, 最高～最低を記載していない。

注2: 本部部長, 本部課長, 地方主任の該当者は2人以下のため, 当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから, 平均年齢以下の項目を記載していない。

(研究職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
副館長	3	56.5	12,478	-	-
学芸課長	5	53.7	11,096	11,613	9,895
本部主任研究員	1	-	-	-	-
主任研究員	32	46.5	8,454	10,220	6,072
研究員	5	34.3	5,522	5,947	5,085

注1: 副館長の該当者は4人以下のため, 当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから, 最高～最低を記載していない。

注2: 本部主任研究員の該当者は2人以下のため, 当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから, 平均年齢以下の項目を記載していない。

注3: 本法人には本部課長相当職が置かれていないため, 原則として「本部課長」を掲げるところ, 代わりに「学芸課長」を代表的職位として掲げた。

④ 賞与(平成26年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理 職員	一律支給分(期末相当)	% -	% -	% -
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% -	% -	% -
		最高～最低	% -	% -
一般 職員	一律支給分(期末相当)	% 64.5	% 62.1	% 63.2
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 35.5	% 37.9	% 36.8
		最高～最低	% 40.7～32.1	% 42.7～34.7

注:事務・技術職員の管理職員は2人以下のため、記載していない。

(研究職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理 職員	一律支給分(期末相当)	% 55.3	% 53.6	% 54.4
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 44.7	% 46.4	% 45.6
		最高～最低	% 45.1～44.4	% 49.0～45.0
一般 職員	一律支給分(期末相当)	% 64.0	% 62.2	% 63.0
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 36.0	% 37.8	% 37.0
		最高～最低	% 40.7～33.2	% 42.7～35.6



### 3 給与水準の妥当性の検証等

#### ○事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢勘案 97.8</li> <li>・年齢・地域勘案 89.4</li> <li>・年齢・学歴勘案 96.2</li> <li>・年齢・地域・学歴勘案 89.1</li> </ul>
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当無し
給与水準の妥当性の 検証	<p>【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 94.9% (国からの財政支出額 11,552百万円, 支出予算の総額 12,162百万円: 平成26年度予算) 累積欠損額 0円(平成25年度決算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 6.9% (支出総額(平成26年度決算ベース) 13,367,801千円, 給与・報酬等支出 総額 926,999千円) 管理職の割合 2.2%(常勤職員数45名中1名) 大卒以上の割合 79.1%(常勤職員数43名中34名)</p> <p>(法人の検証結果) 俸給表, 諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており, 国からの財政 支出の割合は大きいものの, 対国家公務員指数(年齢勘案)は国を2.2ポイ ント下回っており, 平成26年度の事務職員の給与水準は適切なものであ ると認識している。</p> <p>(主務大臣の検証結果) 給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給 与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めてい ただきたい。</p>
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

○研究職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢勘案 95.9</li> <li>・年齢・地域勘案 93.0</li> <li>・年齢・学歴勘案 95.4</li> <li>・年齢・地域・学歴勘案 92.7</li> </ul>
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の 検証	<p>【国からの財政支出について】            支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 94.9%            (国からの財政支出額 11,552百万円, 支出予算の総額 12,162百万円:            平成26年度予算)            累積欠損額 0円(平成25年度決算)            支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 6.9%            (支出総額(平成26年度決算ベース) 13,367,801千円, 給与・報酬等支出            総額 926,999千円)            管理職の割合 5.8%(常勤職員数52名中3名)            大卒以上の割合 100%(常勤職員数52名中52名)</p> <p>(法人の検証結果)            俸給表, 諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており, 国からの財政            支出の割合は大きいものの, 対国家公務員指数(年齢勘案)は国を4.1ポイ            ント下回っており, 平成26年度の事務職員の給与水準は適切なものである            と認識している。</p> <p>(主務大臣の検証結果)            給与水準の比較指標では国家公務員の水準未滿となっていること等から給            与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めてい            ただきたい。</p>
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

#### 4 モデル給与

- 22歳(大卒初任給、独身)  
月額 174,200円 年間給与 2,640,000円
- 35歳(本部主任、配偶者・子1人)  
月額 280,900円 年間給与 4,676,000円
- 45歳(本部係長、配偶者・子2人)  
月額 360,100円 年間給与 6,073,000円

#### 5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の判定については、規則に基づく勤務の評定、または業務において特に優秀な成績を修めた職員の勤務成績を考慮している。

### Ⅲ 総人件費について

区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 912,147	千円 809,789	千円 840,361	千円 926,999
退職手当支給額 (B)	千円 56,702	千円 80,676	千円 28,349	千円 23,527
非常勤役職員等給与 (C)	千円 302,530	千円 324,790	千円 286,251	千円 319,000
福利厚生費 (D)	千円 152,372	千円 148,191	千円 149,801	千円 163,113
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 1,423,751	千円 1,363,446	千円 1,304,762	千円 1,432,639

注：中期目標管理法人及び国立研究開発法人については中期目標期間又は中長期目標期間の開始年度分から当年度分までを記載する。行政執行法人については当年度分を記載する。

#### 総人件費について参考となる事項

- ①「給与、報酬等支給総額」は対前年度比で10.3%増となった。平成24年4月1日から平成26年3月31日までの特例期間における職員給与の減額措置を終えたこと、また平成26年度人事院勧告を受けた給与改定(俸給表の引き上げ及び12月期勤勉手当成績率の引き上げ)による影響が最も大きい。  
「最広義人件費」は対前年度比で9.8%増となった。増額の主な要因としては、上記と同様の影響が最も大きい。
- ②「国家公務員の退職手当の支給水準引き下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)に基づき、平成25年1月から以下の措置を講じた。
  - ・役職員の退職手当について、経過措置を設け段階的に支給水準の引き下げを実施した。  
役員に関する講じた措置の概要：在職期間1月あたりの支給割合を引き下げた  
平成25年1月1日から(12.5/100→12.25/100)  
平成25年10月1日から(12.25/100→11.5/100)  
平成26年7月1日から(11.5/100→10.875/100)
  - 職員に関する講じた措置の概要：すべての退職者に対し調整率を引き下げた  
平成25年1月1日から(104/100→98/100)  
平成25年10月1日から(98/100→92/100)  
平成26年7月1日から(92/100→87/100)

### Ⅳ その他

特になし